データ通信ガイド

本書は、取扱説明書では触れていないAtermの機能について解説しています。それぞれの項目のボタンをクリックしてください。

1. 手動セットアップ

2. データ通信

3. Atermで使えるメール機能

4. USBネットワーク

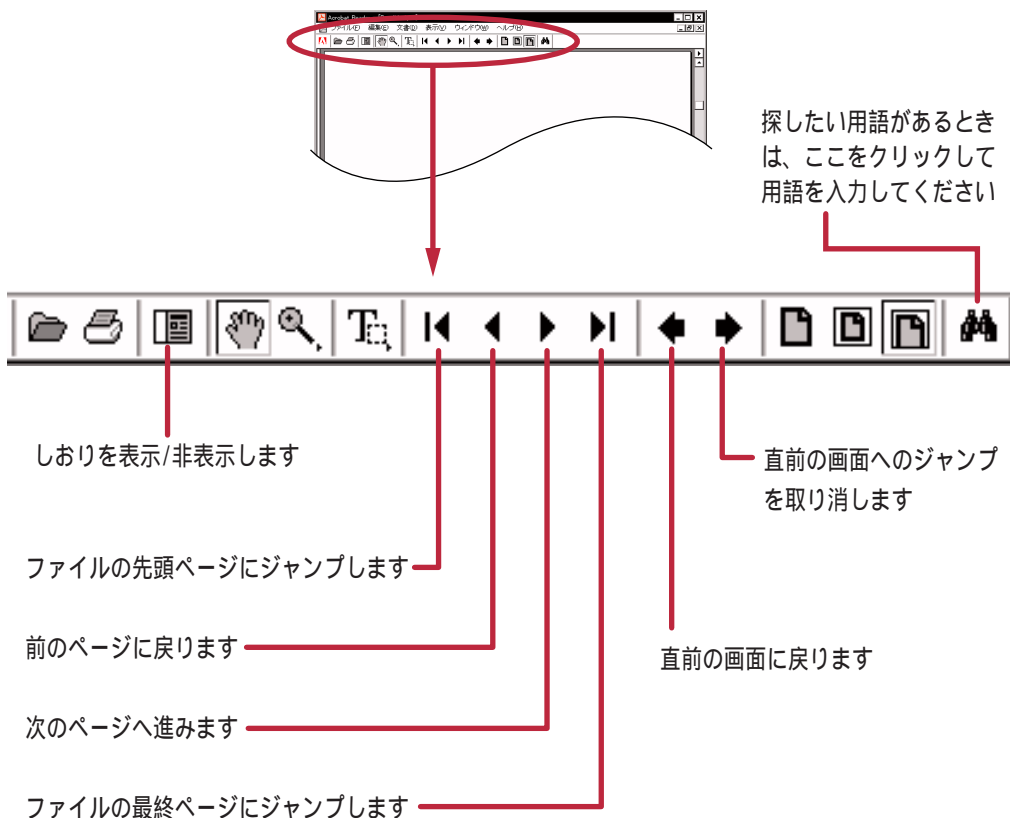
5.Atermのその他の機能

電子マニュアルの
操作のしかた

らくらくアシスタント
の使いかた

2001年1月（第1版）

電子マニュアルの操作のしかた

この電子マニュアルは、AcrobatReaderのツールバーを使って操作してください。操作について詳しくは、ヘルプを参照してください。

文中で マークが に変わる箇所では、関連ページにジャンプすることができます。ジャンプしたあと、元に戻るときは をクリックしてください。

らくらくアシスタントの使いかた

ここでは、らくらくアシスタントの起動・終了のしかた、基本的な設定方法を説明します。

Windows

Macintosh

お願い・・・・・・・・・

らくらくアシスタントをインストールしていない方は、以下のページを参照して、インストールを行ってください。

Windowsをお使いの方　→「Step9　らくらくアシスタントをインストールする」（☞『取扱説明書』2-23ページ）

Macintoshをお使いの方→「Step9　らくらくアシスタントをインストールする」（☞『取扱説明書』2-26ページ）

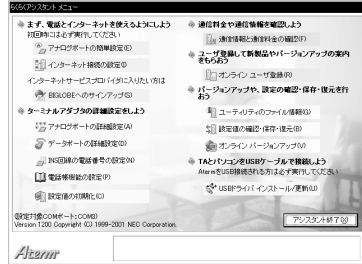
■ Windows の場合 ■

1. [スタート]ボタンをクリックし、[プログラム]−[AtermIT31L/IT21Lユーティリティ]−[Atermらくらくアシスタント]を選択する

らくらくアシスタントが起動します。

2. 次の画面が表示されたときは[次へ]ボタンをクリックする

3. メニュー画面から設定したい項目のボタンをクリックする

［らくらくアシスタントメニュー画面］

4. 必要な項目を選択・入力する

5. 設定が終了したら[ＯＫ]ボタンをクリックする

設定内容がAtermに書き込まれ、らくらくアシスタントのメニュー画面に戻ります。

6. らくらくアシスタントを終了するときは、[アシスタント終了]ボタンをクリックする

7. [はい]ボタンをクリックする

● 各設定欄の使いかた

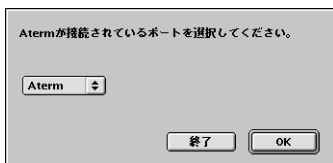
各設定欄の使いかたを、[データポートの詳細設定]ボタンをクリックしたときの画面を例にして説明します。

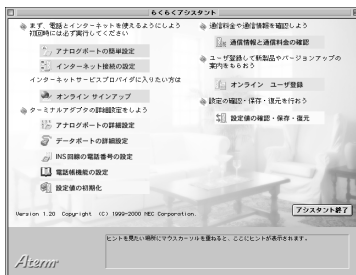
■ Macintoshの場合 ■

1. Macintosh HDアイコンをダブルクリックし、[AtermIT31Lユーティリティ]フォルダの[Atermらくらくアシスタント]アイコンをダブルクリックする

らくらくアシスタントが起動します。

2. 接続されているポートを選択し、[OK]ボタンをクリックする

USBポート接続の場合は、[Aterm]を選択してください。

3. メニュー画面から設定したい項目のボタンをクリックする

らくらくアシスタントが起動します。
[らくらくアシスタントメニュー画面]

4. 必要な項目を選択・入力する

5. 設定が終了したら[OK]ボタンをクリックする

設定内容がAtermに書き込まれ、らくらくアシスタントのメニュー画面に戻ります。

6. 設定が終了したら[アシスタント終了]ボタンをクリックする

● 各設定欄の使いかた

各設定欄の使いかたを、[データポートの詳細設定]ボタンをクリックしたときの画面を例にして説明します。

1. 手動セットアップ

この章では、らくらくアシスタントを使ったセットアップがうまくいかなかった場合の、手動でのセットアップのしかたを説明しています。

1.1 WindowsMe/98の場合

AtermをUSBポートに接続する場合は、ユニバーサル シリアルバス コントローラとCOMポートへUSBドライバのインストールが必要です。

お願い

- USBケーブルは指示があるまで差さないでください。
- 「らくらくアシスタント」でUSBドライバのインストールに失敗した方は、USBドライバのアンインストール(☞1-5ページ)を行った後に始めてください。
- お使いのパソコンによっては、実際の画面が掲載している画面と異なる場合があります。
- Atermの他の機種のUSBドライバがインストールされたパソコンでは、AtermIT31LをUSBポート接続で利用できません。Atermの他の機種のUSBドライバをアンインストールしてから、AtermIT31LのUSBドライバをインストールしてください。

■ ユニバーサルシリアルバスコントローラへインストールする ■

WindowsMe/98のユニバーサルシリアルバスコントローラに、Aterm IT-USB USBPort Adapterをインストールします。Atermに添付のCD-ROM「AtermIT31Lユーティリティ集」が必要です。

1. Atermに電源が入っていたら、電源を切る

2. パソコンを起動する

使用しているアプリケーションソフトはすべて終了させてください。

3. Atermに添付のCD-ROMをパソコンにセットする

しばらくするとメニュー画面が表示されます。[CD-ROMを終了]をクリックしてメニュー画面を閉じてください。

4. USBケーブルでパソコンとAtermを接続する

お願い

コネクタには向きがあります。パソコン側の端子の形にコネクタが合うようにして奥までしっかりと差し込みます。

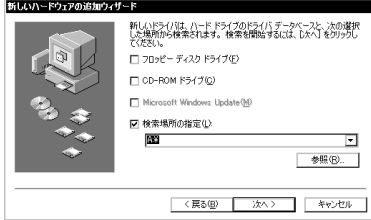
5. Atermの電源を入れる

[新しいハードウェアの追加ウィザード]が起動します。

Windows98の場合(WindowsMeは次ページ参照)

6. [次へ]ボタンをクリックする

7. [使用中のデバイスに最適なドライバを検索する(推奨)]を選択し、[次へ]ボタンをクリックする

8. [検索場所の指定]をチェックし、[参照]ボタンをクリックする

9. CD-ROM内の\Usb\Win98フォルダを選択し、[OK]ボタンをクリックする

10. [次へ]ボタンをクリックする

11. [次へ]ボタンをクリックする

12. インストールが完了したら[完了]ボタンをクリックする

13. インストールを確認する

[コントロールパネル]の[システム]アイコンをダブルクリックし、[デバイスマネージャ]タブの[ユニバーサルシリアルバスコントローラ]のところに[Aterm IT-USB USBPort Adapter]が表示されているのを確認します。

[Aterm IT-USB USBPort Adapter]の頭に黄色い(!)が表示されたときは、正しくインストールされていません。いったんアンインストールしてから(☞1-5ページ)、インストールをやり直してください。

WindowsMeの場合

6. [適切なドライバを自動的に検索する(推奨)]を選択し、[次へ]ボタンをクリックする

USBドライバがインストールされます。

7. 上記の手順12および13を実行する

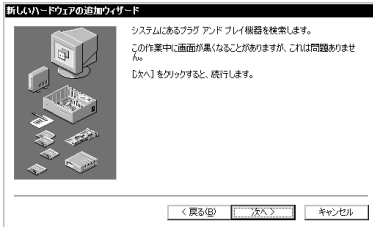
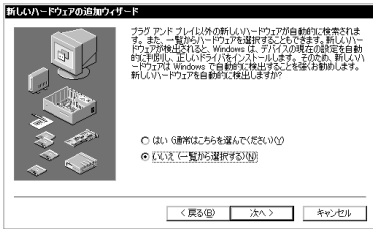
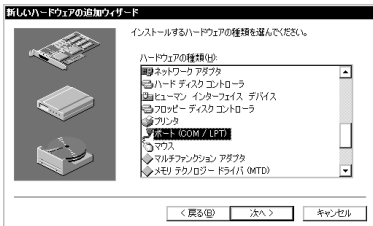
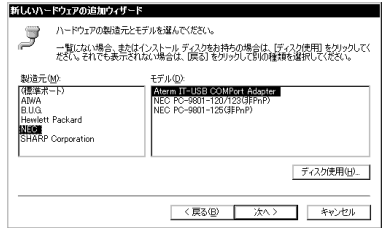
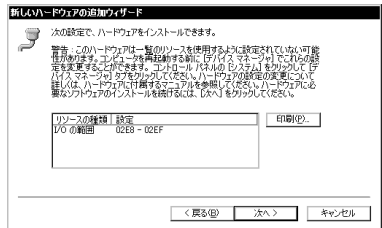
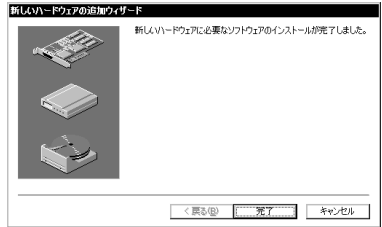
■ COMポートへインストールする ■

Aterm IT-USB COMPort AdapterをCOMポートへインストールします。
WindowsMe/98のCD-ROMが必要になることがあります。

1. [コントロールパネル]の[ハードウェアの追加]アイコンをダブルクリックする

新しいハードウェアの追加ウィザードが起動します。

2. [次へ]ボタンをクリックする

3. [次へ]ボタンをクリックする

4. [いいえ]を選択し、[次へ]ボタンをクリックする

5. Windows98の場合は[ポート(COM/LPT)]を、WindowsMeの場合は[ポート(COMとLPT)]を選択し、[次へ]ボタンをクリックする

6. [製造元]から「NEC」を、[モデル]から「Aterm IT-USB COMPort Adapter」を選択し、[次へ]ボタンをクリックする

7. リソースの割り当てを確認し、[次へ]ボタンをクリックする

8. インストールが完了したら[完了]ボタンをクリックする

9. [はい]ボタンをクリックする

Windowsが終了します。

10. Windowsを再起動する

パソコンの電源を入れ直すなどして、再起動してください。

11. インストールを確認する

[コントロールパネル]の[システム]アイコンをダブルクリックし、[デバイスマネージャ]タブをクリックします。Windows98では[ポート(COM/LPT)]に、WindowsMeでは[ポート(COMとLPT)]に[Aterm IT-USB COMPort Adapter(COM×)]が表示されているのを確認します。
COMポートの番号は、お使いのパソコンの状況によって異なります。

?こんなときは・・・・・

[Aterm IT-USB COMPort Adapter(COM×)]の頭に黄色い(!)が表示されたときは、正しくインストールされていません。いったんアンインストールしてから(☞下記)、インストールをやり直してください。

■ USBドライバをアンインストールする ■

Atermを正常にインストールできなかった場合やパソコンをUSBドライバインストール前の状態に戻したい場合、USBドライバのアンインストールを行います。

1. 起動中のアプリケーションをすべて終了させる

2. 添付CD-ROMをドライブにセットする

しばらくするとメニュー画面が表示されます。

3. [CD-ROMを終了]をクリックしてメニュー画面を閉じる

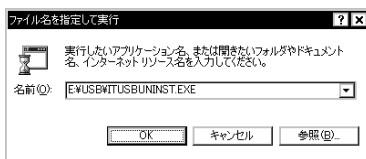
4. [スタート]ボタンをクリックし、[ファイル名を指定して実行]を選択する

5. 名前に半角文字で次のように入力する

E:\USB\ITUSBUNINTST.EXE
(EはCD-ROMドライブ名)

6. [OK]ボタンをクリックする

アンインストーラが起動します。

7. 画面の指示に従ってアンインストールを実行する

1.2 Windows2000 の場合

AtermをUSBポートに接続する場合は、USBドライバをユニバーサル シリアル バス コントローラにインストールする必要があります。

お願い

- USBケーブルは指示があるまで差さないでください。
- 「らくらくアシスタント」でUSBドライバのインストールに失敗した方は、USBドライバのアンインストール（☞1-5ページ）を行った後に始めてください。
- 以降の作業を行うためには、Administrator（権限のあるアカウント）でログオンする必要があります。
- お使いのパソコンによっては、実際の画面が掲載している画面と異なる場合があります。
- Atermの他の機種のUSBドライバがインストールされたパソコンでは、AtermIT31LをUSBポート接続で利用できません。Atermの他の機種のUSBドライバをアンインストールしてから、AtermIT31LのUSBドライバをインストールしてください。

■ USBドライバをインストールする ■

1. Atermに電源が入っていたら、電源を切る

2. パソコンを起動する

使用しているアプリケーションソフトは、すべて終了させてください。

3. Atermに添付のCD-ROMをパソコンにセットする

しばらくするとメニュー画面が表示されます。[CD-ROMを終了]をクリックしてメニュー画面を閉じてください。

4. USBケーブルでパソコンとAtermを接続する

接続のしかたは『取扱説明書』2-30ページ手順7を参照してください。

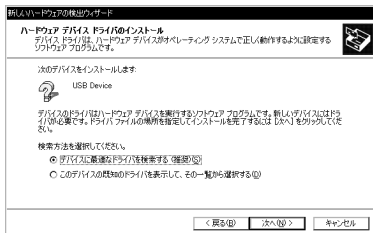
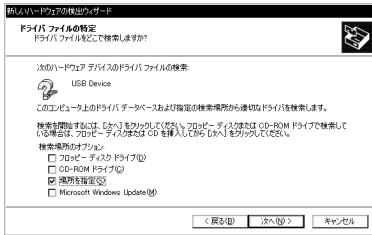
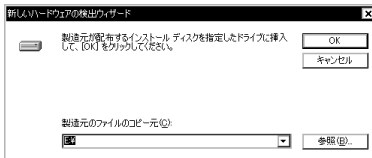
お願い

コネクタには向きがあります。パソコン側の端子の形にコネクタが合うようにして奥までしっかりと差し込みます。

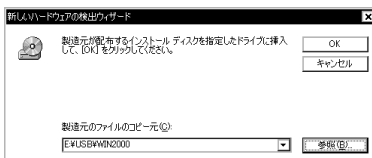
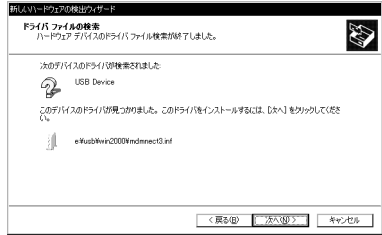
5. Atermの電源を入れる

[新しいハードウェアの検出ウィザード]が起動します。

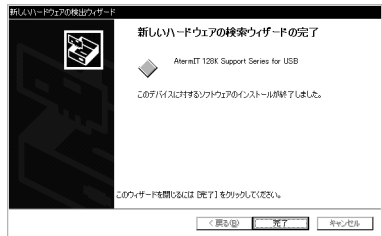
6. [次へ]ボタンをクリックする

7. [デバイスに最適なドライバを検索する]を選択し、[次へ]ボタンをクリックする

8. [検索場所のオプション]で[場所を指定]をチェックし、[次へ]ボタンをクリックする

9. [参照]ボタンをクリックする

10. [マイコンピュータ]アイコンをクリックし、CD-ROMのアイコンをダブルクリックする

11. [USB]フォルダをダブルクリックし、[Win2000]フォルダをダブルクリックして[開く]ボタンをクリックする

12. [OK]ボタンをクリックする

13. [次へ]ボタンをクリックする

14. 次の画面が表示されたときは[はい]をクリックする

15. [完了]ボタンをクリックする

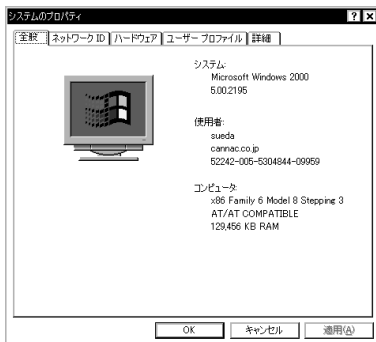
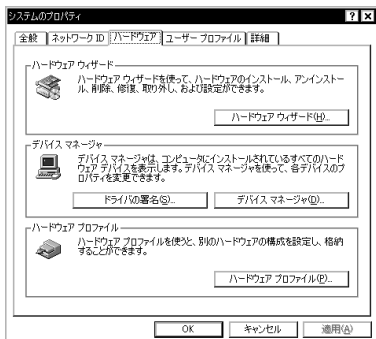
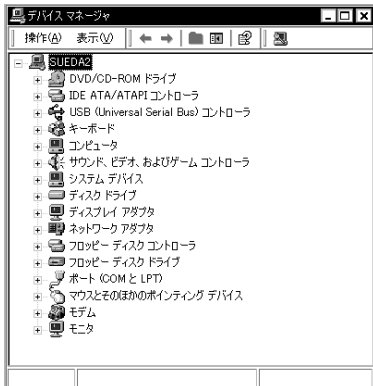
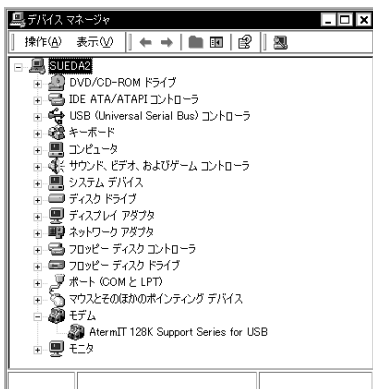
USBドライバが組み込まれます。

■ インストールを確認する ■

USBドライバをインストールしたら、正しくインストールされたことを確認してください。

1. メニューバーから[スタート]－[設定]－[コントロールパネル]を選択する

2. [システム]アイコンをダブルクリックする

[システムのプロパティ]画面が表示されます。

3. [ハードウェア]タブをクリックする

4. [デバイスマネージャ]ボタンをクリックする

5. [モデム]アイコンの前の[+]をクリックする

6. 「AtermIT 128K Support Series for USB」と表示されることを確認する

7. [デバイスマネージャ]ウィンドウを閉じる

8. [OK]ボタンをクリックする

[コントロールパネル]ウィンドウに戻ります。

■ USBドライバをアンインストールする ■

Atermを正常にインストールできなかった場合や、パソコンをUSBドライバのインストール前の状態に戻したい場合は、USBドライバのアンインストールを行ないます。

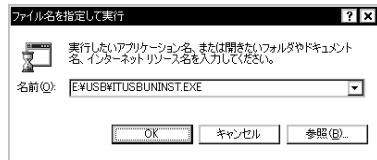
1. **起動中のアプリケーションをすべて終了させる**
2. **添付CD-ROMをドライブにセットする**

   しばらくするとメニュー画面が表示されます。
3. **[CD-ROMを終了]をクリックしてメニュー画面を閉じる**
4. **メニューバーから[スタート]ボタンをクリックし、[ファイル名を指定して実行]を選択する**
5. **名前に半角文字で次のように入力する**

   E:\USB\ITUSBUNINST.EXE

   （EはCD-ROMドライブ名）

6. **[OK]ボタンをクリックする**

   アンインストーラが起動します。
7. **画面の指示に従ってアンインストールを実行する**

1.3 Macintoshの場合

「USBドライバ」・「らくらくアシスタント」・「らくらくバージョンアップ」をインストールします。

1. Macintoshを起動する

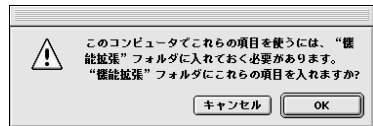
2. Atermに添付のCD-ROMをパソコンにセットする

3. [USBドライバ]フォルダをダブルクリックする

ファイルが表示されます。

注）・USBAtermのアイコンが文書になっている場合は、USBは使用できません。USBが使用できるように、OSをアップグレードしてください。
・他のAtermの機種のUSBドライバと一緒にはご利用になれません。
・USBAtermIT21L、USBAtermITX、USBATermIT、USBAtermIT20Dは同時には使用できません。

4. USBAtermを、システムフォルダ内の[機能拡張]フォルダにコピーする

5. [OK]ボタンをクリックする

6. コピーが完了したら、パソコンを再起動する

パソコンの再起動が完了し、起動が済んだら、インストールは終了です。

2.1 WindowsMe/98/95の場合

らくらくアシスタントがうまく動かないときなどは、インターネットのセットアップを手動で行います。以下の順番でセットアップしてください。

お願い

- USBポートに接続する場合は、USBドライバのインストールが必要です。インターネットのセットアップを行う前に、USBドライバのインストールを行ってください（☞1-2ページ）。
- ここで説明している画面はWindows98のものです。お使いになるパソコンの機種やインストールされているOSによって、表示される画面が一部異なることがあります。

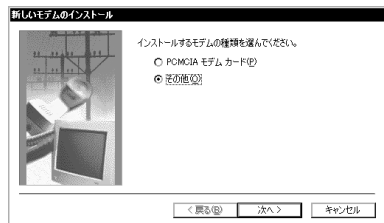
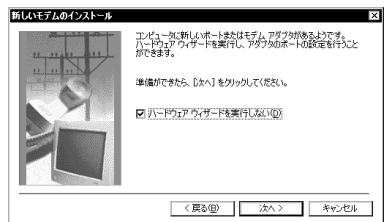
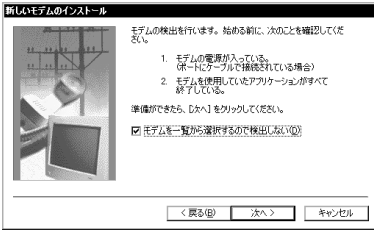
■ モデム情報をインストールする ■

WindowsMe/98/95にAtermをモデムとしてインストールします。
Windows95の場合、Aterm添付のCD-ROMからAterm用のモデム情報をインストールします。WindowsMe/98の場合は、Atermに添付のCD-ROMからインストールする方法とWindowsMe/98にインストールされているモデム情報を使う方法があります。

1. [コントロールパネル]の[モデム]アイコンをダブルクリックする

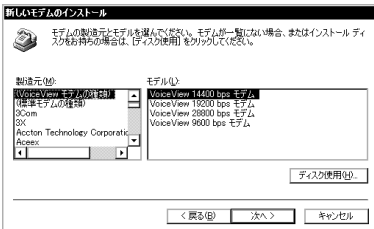
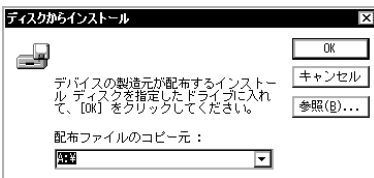
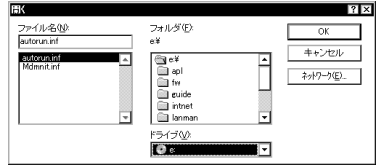
2. [追加]ボタンをクリックする

モデム情報が1つもインストールされていない場合は、すぐに手順3の画面となります。

3. 次の画面が表示されたときは[その他]を選択し、[次へ]ボタンをクリックする

4. 次の画面が表示されたときは、[ハードウェアウィザードを実行しない]をチェックし、[次へ]ボタンをクリックする

5. [モデムを一覧から選択するので検出しない]をチェックし、[次へ]ボタンをクリックする

6. Atermに添付のCD-ROMをドライブにセットする

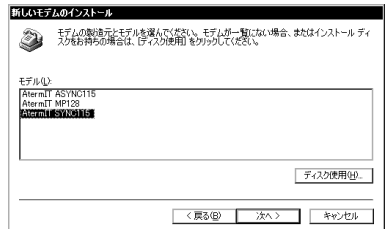
しばらくするとメニュー画面が表示されます。[CD-ROMを終了]をクリックしてメニュー画面を閉じてください。

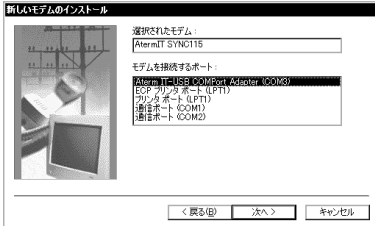
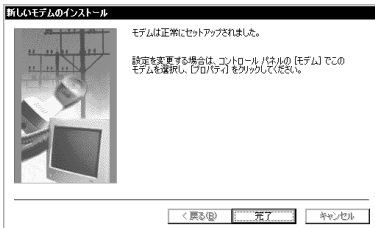
7. [ディスク使用]ボタンをクリックする

Windows98に含まれるAtermのモデム情報を使う場合は、[ディスク使用]ボタンをクリックせず、「製造元」から「NEC」を選択したあと手順11に進んでください。

8. [参照]ボタンをクリックする

9. CD-ROMドライブを選択し、ファイル名からは[Mdmnit.inf]を選択して[OK]ボタンをクリックする

10. 「ディスクからインストール」画面に戻るので[OK]ボタンをクリックする

11. 使用するモデム情報を選択し、[次へ]ボタンをクリックする

接続するアクセスポイントのタイプや通信の種類によって、選択するモデム情報が異なります。通常は、「AtermIT SYNC115」を選択してください。

アクセスポイントのタイプや目的	選択するモデム情報
64K同期、USBネットワーク、マルチアクセス、PIAFS通信	AtermIT SYNC115
非同期57.6K	AtermIT ASYNC115
128K マルチリンクPPP、OCNエコノミー	AtermIT MP128

12. [モデムを接続するポート]から使用するポートを選択し、[次へ]ボタンをクリックする

COMポートを使用する場合は、Atermを接続したCOMポートを、USBポートを使用する場合は、Aterm IT-USB COMPort Adapter(COM×)を選択します。

13. インストールが完了したら、[完了]ボタンをクリックする

14. 登録したモデム情報を選択し、[プロパティ]ボタンをクリックする

15. 最高速度を選択し、[OK]ボタンをクリックする

以下のとおり速度を選択します。
AtermIT ASYNC115：[57600または115200]
AtermIT SYNC115：[115200]
AtermIT MP128：[115200または230400]

注：AtermIT MP128でCOMポートに接続する場合は、速度を[115200]としてください。COMポートで230400の速度を出すには、高速シリアルボードが別途必要になります。

お知らせ・・・・・・・

複数のモデム情報をインストールするときは、インストールする分だけ手順2～15を繰り返してください。同じモデム情報を重複して登録すると、2つ目のモデム情報の名前に#2が表示されます。不要な方を削除してください。

こんなときは・・・・・

手順12で[Aterm IT-USB COMPort Adapter(COM×)]が表示されないときは、USBドライバが正しくインストールされていません。USBドライバのインストールを先に行ってください(☞1-2ページ)。

16. ［ダイヤルのプロパティ］ボタンをクリックする

所在地情報画面が表示されます。

17. 所在地情報を設定し、［OK］ボタンをクリックする

［登録名］：入力する必要はありません。
［国名／地域］：「日本」が表示されていることを確認してください。
［市外局番］： 市外局番を入力します。Windows95の場合、先頭の「0」を除いて半角で入力します。
［所在地からの通話］：初期設定のまま、変更しないでください。

18. ［閉じる］ボタンをクリックする

モデム情報の設定が完了します。
Atermに添付のCD-ROMを使用した場合は、CD-ROMを取り出してください。

■ ダイヤルアップネットワークをインストールする ■

ダイヤルアップネットワークをインストールし、ダイヤルアップ接続ができるようにします。
ダイヤルアップネットワークがインストールされていない場合は以下の手順でインストールしてください。すでにインストールされている場合、この作業は不要です。「ネットワークを設定する」(☞1-17ページ)に進んでください。

● ダイヤルアップネットワークの確認

ダイヤルアップネットワークがインストールされているかどうかを確認します。

1. デスクトップの[マイコンピュータ]アイコンをダブルクリックする

WindowsMeの場合は、さらに[コントロールパネル]をダブルクリックします。

2. [ダイヤルアップネットワーク]フォルダがあるかどうかを確認する

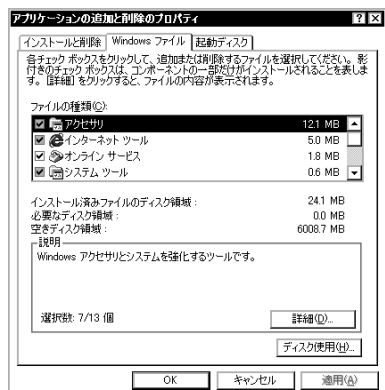
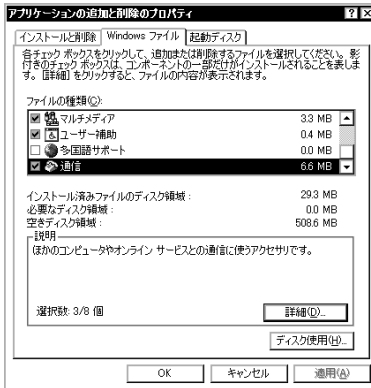
[ダイヤルアップネットワーク]フォルダがない場合のみインストール作業を行ってください。

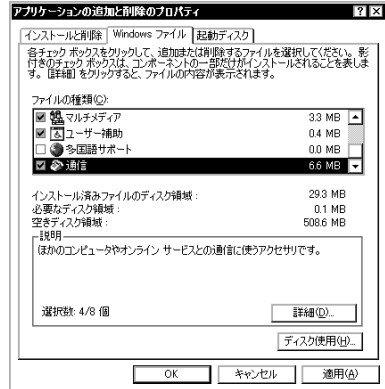
● ダイヤルアップネットワークのインストール

WindowsMe/98/95に付属のダイヤルアップネットワークをインストールします。WindowsMe/98/95のCD-ROMが必要になることがあります。

1. [コントロールパネル]の[アプリケーションの追加と削除]アイコンをダブルクリックする

アプリケーションの追加と削除のプロパティ画面が表示されます。

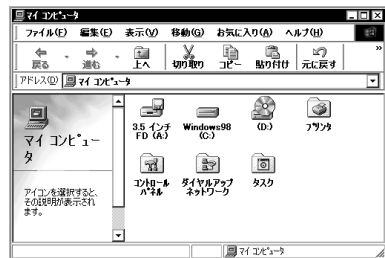
2. [Windowsファイル]タブをクリックする

3. ファイルの種類から[通信]を選択し、[詳細]ボタンをクリックする

4. [ダイヤルアップネットワーク]をチェックし、[OK]ボタンをクリックする

5. [OK]ボタンをクリックする

インストールが始まります。途中でディスクの挿入を要求する画面が表示された場合は、WindowsMe/98/95それぞれのCD-ROMをセットしてください。

6. Windowsを再起動し、ダイヤルアップネットワークの設定を有効にする

いったんWindowsを終了させ、再起動します。

7. [ダイヤルアップネットワーク]フォルダがあることを確認する

デスクトップの[マイコンピュータ]アイコンをダブルクリックします。
マイコンピュータ画面が表示されます。
WindowsMeの場合は、さらに[コントロールパネル]をダブルクリックします。

■ ネットワークを設定する ■

Windows98/95ではネットワークの設定が必要となります。WindowsMeの方は、1-21ページの「ダイヤルアップ接続情報を作成する」に進んでください。

Windows98/95では、インターネットへのアクセスに必要なネットワークコンポーネントは、以下の3つです。

- TCP/IP（プロトコル）
- Microsoftネットワーククライアント（クライアント）
- ダイヤルアップアダプタ（アダプタ）

● 現在のネットワークコンポーネントを確認する

1.　[コントロールパネル]の[ネットワーク]アイコンをダブルクリックする

「ネットワーク」画面が表示されます。

この例では、ダイヤルアップアダプタとTCP/IPが足りません。

● 不足のネットワークコンポーネントを追加する

不足のネットワークコンポーネントがある場合は、下記を参照して必要なものを追加してください。また、必要なネットワークコンポーネントがすべてネットワーク画面に表示されていても、TCP/IPは「既定のプロトコル」に設定する必要があります（☞1-20ページ「TCP/IPを既定のプロトコルにする」）

▶ TCP/IPを追加する（☞1-19ページ）
▶ Microsoftネットワーククライアントを追加する（☞1-19ページ）
▶ ダイヤルアップアダプタを追加する（☞1-20ページ）

1つでも追加した場合は最後に再起動が必要です（☞1-20ページ）。

？こんなときは・・・・・

TCP/IP－＞XXXアダプタが表示されたときは？

ネットワークボードがインストールされている場合、アダプタが2つあることになるので、TCP/IPが2つのアダプタにバインドされ、「TCP/IP－＞XXアダプタ」のように表示されます。Atermはダイヤルアップアダプタを使うので、TCP/IPのプロパティを設定するときは、ダイヤルアップアダプタにバインドされた「TCP/IP－＞ダイヤルアップアダプタ」の方を選択してください。

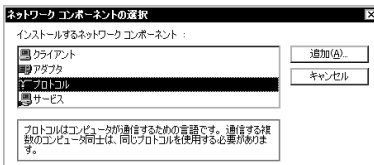
▶ TCP/IPを追加する

プロトコルのTCP/IPを追加します。

1. [ネットワークの設定]タブで[追加]ボタンをクリックする

2. [プロトコル]を選択し、[追加]ボタンをクリックする

3. [TCP/IP]を選択し、[OK]ボタンをクリックする

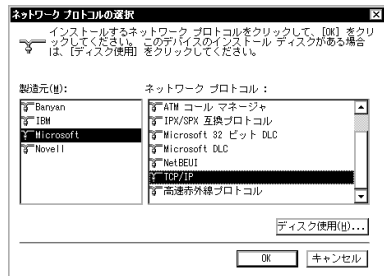
製造元から[Microsoft]を、ネットワークプロトコルから[TCP/IP]を選択します。

[ネットワークの設定]タブに戻ります。

▶ Microsoftネットワーククライアントを追加する

クライアントからMicrosoftネットワーククライアントを追加します。

1. [ネットワークの設定]タブで[追加]ボタンをクリックする

2. [クライアント]を選択し、[追加]ボタンをクリックする

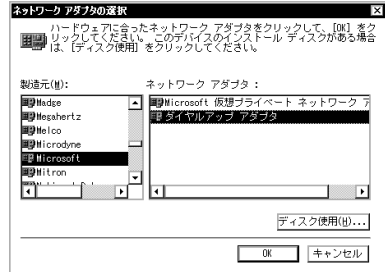
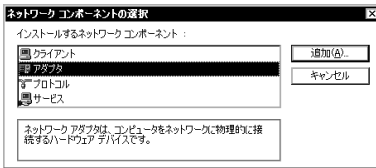
3. [Microsoftネットワーククライアント]を選択し、[OK]ボタンをクリックする

製造元から[Microsoft]を、ネットワーククライアントから[Microsoftネットワーククライアント]を選択します。

[ネットワークの設定]タブに戻ります。

▶ ダイヤルアップアダプタを追加する

1. [ネットワーク設定]タブで[追加]ボタンをクリックする

2. [アダプタ]を選択し、[追加]ボタンをクリックする

3. 製造元から[Microsoft]を、ネットワークアダプタから[ダイヤルアップアダプタ]を選択し、[OK]ボタンをクリックする

[ネットワーク設定]タブに戻ります。

TCP/IPを既定のプロトコルにする

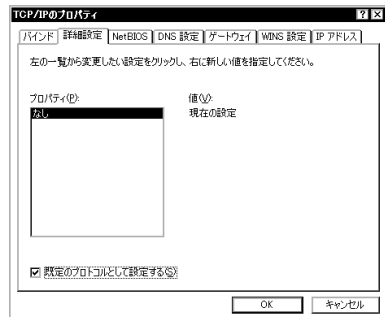
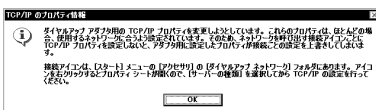
最初からTCP/IPがインストールされていた場合も、この作業を行ってください。

1. [TCP/IP]を選択し、[プロパティ]ボタンをクリックする

2. 次のメッセージが表示された場合は、[OK]ボタンをクリックする

3. [詳細設定]タブをクリックする

4. [既定のプロトコルとして設定する]をチェックし、[OK]ボタンをクリックする

チェックボックスがグレー表示の時は、そのままにしておきます。

再起動する

ネットワーク画面を閉じると、ファイルがコピーされ、Windows98/95が再起動されます。

1. ネットワーク画面で[OK]ボタンをクリックする

ファイルがコピーされたあと、「再起動しますか」というメッセージが表示されます。

2. [はい]ボタンをクリックしてWindowsを再起動する

？こんなときは・・・・・

- ファイルコピーの途中でディスクの挿入を要求する画面が表示された場合は、Windows98/95それぞれのCD-ROMをセットし、[OK]ボタンをクリックしてください。
- Windows98/95のプリインストールマシンの場合は、CD-ROMを入れずに[OK]ボタンをクリックします。そのあと[参照]ボタンをクリックして、Cドライブの\Windows\Options\cabsを参照し、[OK]ボタンをクリックしてください。

■ ダイヤルアップ接続情報を作成する ■

プロバイダにダイヤルアップ接続をするための情報を作成します。なお、設定内容はプロバイダによって異なるため、詳細はご利用になるプロバイダにお問い合わせください。

● アクセスポイントの情報を設定する

ダイヤルアップネットワークの新しい接続先を作成します。

1. デスクトップの[マイコンピュータ]アイコンをダブルクリックする

WindowsMeの場合は、さらに[コントロールパネル]をダブルクリックします。

2. [ダイヤルアップネットワーク]フォルダをダブルクリックする

ダイヤルアップネットワークをはじめて起動するときは、「ダイヤルアップネットワークにようこそ」画面が表示されます。この場合は、[次へ]ボタンをクリックしてから手順4に進んでください。

3. [新しい接続]アイコンをダブルクリックする

4. 接続するプロバイダ名とモデム情報を指定し、[次へ]ボタンをクリックする

[接続名]：接続するプロバイダ名などを入力します。
[モデムの選択]：接続先のアクセスポイントにあったモデム情報を選択します。

アクセスポイント・目的	モデム情報
同期64K、PIAFS通信	AtermIT SYNC115
非同期57.6K	AtermIT ASYNC115
128KマルチリンクPPP	AtermIT MP128

5. 接続するアクセスポイントの電話番号を指定し、[次へ]ボタンをクリックする

[市外局番]：Windows95の場合、先頭の「0」を除いて入力します（例：東京「03」の場合は、「3」と入力します）。
[電話番号]：接続するアクセスポイントの電話番号を入力します。PIAFS通信を行うときは、電話番号に続けて「PF」（32K）、「PD」（64K）、「PP」（32K/64K）と入力します。
→「PIAFSデータ通信」（☞2-14ページ）
[国番号]：「日本（81）」と表示されています。表示されていないときは、リストから選択してください。

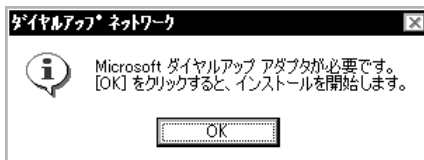
確認メッセージが表示されます。

6. [完了]ボタンをクリックする

ダイヤルアップネットワーク画面に戻ると、新しいアイコンが表示されます。

?こんなときは・・・・・

WindowsMeの場合

ダイヤルアップアダプタがインストールされていない場合は、手順6で[完了]ボタンをクリックすると、メッセージが表示されます。[OK]ボタンをクリックして、インストールを行ってください。

● サーバー情報を設定する

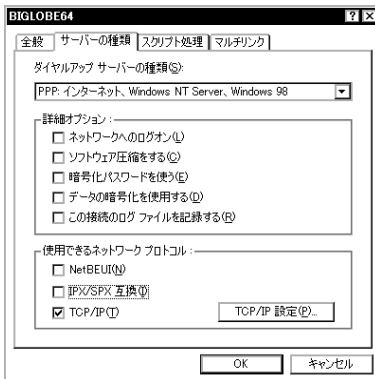
1. 作成された[ダイヤルアップネットワーク]アイコンを右クリックし、ポップアップメニューから[プロパティ]を選択する

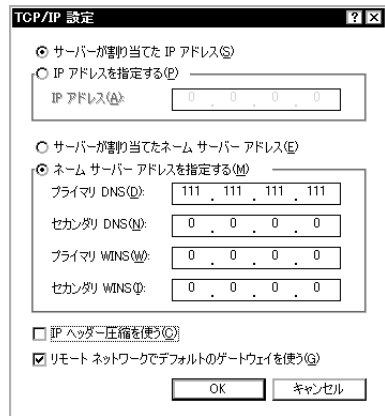
2. [全般]タブの内にある「市外局番とダイヤルのプロパティを使う」のチェックをはずす

3. Windows98の場合は[サーバーの種類]タブを、WindowsMeの場合は[ネットワーク]タブをクリックします。

サーバーの種類を設定する画面が表示されます。

4.　ダイヤルアップサーバーの種類を設定し、[TCP/IP設定]ボタンをクリックする

[ダイヤルアップサーバの種類]：Windows98/95の場合は「PPP：インターネット、WindowsNT Server、Windows98」と表示されていることを確認します。WindowsMeの場合は「PPP：インターネット、Windows2000/NT、WindowsMe」と表示されていることを確認します。
[詳細オプション]：すべてのチェックをはずします。
[使用できるネットワークプロトコル]：[TCP/IP]だけをチェックします。

5.　ネームサーバーのIPアドレスを入力し、[OK]ボタンをクリックする

[ネームサーバーアドレスを指定する]をチェックして、プライマリDNS、セカンダリDNSを半角文字で入力します。また、[IPヘッダー圧縮を使う]のチェックがはずれていることを確認してください。
ただし、DNSアドレスの自動割当てを行うプロバイダの場合は、[サーバーが割り当てたネームサーバーアドレス]を選択してください。

これで、インターネットを接続するまでの設定は完了しました。

2.2 Windows2000の場合

らくらくアシスタントがうまく動かないときは、インターネットのセットアップを手動で行います。以下の順番でセットアップしてください。

お願い

- USBポートに接続する場合は、USBドライバのインストールが必要です。インターネットのセットアップを行う前に、USBドライバのインストールを行ってください（☞1-6ページ）。

■ モデム情報をインストールする ■

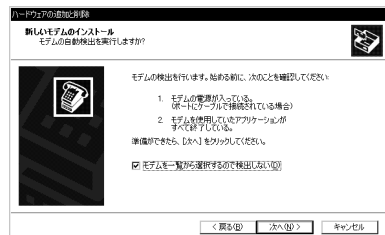
Windows2000にAtermを認識させるためには、Atermをモデムとしてインストールする必要があります。
Atermに添付のCD-ROMから以下の手順で組み込んでください。

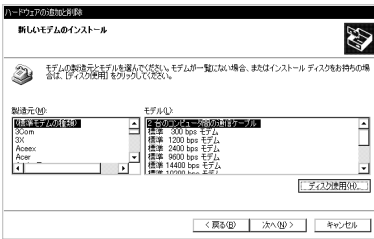
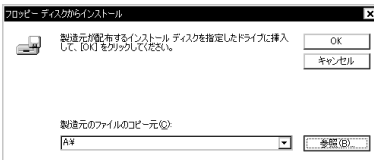
1. [コントロールパネル]の[電話とモデムのオプション]アイコンをダブルクリックする

2. [モデム]タブをクリックする

初めてのときは、所在地情報画面が表示されます。現在地の市外局番を入力してください。

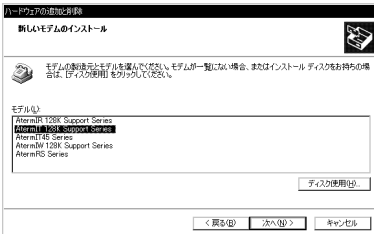
3. インストールされているモデムの一覧が表示されたら、[追加]ボタンをクリックする

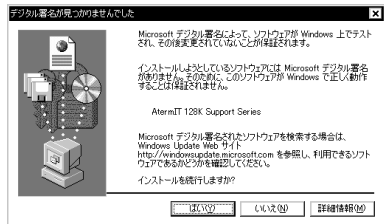
4. [モデムを一覧から選択するので検出しない]をチェックし、[次へ]ボタンをクリックする

5. Atermに添付のCD-ROMをドライブにセットする

6. [ディスク使用]ボタンをクリックする

7. [参照]ボタンをクリックする

8. 左のプレースフォルダから[マイコンピュータ]ボタンをクリックし、さらにCD-ROMドライブを選択する

9. フォルダから[INTNET]-[WIN2000]の[mdmnect3.inf]を選択して、[開く]ボタンをクリックする

10. もとの画面に戻り、[OK]ボタンをクリックする

11. モデルから[AtermIT 128K Support Series]を選択し、[次へ]ボタンをクリックする

12. [選択したポート]を選択し、さらにAtermを接続したポートを一覧から選択し、[次へ]ボタンをクリックする

13. 次の画面が表示されたときは[はい]ボタンをクリックする

14. [完了]ボタンをクリックする

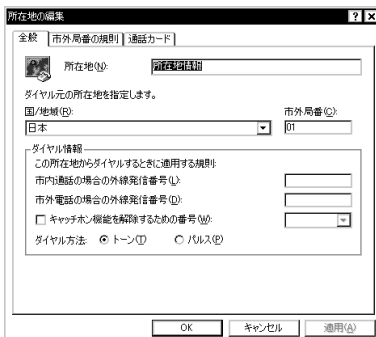
15. 一覧に[AtermIT 128K Support Series]が追加されたのを確認し、[プロパティ]ボタンをクリックする

16.最高速度を選択し、[OK]ボタンをクリックする

17.[ダイヤル情報]タブを選択し、[編集]ボタンをクリックする

18.[所在地情報]を選択し、[編集]ボタンをクリックする

19.市外局番を入力し、ダイヤル方法から[トーン]を選択し、[OK]ボタンをクリックする

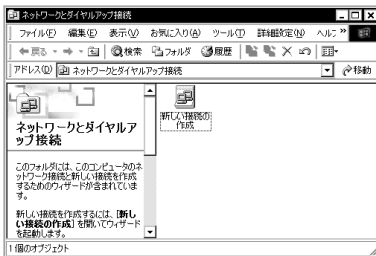
その他の情報は変更しないでください。

20.[OK]ボタンをクリックして「電話とモデムのオプション」を終了させる

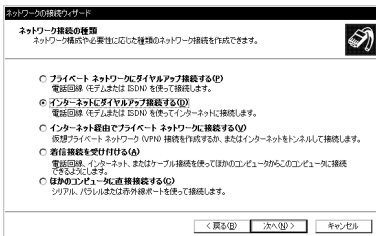
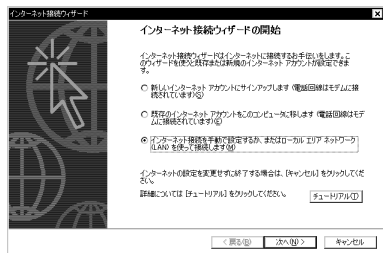
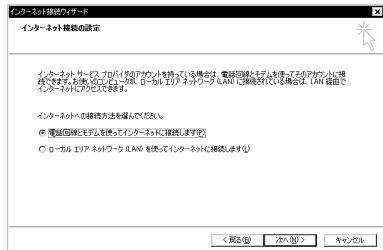
モデム情報の設定が完了します。

■ ダイヤルアップ接続情報を作成する ■

プロバイダにダイヤルアップ接続するための情報を作成します。なお、設定内容はプロバイダによって異なるため、詳細はご利用になるプロバイダにお問い合わせください。

1. ［コントロールパネル］の［ネットワークとダイヤルアップ接続］アイコンをダブルクリックする

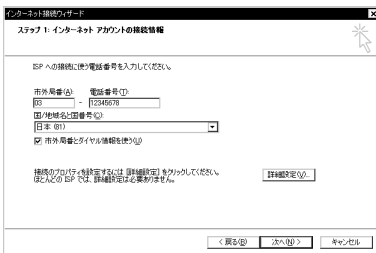
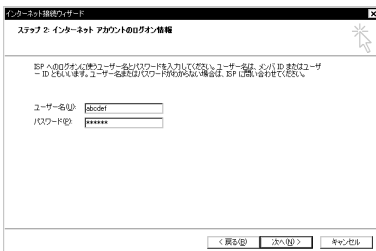
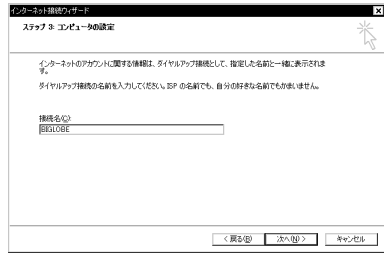
2. ［新しい接続の作成］アイコンをダブルクリックする

3. ネットワークの接続ウィザードが開始されたら、［次へ］ボタンをクリックする

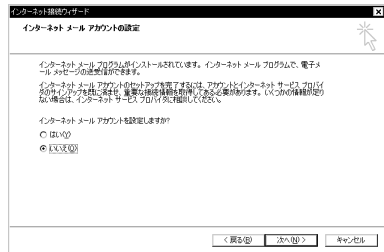
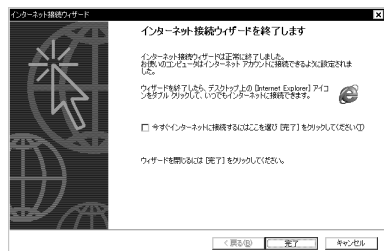
4. ネットワーク接続の種類から［インターネットにダイヤルアップ接続する］を選択し、［次へ］ボタンをクリックする

5. インターネット接続ウィザードが開始されたら、［インターネット接続を手動で設定するか、またはローカルエリアネットワーク（LAN）を使って接続します］を選択し、［次へ］ボタンをクリックする

6. インターネットへの接続方法から［電話回線とモデムを使ってインターネットに接続します］を選択し、［次へ］ボタンをクリックする

7. 複数のモデム情報をインストールしているときは、[AtermIT 128K Support Series](シリアルポート接続)または[AtermIT 128K Support Series for USB](USBポート接続)を選択し、[次へ]ボタンをクリックする

(モデム情報が1つしかインストールされていないときは、この画面は表示されません)

8. 接続するプロバイダのアクセスポイントの電話番号を入力し、[次へ]ボタンをクリックする

PIAFS通信を行うときは,電話番号に続けて「PF」(32K)、「PD」(64K)、「PP」(32K/62K)と入力します。

→「PIAFSデータ通信」(☞2-14ページ)

9. ユーザ名(ログインID)とパスワードを入力し、[次へ]ボタンをクリックする

10. 接続するプロバイダ名などを入力し、[次へ]ボタンをクリックする

11. メールアカウントの設定は[いいえ]を選択して[次へ]ボタンをクリックする

メールアカウントの設定がまだ済んでいない場合はここで設定することもできます。

12. 次の画面が表示されたら[今すぐインターネットに接続するにはここを選び[完了]をクリックしてください]のチェックをはずし、[完了]ボタンをクリックする

ネットワークとダイヤルアップ接続フォルダに、ダイヤルアップ接続のアイコンが作成されます。

13.作成したアイコン(下記の画面ではBIGLOBE)をダブルクリックする

14.[プロパティ]ボタンをクリックする

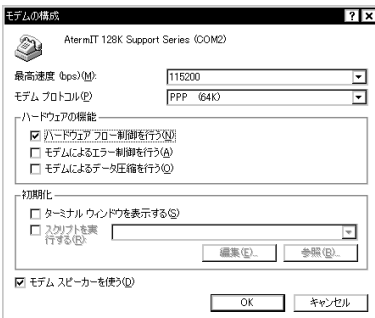
15.[全般]タブで、[構成]ボタンをクリックする

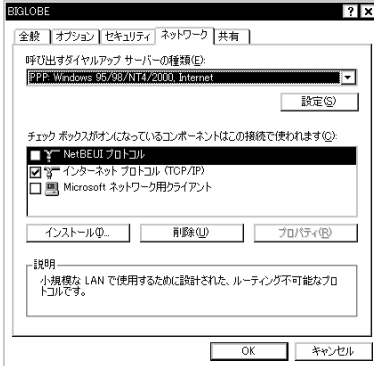
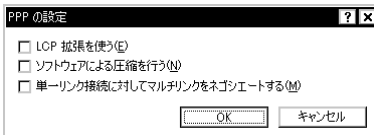
接続の方法に[モデム－AtermIT 128K Support Series(COM×)]または[モデム－AtermIT 128K Support Series for USB(COM×)]が表示されていることを確認してください。
複数のモデム情報がインストールされているときは、接続するポートに合った方をチェックします。

16.モデムプロトコルとハードウェアの機能を選択する

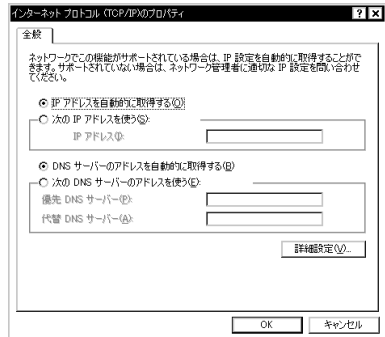
1)以下の表を参考にモデムプロトコルを選択する
インターネットに通常の方法で接続する場合は、[PPP(64K)]を選択してください。

アクセスポイント・接続方法	モデムプロトコル
同期64K接続の場合	PPP(64K)
非同期57.6K接続の場合	V.110(57.6K)
同期128K接続の場合	PPP(128K)
PIAFS 通信(発信)の場合	PIAFS-発信
着信接続(ダイヤルアップサーバー)の場合	AUTO(1ch)

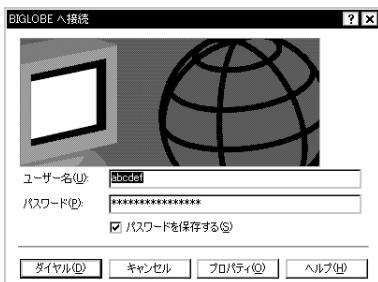
2)[モデムによるエラー制御を行う]、[モデムによるデータ圧縮を行う]のチェックをはずす
3)[OK]ボタンをクリックする

17.[ネットワーク]タブをクリックし、[設定]ボタンをクリックする

呼び出すダイヤルアップサーバーの種類が、[PPP:Windows 95/98/NT4/2000 Internet]となっていることを確認してください。

18.[ソフトウェアによる圧縮を行う]のチェックをはずし、[OK]ボタンをクリックする

19.コンポーネントの一覧から[インターネットプロトコル(TCP/IP)]を選択し、[プロパティ]ボタンをクリックする

20.IPアドレス、DNSサーバーのアドレスを指定し、[詳細設定]ボタンをクリックする

- 英数字は半角文字で入力してください。
- BIGLOBEなどプロバイダからDNSサーバーのアドレスが通知される場合は、変更不要です。
- 上記以外の場合、[次のDNSサーバーのアドレスを使う]を選択し、優先DNSサーバーにプライマリDNS、代替DNSサーバーにセカンダリDNSのIPアドレスを入力します。

21.[全般]タブをクリックして[IPヘッダーの圧縮を使う]のチェックをはずし、[OK]ボタンをクリックする

22.[ダイヤル]ボタンをクリックすると接続します

すぐに接続しない場合は、[キャンセル]ボタンをクリックします。

2.3 Macintoshの場合

MacOSに付属するインターネット接続アシスタントを使って、インターネット接続のための設定を行います。

お知らせ・・・・・・・

以下の画面は、MacOS8.6を搭載したiMacのものです。お使いのMacOSのバージョンによって、以下の説明と画面が一部異なります。

■ CCLファイルのインストール ■

Atermに添付のMacintosh用CD-ROM「AtermIT31Lユーティリティ集」に含まれる、[CCLファイル]フォルダ内のCCLファイルを、[システムフォルダ]の[機能拡張]内にある[Modem Scripts]フォルダにコピーする

同じ名前の古いファイルがある場合は、上書きをして入れ替えます(すでにCCLファイルが入っている機種もあります)。

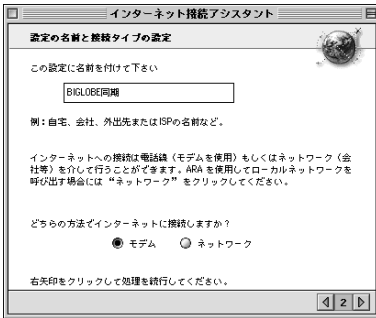
■ インターネット接続アシスタントで設定する ■

1. **アップルメニューから[インターネットアクセス]－[インターネット接続アシスタント]を選択する**

2. **「インターネットに接続しますか？」の画面で[はい]ボタンをクリックする**

3. **「インターネットのアカウントをすでにお持ちですか？」の画面で[はい]ボタンをクリックする**

4. **ページ番号横の右矢印をクリックしてページを進める**

5. プロバイダの名前などを入力して[モデム]を選択し、右矢印をクリックする

6. モデム情報とポートを選び、右矢印をクリックする

1) モデムから接続するアクセスポイントに合わせたAtermのモデム情報を選択する

Atermをシリアルポート（モデムポートまたはプリンタポート）に接続している場合

アクセスポイント	モデム情報
同期64K	NEC AtermIT 64KPPP
非同期57.6K	NEC AtermIT 57.6K
128Kマルチリンクppp	NEC AtermIT MP
PIAFS 32K	NEC AtermIT 32KPIAFS
PIAFS 64K	NEC AtermIT 64KPIAFS

AtermをUSBポートに接続している場合

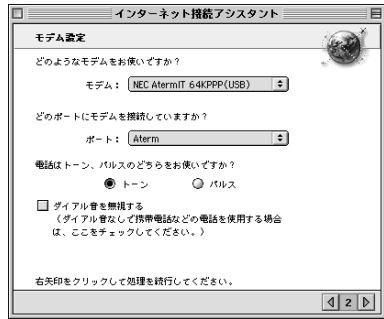
アクセスポイント	モデム情報
同期64K	NEC AtermIT 64KPPP(USB)
非同期57.6K	NEC AtermIT 57.6K(USB)
128Kマルチリンクppp	NEC AtermIT MP(USB)
PIAFS 32K	NEC AtermIT 32KPIAFS(USB)
PIAFS 64K	NEC AtermIT 64KPIAFS(USB)

注）USBポートに接続した場合のモデム情報を選択すると、「ER信号を監視する」に設定されます。ER(DTR)－CS(CTS)フロー制御を使用しているアプリケーションをご利用の場合、または通信中に切断されてしまうなどの場合には、シリアルポートに接続する場合のモデム情報を選択してください。
回線の切断時には、正常に切断されているか確認してください。Aterm本体のActランプが消えていれば回線は切断されています。

2) Atermを接続するポートを選択する

iMacなどUSBポートに接続した場合は、[Aterm]を選択します。

3) [ダイヤル音を無視する]をチェックする

4) 右矢印をクリックする

？こんなときは・・・・・

USBポート接続なのにAtermがポートに表示されない。

- USBドライバをインストールしてください。
- 他のAterm（IT75、ITX80など）のUSBドライバをアンインストールしてください。
- Atermの電源が入り、正しく接続されているかを確認してください。

7. アクセスポイントの電話番号・ユーザ名（ユーザID）・パスワードを半角英数字で入力し、右矢印をクリックする

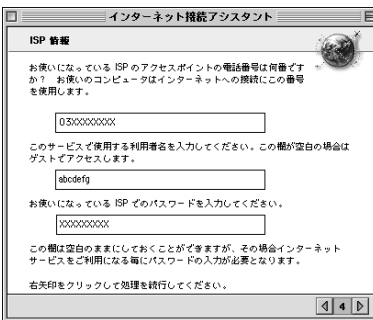
1）1つ目のボックスにアクセスポイントの電話番号を入力する

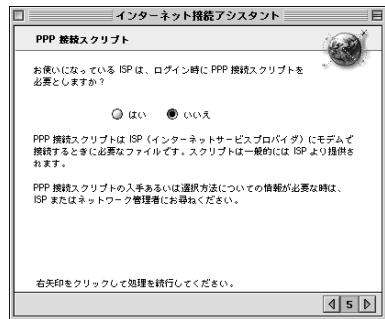
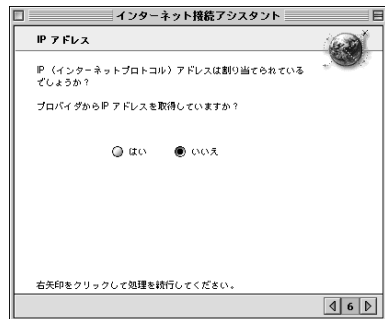
PIAFS（ピアフ）通信を行うときは、電話番号に続けて「PF」（32K）、「PD」（64K）、「PP」（32K/64K）と入力します。

→「PIAFSデータ通信」（☞2-14ページ）

2）2つ目のボックスにユーザIDを半角で入力する

3）3つ目のボックスにパスワードを半角で入力する

4）右矢印をクリックする

8. ［いいえ］を選択し、右矢印をクリックする

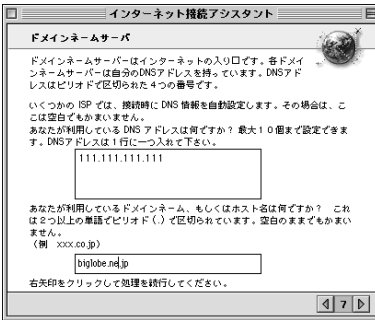
BIGLOBEなど多くのプロバイダではPPP接続スクリプトは不要です。
詳細はご利用のプロバイダにお問い合わせください。

9. ［いいえ］を選択し、右矢印をクリックする

10. ネームサーバーアドレスを入力する

1) 上のボックスに、プライマリDNSを半角文字で入力する

   DNSアドレスの自動割り当てを行うプロバイダの場合は入力不要です。

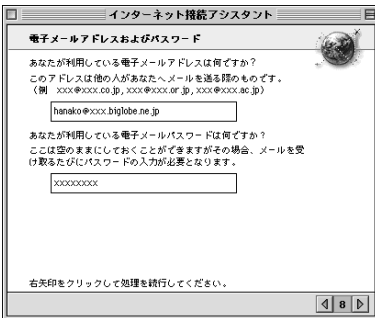
2) セカンダリDNSがあるときは、2行目に入力する

3) 2つ目のボックスにドメイン名を入力する

4) 右矢印をクリックする

11. 電子メールアドレスとパスワードを入力し、右矢印をクリックする

1) 上のボックスに電子メールアドレスを入力する

2) 下のボックスにメールパスワードを入力する

3) 右矢印をクリックする

12. 電子メールアカウントとメールサーバーを入力し、右矢印をクリックする

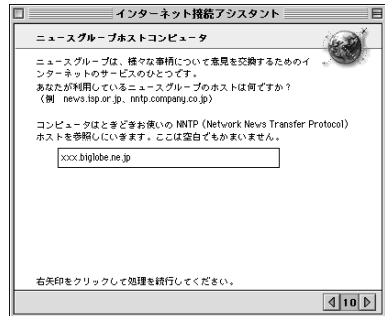
1) 上のボックスに電子メールアカウント（POPアカウント）を入力する

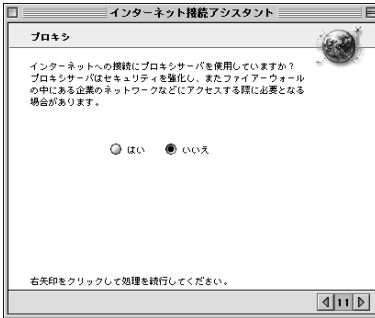
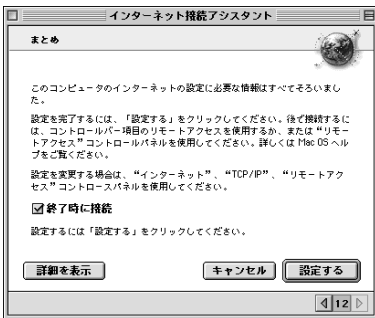
   メールアカウント@POPサーバー名

2) 下のボックスにメールサーバー（SMTPサーバー）を入力する

3) 右矢印をクリックする

13. ニュースサーバーを入力し、右矢印をクリックする

プロバイダからもらった資料にないときや利用しないときは、省略してもかまいません。

14. プロキシサーバを利用するかどうかを選択し、右矢印をクリックする

BIGLOBEの場合は、[いいえ]を選択してください。プロバイダよりプロキシサーバ利用の指定があった場合は、[はい]を選択してください。

15. [詳細を表示]ボタンをクリックする

16. 設定内容を確認し、[設定する]ボタンをクリックする

17. プロバイダに接続される

設定完了後すぐに接続されます。接続を中止するときは、[キャンセル]ボタンをクリックします。

● TCP/IPの設定を確認する

TCP/IPが正しく設定されているか確認します。設定されていないときは入力してください。

1.　アップルメニューの[コントロールパネル]を選択する

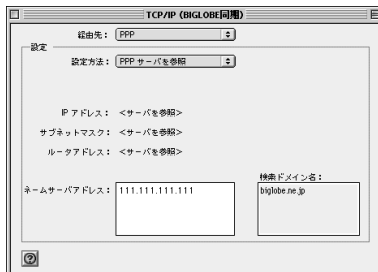
2.　[TCP/IP]アイコンをダブルクリックする

3.　経由先が[PPP]に、設定方法が[PPPサーバを参照]になっていることを確認する

4.　ネームサーバアドレス、検索ドメイン名を確認する

1) ネームサーバアドレスにプライマリDNS(セカンダリDNS)が入力されているのを確認する

2) 検索ドメイン名を確認する

3) クローズボックスをクリックして閉じる

2.4 WindowsNT4.0 の場合

らくらくアシスタントのインターネット接続の設定は、WindowsNT4.0では利用できません。以下の手順にそって、手動でセットアップを進めてください。

■ モデム情報をインストールする ■

WindowsNT4.0にAtermをモデムとしてインストールします。Atermに添付のCD-ROMからインストールする方法と、WindowsNT4.0にインストールされているモデム情報を使う方法があります。

1. [コントロールパネル]の[モデム]アイコンをダブルクリックする

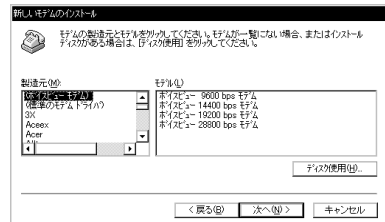
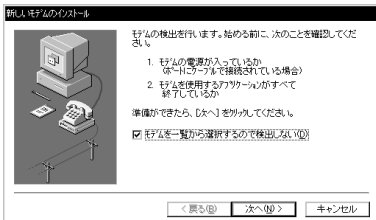
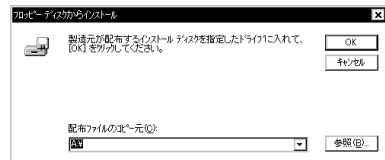
2. [追加]ボタンをクリックする

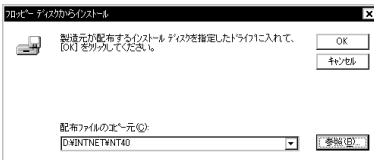
モデム情報を1つもインストールしていない場合は、すぐに手順3の画面となります。

3. [モデムを一覧から選択するので検出しない]をチェックし、[次へ]ボタンをクリックする

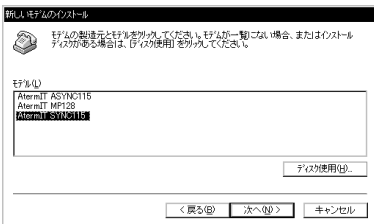
4. Atermに添付のCD-ROMをドライブにセットする

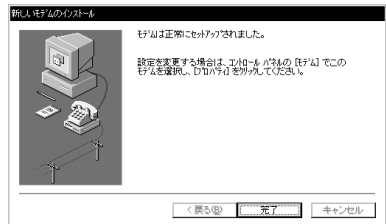
5. [ディスク使用]ボタンをクリックする

WindowsNT4.0に含まれるAtermのモデム情報を使う場合は、[ディスク使用]ボタンをクリックせず、「製造元」から「NEC」を選択したあと手順9に進んでください。

6. [参照]ボタンをクリックする

7. [ファイルの場所]から[AtermIT31L]ドライブの中の[Intnet]フォルダ→[Nt40]フォルダを選択し、[開く]ボタンをクリックする

8. [参照]ボタンをクリックする

9. 使用するモデム情報を選択し、[次へ]ボタンをクリックする

接続するアクセスポイントのタイプや通信の種類によって、選択するモデム情報が異なります。通常は「AtermIT SYNC115」を選択してください。

アクセスポイント・目的	モデム情報
同期64K、PIAFS通信	AtermIT SYNC115
非同期57.6K	AtermIT ASYNC115
128KマルチリンクPPP	AtermIT MP128

10. Atermを接続するCOMポートを選択し、[次へ]ボタンをクリックする

11. インストールが完了したら、[完了]ボタンをクリックする

12. 登録したモデム情報を選択し、[プロパティ]ボタンをクリックする。

13. 最高速度を選択し、[OK]ボタンをクリックする

以下のとおり速度を選択します。
AtermIT ASYNC115：[57600または115200]
AtermIT SYNC115：[115200]
AtermIT MP128：[115200または230400]

注：AtermIT MP128でCOMポートに接続する場合は、速度を[115200]としてください。COMポートで230400の速度を出すには、高速シリアルボードが別途必要になります。

14. [ダイヤルのプロパティ]ボタンをクリックする

所在地情報が表示されます。

15. 所在地情報を設定し、[OK]ボタンをクリックする

[登録名]：入力する必要はありません。
[国名／地域]：「日本」が表示されていることを確認してください。
[市外局番]：　現在地の市外局番を入力します。
[所在地からの通話]：初期設定のまま、変更しないでください。

16. [閉じる]ボタンをクリックする

モデム情報の設定が完了します。

お知らせ

複数のモデム情報をインストールするときは、インストールする分だけ手順2～15を繰り返してください。同じモデム情報を重複して登録すると、2つ目のモデム情報の名前に#2が表示されます。不要な方を削除してください。

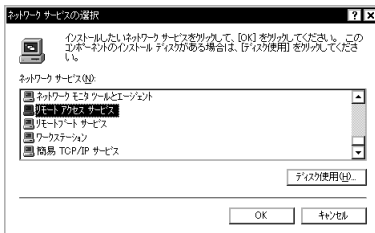
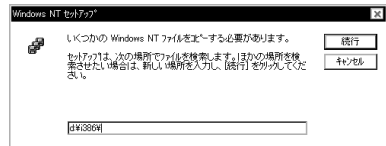
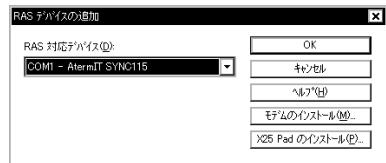
■ リモートアクセス ■

Windows98/95のダイヤルアップネットワークにあたるものが、リモートアクセスです。ただし、リモートアクセスは、ダイヤルアップ接続するクライアント側と、ダイヤルアップ接続を受け付けるサーバー側の両方の機能を持っています。

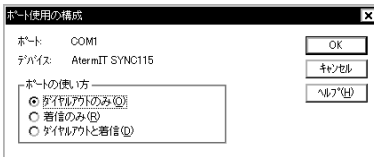
1. [コントロールパネル]の[ネットワーク]アイコンをダブルクリックする

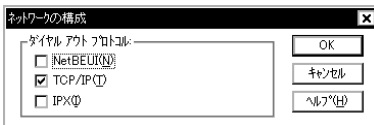
2. サービスの一覧に[リモートアクセスサービス]がないときは、[追加]ボタンをクリックする

[リモートアクセスサービス]が表示されているときはそれを選択し、[プロパティ]ボタンをクリックし、続く画面で[追加]ボタンをクリックすると、手順5の画面となります。

3. ネットワークサービスから[リモートアクセスサービス]を選択し、[OK]ボタンをクリックする

4. 次の画面が表示されたときは、WindowsNT4.0のCD-ROMをドライブにセットし、[続行]ボタンをクリックする

5. RAS対応デバイスからアクセスポイントに対応したAtermのモデム情報を選び、[OK]ボタンをクリックする

アクセスポイント・目的	モデム情報
同期64K、PIAFS通信	AtermIT SYNC115
非同期57.6K	AtermIT ASYNC115
128KマルチリンクPPP	AtermIT MP128

6. [構成]ボタンをクリックする

7. ポートの使い方から[ダイヤルアウトのみ]を選択し、[OK]ボタンをクリックする

8. リモートアクセスセットアップ画面に戻り、[ネットワーク]ボタンをクリックする

9. ダイヤルアウトプロトコルの[TCP/IP]のみをチェックし、[OK]ボタンをクリックする

10. リモートアクセスセットアップ画面に戻り、[続行]ボタンをクリックする

11. ネットワーク画面に戻ったら、[プロトコル]タブを表示する

12. TCP/IPプロトコルが追加されていることを確認し、[閉じる]ボタンをクリックする

13. 再起動メッセージが表示されたら、[はい]ボタンをクリックして再起動する

お知らせ

- 手順7で[ダイヤルアウトのみ]を選択すると、発信専用となります。
- ダイヤルアップでの着信を受け付けるリモートアクセスサーバー(RASサーバー)を構成するときは、[着信のみ]または[ダイヤルアウトと着信]を選択します。
  ただし、着信を待ち受けしている間もCOMポートが占有され、らくらくアシスタントが起動できなくなります。らくらくアシスタントを使用するときは、いったん[ダイヤルアウトのみ]に切り替えてください。

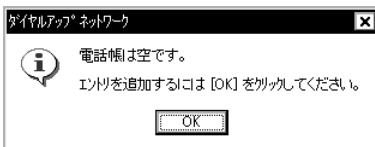
■ ダイヤルアップ接続情報を作成する ■

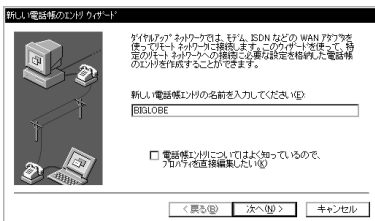
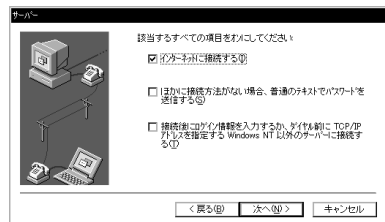
プロバイダにダイヤルアップ接続するための接続情報を作成します。なお、設定内容はプロバイダによって異なるため、詳細はご利用になるプロバイダへお問い合わせください。
ここではBIGLOBEを例に説明します。

● アクセスポイントの情報を設定する

新しい接続先を作成します。

1. デスクトップの[マイコンピュータ]の[ダイヤルアップネットワーク]アイコンをダブルクリックする

2. 次の画面が表示されたときは[OK]ボタンをクリックする

次の画面が表示されたときは[新規]ボタンをクリックする

3. 新しい電話帳エントリウィザードが起動したら、接続するプロバイダ名などを入力し、[次へ]ボタンをクリックする

4. [インターネットに接続する]のみをチェックし、[次へ]ボタンをクリックする

5. 接続するアクセスポイントの電話番号を入力し、[次へ]ボタンをクリックする

PIAFS通信を行うときは，電話番号に続けて「PF」（32K）「PD」（64K）「PP」（32K/64K）と入力します。
「PIAFSデータ通信」（☞2-14ページ）

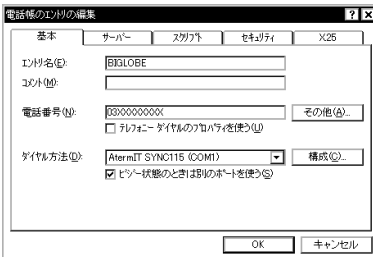
6. [完了]ボタンをクリックする

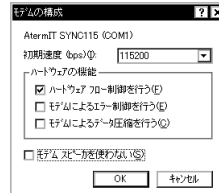
● サーバー情報を設定する

作成したダイヤルアップネットワークに、サーバーの情報を設定します。

1. ダイヤルアップネットワーク画面に戻り、[その他]ボタンをクリックし、[エントリとモデムのプロパティの編集]を選択する

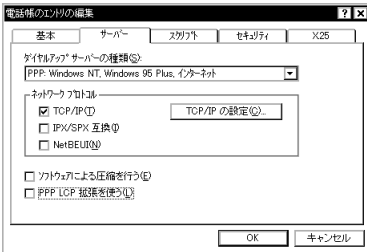
2. [基本]タブをクリックし、[構成]ボタンをクリックする

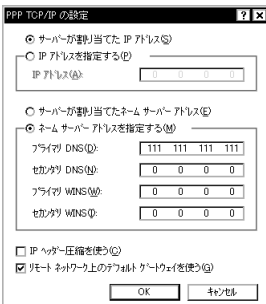
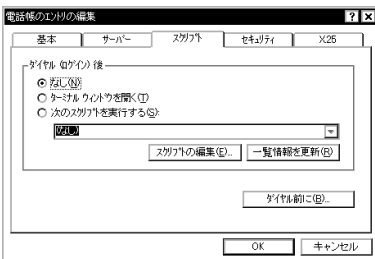
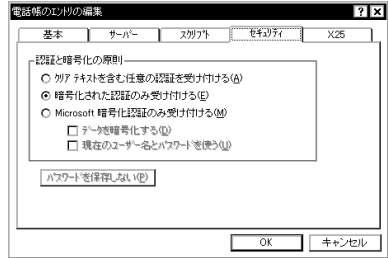
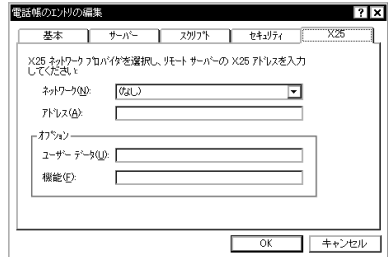
[基本]タブで電話番号やダイヤル方法(モデム情報)が正しく設定されていることを確認してください。

3. 初期速度から[115200]を選択し、[ハードウェアフロー制御を行う]のみをチェックし、[OK]ボタンをクリックする

128KマルチリンクPPPの場合は、[230400]を設定します。

4. [サーバー]タブをクリックし、ダイヤルアップサーバーの種類から[PPP:WindowsNT、Windows95 PLUS、インターネット]を選択する

お知らせ・・・・・・・

初期速度を230400に設定するには、高速シリアルボードが別途必要になります。

5. ネットワークプロトコルから[TCP/IP]をチェックし、[TCP/IPの設定]ボタンをクリックする

6. ネームサーバーのIPアドレスを入力し、[OK]ボタンをクリックする

[ネームサーバーアドレスを指定する]をチェックしてプライマリDNS、セカンダリDNSを半角文字で入力します。DNSを自動割り当てするプロバイダの場合は、入力不要です。
[IPヘッダー圧縮を使う]のチェックをはずしてください。

7. [スクリプト]タブをクリックし、次のように設定されていることを確認する

8. ダイヤルアップサーバーとして接続を受け付ける場合は、[セキュリティ]タブをクリックし、[クリアテキストを含む任意の認証を受け付ける]または[暗号化された認証のみ受け付ける]を選択する

9. [X25]タブをクリックし、次のように設定されていることを確認し、[OK]ボタンをクリックする

10. ダイヤルアップネットワーク画面に戻る

■ インターネットへ接続する ■

設定した情報を使い、ダイヤルアップで接続します。

1. [マイコンピュータ]の[ダイヤルアップネットワーク]アイコンをダブルクリックする

2. ダイヤルする電話帳エントリから接続先プロバイダを選択し、[ダイヤル]ボタンをクリックする

3. ユーザー名とパスワードを入力し、[OK]ボタンをクリックする

ユーザー名とパスワードを入力します。[パスワードを保存する]をチェックすると、次回からパスワード入力の手間が省けます。

BIGLOBE への接続

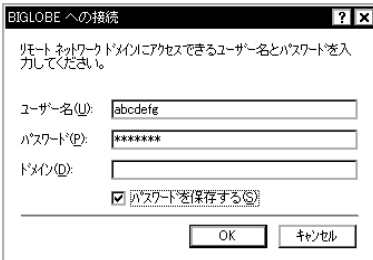
リモート ネットワーク ドメインにアクセスできるユーザー名とパスワードを入力してください。

ユーザー名(U): abcdefg

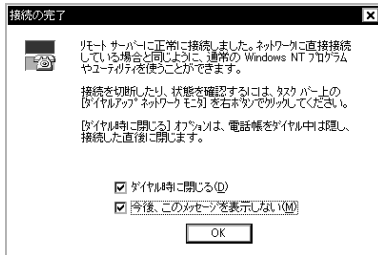
パスワード(P): *******

ドメイン(D):

☑ パスワードを保存する(S)

OK　キャンセル

4. サーバーに接続される

回線がつながると、ユーザー名とパスワードが確認されます。サーバーへの接続が受け付けられると、次の画面が表示され、タスクトレイにはダイヤルアップネットワークモニタインジケータが表示されます。

次回接続時からこの画面を表示しないようにするには、[今後、このメッセージを表示しない]をチェックし、[OK]ボタンをクリックしてください。

5. 電子メールソフトやWWWブラウザなどのアプリケーションを起動する

この状態でさまざまなインターネットアプリケーションを使用できます。Atermにはインターネットアプリケーションは付属していません。Windowsに付属のものをご利用になるか、別途ご用意ください。

お知らせ

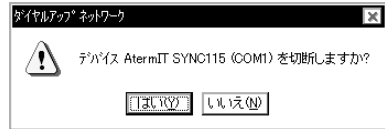
- アクセスポイントまで接続したあと、認証の失敗などでインターネットに接続できないことがあります。その場合は、接続できなくても通信料金がかかります。
- 自動発信の場合、話中時の再発信の回数は、「最初の発信から3分間に2回以内」と制限されています。したがって、3回目からの再発信は受け付けられません。時間をおいてから再発信してください。

● インターネットへの接続を切断する

インターネットの利用を終了したら、ダイヤルアップ接続を切断します。

1.　タスクトレイのダイヤルアップネットワークインジケータをダブルクリックする

2.　ダイヤルアップネットワークモニタ画面で[切断]ボタンをクリックする

3.　次のメッセージが表示されたら[はい]ボタンをクリックする

回線が正常に切断されると、AtermのDataランプとActランプが消灯します。

お願い・・・・・・・・

- ダイヤルアップネットワークモニタインジケータが表示されている間は、ずっと電話がつながったままで、通信料金がかかります（WWWブラウザを終了しても切断されません）。インターネットを使用していないときは、[切断]ボタンをクリックするのを忘れないでください。
- パソコンのストールなどにより、パソコンから回線を切断できない場合があります。インターネットの利用が終了して回線を切断したあとは、必ずAterm本体前面のActランプが消えていることをご確認ください。
  AtermのActランプが点灯しているときは、回線がつながったままです。そのまま放置すると通信費用がかかります。このようなときはまず、でかけるボタンを押して通信データを切断してください（☞2-23ページ）。それでもActボタンが点灯したままの場合は、AtermとINSネット64を接続している回線ケーブルを一度抜くか、Aterm本体の電源を切って10秒以上おいてから再び電源を入れて、通信回線を強制的に切断してください。
  Atermの回線ケーブルを抜くまたは電源を切ると、Atermのすべての通信は切断されます。他の機器が通信中（通話中）でないことを確認してから回線ケーブルを抜いてください。なお、電源を切ると、累積料金や着信履歴のデータが消えてしまいます。

2.データ通信

この章では、インターネット通信やリモートアクセスの際のさまざまな機能と設定について説明しています。

データ通信機能一覧

機能・サービス	内　　　容	らくらくアシスタントのメニュー
64K通信（非同期／同期PPP変換）	非同期通信に対応したパソコンも、同期アクセスポイントに接続できます。	[インターネット接続の設定]
128kbpsマルチリンクPPP通信	2本のBチャネルを利用して高速で通信できます。	[インターネット接続の設定] 128kbps用ダイヤルアップ接続情報を作成します。
マルチアクセス	Atermにつないだ2台のパソコンから別々のプロバイダに同時にアクセスできます。	―
PIAFSデータ通信	PHSのデータ通信標準規格への対応により、PHSからAtermへのリモートアクセスが可能です。PIAFS2.0/2.1版対応	[インターネット接続の設定] PIAFS通信用のダイヤルアップ接続情報を作成します。
スティルスコールバック	クライアント側から接続したときに、サーバー側から接続し直します。通信料金をサーバー側に負担させるための機能です。	[データポートの詳細設定]
応答平均化	一本のINSネット64に複数のAtermが接続されているときに、各Atermへの着信応答を平均化します。	[データポートの詳細設定]
無通信監視タイマ	通信しない状態が長く続いた場合（時間を設定）、接続を自動的に切断します。切断忘れを防ぎます。	[データポートの詳細設定]
強制切断タイマ	通信が長時間続いた場合（時間を設定）、自動的に接続を切断します。パソコンの動作不良などによる切断失敗に備えます。	[データポートの詳細設定]
通信中データ切断	通信中にデータを手動で切断します。パソコンからの切断がうまくいかない場合などに利用します。	―
CTI機能	電話機やFAXへの着信時に回線から通知される情報をパソコンで利用します。	―
OCNエコノミー	OCNエコノミーを利用してインターネットに常時接続します。	―
発信者番号通知	INSネット64の「発信者番号通知サービス」に対応しています。自分の電話番号を相手に通知する／しないをポートごとに選択できます。	[データポートの詳細設定]
i・ナンバー対応	INSネット64のi・ナンバーに対応しています。電話機やパソコンなどを3つまでの電話番号で呼び分けることができます。	[INS回線の電話番号の設定]
ダイヤルインサービス対応	INSネット64のダイヤルインサービスに対応しています。電話機やパソコンなどを複数の電話番号（8つまで）で呼び分けることができます。	[INS回線の電話番号の設定]
優先着信ポート指定	シリアルポートとUSBポートに同じ電話番号を割り当てた場合に、優先的に着信するポートを指定できます。	[データポートの詳細設定]

機能・サービス	内　　容	らくらくアシスタントのメニュー
サブアドレス	サブアドレスを設定し、端末を呼び分けることができます。	[データポートの詳細設定]
疑似識別着信	あらかじめ設定した相手だけを着信させ、それ以外の相手は受け付けないようにします。	[データポートの詳細設定]
HLC	相手もINSネット64に加入している場合、接続する通信機器の種別を設定し、それに一致する相手とのみ通信を行うことができます。	[データポートの詳細設定]
SmartWakeup!サービス	NECのTVパソコンで、BIGLOBEの「SmartVision TV録画予約サービス」とオプションサービスの「SmartWakeup!サービス」を使って、i・モード対応携帯電話や外出先のパソコンから、Aterm経由で自宅のTVパソコンを遠隔起動し、TV録画予約を行うことができます。	–

Windows® MeはMicrosoft® Windows® Millennium Edition operating systemの略です。
Windows® 98はMicrosoft® Windows® 98 operating systemの略です。
Windows® 95はMicrosoft® Windows® 95 operating systemの略です。
Windows® 2000はMicrosoft® Windows® 2000 operating systemの略です。
WindowsNT® 4.0はMicrosoft® WindowsNT® operating system version 4.0の略です。

1 64K通信(非同期/同期PPP変換)

64kbps同期アクセスポイントにつなぐ

同期PPP(Point to Point Protocol)接続機能をサポートしていないパソコン(非同期PPP接続機能を持つパソコン)を、インターネットプロバイダの64kbps(同期)のアクセスポイントに接続できます。

■ 利用条件 ■

ご利用のインターネットプロバイダの同期64kbpsのアクセスポイントに接続して利用します。

お知らせ・・・・・・・

サーバーなどにAtermを設置し、Aterm間で64kbpsの対向通信ができます。リモートアクセスに便利な「応答平均化」(☞2-19ページ)や「スティルスコールバック」(☞2-16ページ)なども利用できます。

■ 非同期/同期PPP変換機能を有効にする ■

1. 同期64kbps接続のモデム情報を使ってダイヤルアップ接続情報を作成する

以下のいずれかの方法で作成したダイヤルアップアイコンをダブルクリックして接続します。

・らくらくアシスタントを使ってダイヤルアップ情報を作成する場合

WindowsMe/98/95/2000の場合 →「インターネットのセットアップ」(☞『取扱説明書』2-53ページ)で接続速度から[同期64kbps]を選択する

Macintoshの場合 →「インターネットのセットアップ」(☞『取扱説明書』2-69ページ)でモデムから[NEC AtermIT 64kPPP]を選択する

・手動でダイヤルアップ情報を作成する場合

WindowsMe/98/95の場合 →「ダイヤルアップ接続情報を作成する」(☞1-21ページ)でモデムの選択から[AtermIT SYNC115]を選択する

Windows2000の場合 →「ダイヤルアップ接続情報を作成する」(☞1-28ページ)でモデムプロトコルから[PPP(64k)]を選択する

WindowsNT4.0の場合 →「サーバー情報を設定する」(☞1-45ページ)の[基本]タブのダイヤル方法から[AtermIT SYNC115]を選択する

Macintoshの場合 →「インターネット接続アシスタントで設定する」(☞1-33ページ)で、モデムから[NEC AtermIT 64kPPP]を選択する

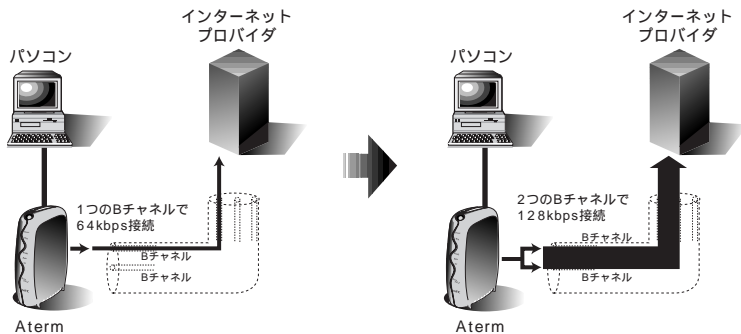
・ATコマンドを使う場合

発信する前に、at$n1=1を入力する

2. ダイヤルアップ接続する

2 128kbps マルチリンク PPP 通信

Bチャネル2本で高速通信する

INSネット64でも、プログラムやマルチメディアファイルなどデータのサイズが大きくなると、データの転送には時間がかかります。このような場合に128kbpsマルチリンクPPP通信を使うと、データ転送時間を短縮できます。

通常の同期64kbps通信ではBチャネル1本のみを使っていますので、理論上は、64kbpsの速度で通信できることになります。128kbpsマルチリンクPPP通信を利用すると、Bチャネル2本を同時に使うので、理論上は、64kbpsの2倍の128kbpsでの通信が可能となり（道路が太くなった分だけ一度に大量のデータを流すことができます）、その分だけ通信時間が短くなります。
ただし、Bチャネルを2本使うため通話料金も2倍になるので、ホームページを閲覧する場合のように、たくさんのデータを一度に転送しない場合は、同期64kbps通信をおすすめします。

■ 利用条件 ■

ご利用のインターネットプロバイダが同期128kbpsに対応するアクセスポイントを備えていることが必要です（☞『取扱説明書』「おすすめプロバイダBIGLOBEのご紹介」6-30ページ）。

■ BOD機能 ■

128kbpsマルチリンクPPP通信中は、BOD（Bandwidth on Demand）機能を使って、Bチャネル数＝通信速度（128kbps ↔ 64kbps）を切り替えることができます。

- **リソースBOD（☞2-8ページ）**

  アナログポートに接続した電話機の発着信に応じて、128kbps ↔ 64kbps通信を自動的に切り替えます。

- **スループットBOD（☞2-10ページ）**

  データ量に応じて、64kbps ↔128kbps通信を自動的に切り替えます。

2.1 128kbps マルチリンク PPP で通信する

128kbpsマルチリンクPPP用のモデム情報を使って、ダイヤルアップ接続します。工場出荷時の状態のままで、リソースBODやスループットBODの設定を行っていない場合は、128kbpsで固定的に接続されます。

1. 128kbpsマルチリンクPPPのモデム情報を使ってダイヤルアップ接続情報を作成する

以下のいずれかの方法で作成したダイヤルアップアイコンをクリックして接続します。

- **らくらくアシスタントを使ってダイヤルアップ情報を作成する場合**

WindowsMe/98/95/2000の場合 →「インターネットのセットアップ」（☞『取扱説明書』2-53ページ）で接続速度から[同期128kbps]を選択する

Macintoshの場合 →「インターネットのセットアップ」（☞『取扱説明書』2-69ページ）でモデムから[NEC AtermIT MP...]を選択する

- **手動でダイヤルアップ情報を作成する場合**

WindowsMe/98/95の場合 →「ダイヤルアップ接続情報を作成する」（☞1-21ページ）でモデムの選択から[Aterm IT MP128]を選択する

Windows2000の場合 →「ダイヤルアップ接続情報を作成する」（☞1-28ページ）でモデムプロトコルから[PPP(128k)]を選択する

WindowsNT4.0の場合 →「サーバー情報を設定する」（☞1-45ページ）の[基本]タブのダイヤル方法から[Aterm IT MP128]を選択する

- **ATコマンドを使う場合**

発信する前に、at＄n11=1を入力する

2. ダイヤルアップ接続する

128kbpsマルチリンクPPP通信状態になると「ピッピッ」とブザーが鳴ります。

お知らせ

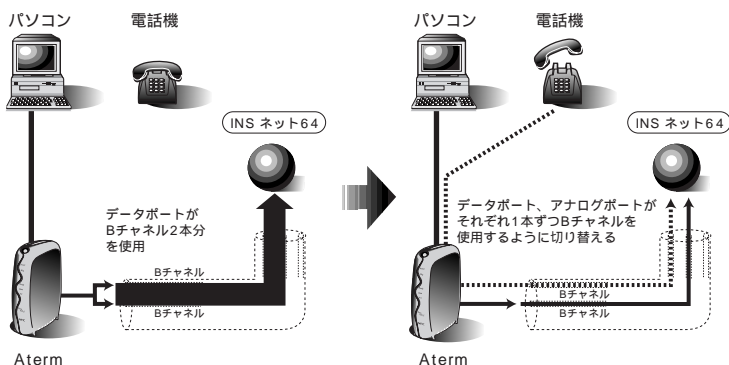
- リソースBODやスループットBODを使う設定をしていない場合、通信中に64kbpsと128kbpsを切り替えることはできません。
- 128kbpsマルチリンクPPP通信で発信しても、プロバイダのアクセスポイントのポートに空きがない場合は、Bチャネルを1本しか確保できないことがあります。この場合、自動的に同期64kbps通信が行われます。
- 128kbpsマルチリンクPPP通信では、プロバイダ側で認証プロトコルとしてPAP（パスワード認証プロトコル）をサポートし、2本目のBチャネルのPPPネゴシエーションが1本目のBチャネルと同じ値を容認している必要があります（通常は容認されます）。

- Atermのシリアルポートにパソコンを接続する場合は、パソコン側のシリアルポートの速度を230.4kbpsに設定してください。Windowsの場合、パソコンによっては、市販の高速シリアルボードを別途購入してください。USBポート接続が可能な場合は、パソコンをUSBポートに接続してお使いください。
- Aterm間で通信を行う場合、通信相手が以下のいずれかをお使いの場合に限り、128kbpsマルチリンクPPPの対向通信を行うことができます。

  AtermITシリーズ(IT30、IT35、IT45シリーズは除く)　AtermITXシリーズ
  AtermIWシリーズ　AtermIWXシリーズ

  また、受信側で応答平均化機能を設定している場合は、解除してください。応答平均化機能の詳細については、「応答平均化」(☞2-19ページ)を参照してください。

2.2 リソースBOD

アナログポートの発着信によって、64kbps通信と128kbps通信を自動的に切り替える機能です。
128kbpsマルチリンクPPP通信中は、Bチャネル2本を使用するため、通常はアナログポートに接続した電話機やファクスを使うことができなくなります。
しかし、「リソースBOD」を設定すると、電話やファクスの発着信時、使用するBチャネルが自動的に1本に切り替わり、電話機やファクスも使えるようになります。
電話やファクスを使用する時にBチャネルが1本削除（解除）されると、ブザーが「ピッ」と鳴ってお知らせします。電話やファクス終了後に2本目のBチャネルが追加されると、「ピッピッ」と鳴ってお知らせします。

お願い

- プロバイダが混雑していると、電話が終了し受話器を置いても2本目のBチャネルが追加されず、「ピッピッ」とブザーが鳴りません。このようなときには、もう一度受話器をあげ、2秒ぐらい待ってから受話器を戻す操作を行ってください。Bチャネルの追加が再度試みられます。
- 2本目のBチャネルの追加と電話をかけるタイミングがぶつかると、話中音が聞こえることがあります。この場合、一度受話器を戻して、電話をかけ直してください。

■ 利用条件 ■

	リソースBOD
追加契約	INSネット64 通信中着信通知　利用する
追加料金	なし
利用条件	－
その他	－

■ リソースBODを設定する ■

1. らくらくアシスタントのメニュー画面を表示する

2. [データポートの詳細設定]ボタンをクリックする

3. [シリアルポート]／[USBポート]タブをクリックする

設定するポートのタブをクリックします。

4. 設定項目から[MP・BOD機能]を選択する

5. リソースBODを設定する

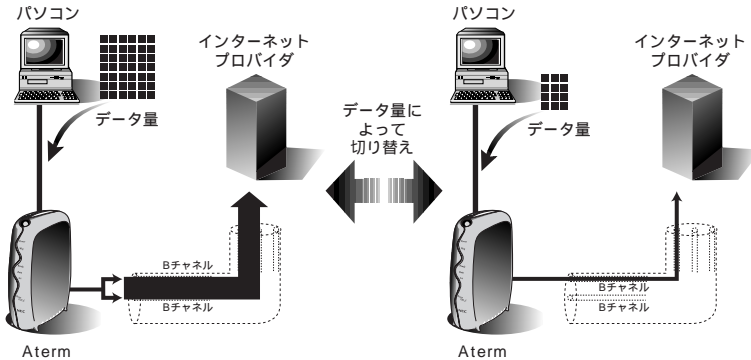
「リソースBODを行う」をチェックします。

（初期値　チェックなし）

6. [OK]ボタンをクリックする

らくらくアシスタントの画面に戻ります。

2.3 スループット BOD

データ量に応じて、64kbps通信と128kbps通信を自動的に切り替える機能です。128kbpsマルチリンクPPP通信中は、2本のBチャネルを使用するので通信料金も2倍になります。したがって、通信データ量が少ない場合は、無駄な通信料金を支払うことになります。
スループットBODは、通信データ量が少ないときは、Bチャネルを1本削除して64kbps通信に、データ量が多くなると、Bチャネルを1本追加して128kbps通信とする機能です。これによって、通信料金を節約できます。

スループットBODは、らくらくアシスタントで設定する算出時間やしきい値(回線利用率)によって動作します。

■ スループットBODを設定する ■

スループットBODの動作条件となるパラメータを設定します。
各パラメータの意味は次のとおりです。

リンク追加算出時間:
　Bチャネルを追加するかどうかを算出するための時間

リンク削除算出時間:
　Bチャネルを削除するかどうかを算出するための時間

リンク追加しきい値:
　回線利用率(%)＝一定時間のデータ量の平均値／回線の最大データ量(64kbps)×100

リンク削除しきい値:
　回線利用率(%)＝一定時間のデータ量の平均値／回線の最大データ量(64kbps)×100

例:リンク追加算出時間:30秒、リンク追加しきい値:70%の場合
　30秒間の回線利用率が70%(44.8kbps)より大きくなったときに、Bチャネルを追加します。

1. **らくらくアシスタントのメインメニュー画面を表示する**

2. **[データポートの詳細設定]ボタンをクリックする**

3. **[シリアルポート]／[USBポート]タブをクリックする**

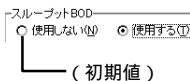
   設定するポートのタブをクリックします。

4. **設定項目から[MP･BOD機能]を選択する**

5. **スループットBODを行うように設定する**

   スループットBODから「使用する」を選択します。

   スループットBOD
   ○ 使用しない(N)　◉ 使用する(T)

   （初期値）

6. **リンク追加算出時間･リンク削除算出時間･リンク追加しきい値･リンク削除しきい値を入力する**

リンク追加算出時間(L)	30	秒
リンク削除算出時間(D)	10	秒
リンク追加しきい値(M)	70	%
リンク削除しきい値(X)	20	%

7. **[OK]ボタンをクリックする**

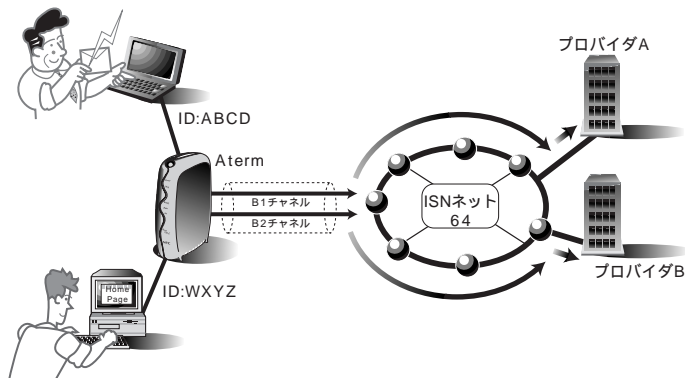
   らくらくアシスタントの画面に戻ります。

お願い

手順6で入力する値によっては、接続･切断をひんぱんに繰り返すことがあり、かえって電話料金が高くなることがあります。ご注意ください。

3 マルチアクセス

パソコン2台で同時にアクセスする

シリアルポート･USBポートに接続した2台のパソコンから、同時にインターネットに接続できます。

各ポートは、B1チャネル、B2チャネルを使ってそれぞれ独立した通信を行います。したがって、接続先のインターネットプロバイダやアクセスポイントは異なっていてもかまいません。

■ 利用条件 ■

- 非同期通信またはPIAFS通信の組み合わせでは、十分な通信速度が得られなかったり、回線に接続できない場合があります。このような場合は、マルチアクセスではなく、1台のパソコンのみを回線に接続してご利用ください。
- 非同期通信は非同期通信と同時にマルチアクセス通信することはできません。
- PIAFS32K/64KはPIAFS32K/64Kと同時にマルチアクセス通信することはできません。
- 利用可能な通信モードは、64kbps同期通信、非同期通信、PIAFS2.1、PIAFS2.0の32Kおよび64Kです。ただし、非同期通信はシリアルポートのみ可能です。
- 2本のBチャネルを使用しているので、電話機やファクスは使用できません。電話の着信があった場合は、話し中となります。
- マルチアクセス中は、BOD機能は動作しません。
- 着信でもマルチアクセスを行うことができます。シリアルポートとUSBポートのどちらを優先的に着信させるかを指定することもできます。「優先着信ポート指定」(☞2-38ページ)
- 128kbpsマルチリンクPPP通信はマルチアクセス通信はできません。

■ マルチアクセスで接続する ■

ダイヤルアップ接続中にもう１台のパソコンから通常の手順でダイヤルアップ接続すると、マルチアクセスとなります。各Bチャネルで、通常の６４k同期接続を行うほか、非同期通信やPIAFS３２K/６４K通信（☞2-１４ページ）を組み合わせて利用できます。

1. **1本目のBチャネルを使い、同期6４kbpsまたは非同期5７.6kbps、PIAFSでダイヤルアップ接続する**

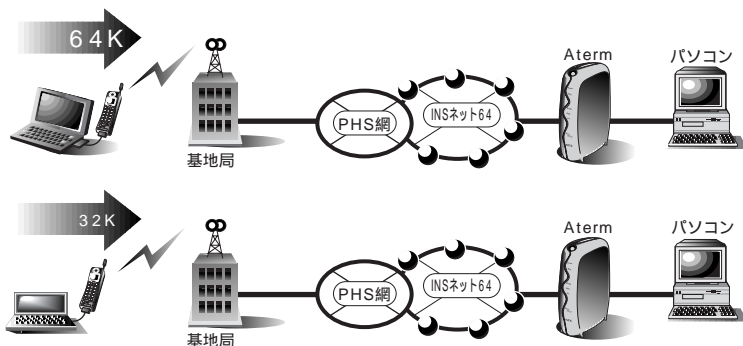
   １台目のパソコンからダイヤルアップ接続します。

2. **2本目のBチャネルを使い、同期6４kbpsまたは非同期5７.6kbps、PIAFSでダイヤルアップ接続する**

   ２台目のパソコンからダイヤルアップ接続します。

4 PIAFS（ピアフ）データ通信

PHSと通信する

外出時などPHSを接続したノートパソコン等から、Atermのデータポートに接続した自宅のパソコンにダイヤルアップ接続し、データの送受信を行うことができます。

AtermはPIAFS2.0/PIAFS2.1版に準拠しています。PHSの基地局とINSネット64を介して、32kbpsまたは64kbpsの通信ができます。

お知らせ

PIAFS
- PHS Internet Access Forum Standardの略。高品質なデータ通信方式のために標準化された規格です。
- PIAFS2.1（ベストエフォート式）は、通常は64kbpsで通信しますが、電波の状況や基地局の使用状況により、64kbpsで通信できないときは自動的に32kbpsで通信します。

■ PHSから着信する ■

PIAFSモードでの着信があると、Atermが自動的に判別してPIAFS通信を行います。設定は不要です。

■ AtermからPIAFSデータ通信で発信する ■

AtermからPHSやPIAFS対応のアクセスポイントなどへ発信するには、以下の方法を使います。

■ Windowsの場合 ■

1. ダイヤルアップ接続情報を作成する

・らくらくアシスタントを使ってダイヤルアップ情報を作成する場合

「インターネットのセットアップ」（☞『取扱説明書』2-53ページ）で接続速度から[同期64kbps]を選択する

・手動でダイヤルアップ情報を作成する場合

WindowsMe/98/95の場合	→「ダイヤルアップ接続情報を作成する」（☞1-21ページ）でモデムの選択から[Aterm IT SYNK115]を選択する
Windows2000の場合	→「ダイヤルアップ接続情報を作成する」（☞1-28ページ）でモデムプロトコルから[PIAFS発信]を選択する
WindowsNT4.0の場合	→「サーバー情報を設定する」（☞1-45ページ）の[基本]タブのダイヤル方法から[Aterm IT SYNK115]を選択する

2. 電話番号の末尾にPF・PD・PPのいずれかを付けて発信する

●ダイヤルアップネットワークでは

PIAFS32K通信の場合	PF
PIAFS64K（PIAFS2.0）通信の場合	PD
PIAFS64K（PIAFS2.1）通信の場合	PP

（WindowsMe/98/95の例）

■ Macintoshの場合 ■

1. PIAFS通信にあったCCLファイルを選択する

・らくらくアシスタントを使ってダイヤルアップ情報を作成する場合

「インターネットのセットアップ」（☞『取扱説明書』2-69ページ）で、モデムから[NEC AtermIT PIAFS32K]または[NEC AtermIT PIAFS64K]を選択する

・手動でダイヤルアップ情報を作成する場合

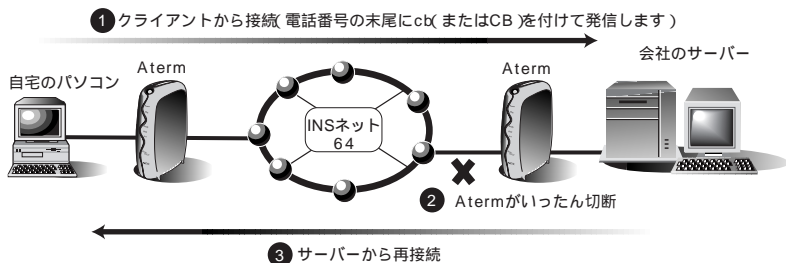
「インターネット接続アシスタントで設定する」（☞1-33ページ）でモデムから[NEC AtermIT PIAFS32K]または[NEC AtermIT PIAFS64K]を選択する

お願い

- WindowsMe/98/95をお使いの場合、ダイヤルネットワークのバージョンによっては、「市外局番とダイヤルのプロパティを使う」のチェックをはずさないと正しく発信できない場合があります。その場合はチェックをはずしてください。
- PIAFS64k通信を行うときは、発信者番号通知（☞2-30ページ）を行うように設定してください。

5 スティルスコールバック

通信料金を相手側(サーバー)に負担させる

自宅のパソコンから会社のサーバーにダイヤルアップ接続するような場合、通信料金が心配ですが、スティルスコールバックを使うと、通信料金が自分ではなく会社側にかかるようになります。

リモートクライアントからサーバーにダイヤルアップ接続すると、サーバー側のAtermが着信を拒否し、今度はサーバー側のAtermからクライアントに接続し直します。

■ 利用条件 ■

クライアント側の回線に複数のターミナルアダプタが接続されているときは、Atermを指定できるようにサブアドレスやi・ナンバーなどを利用してください。Atermを指定しないと、かけ直したときにほかのターミナルアダプタが応答することがあります。

■ 利用可能機種 ■

AtermITシリーズ(IT30、IT35は除く) AtermITXシリーズ AtermIWシリーズ AtermIWXシリーズ AtermIB55シリーズ AtermIC20シリーズ(クライアントのみ可)

■ リモートクライアント(発信)側のスティルスコールバックを設定する ■

クライアント側に、スティルスコールバックを利用するための設定を行います。

1. 「発信者番号通知」を「通知する」に設定する

相手に発信者番号を通知するように設定します。

●らくらくアシスタントを使う場合

「発信者番号通知」(☞2-30ページ)

●ATコマンドを使う場合

at$n12=1

2. 「スティルスコールバックする」に設定する

●らくらくアシスタントを使う場合

1)らくらくアシスタントの「メニュー画面」を表示する

2)[データポートの詳細設定]ボタンをクリックする

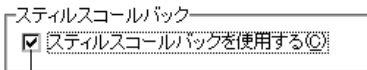
3)[シリアルポート]／[USBポート]タブをクリックする

4)設定項目から[その他]を選択する

5)「スティルスコールバックを使用する」をチェックする

（初期値　チェックなし）

●ATコマンドを使う場合

at＄n10=1

3. 電話番号の末尾にCBまたはcbをつけて発信する

●ダイヤルアップネットワークを使う場合

接続
サーバ接続
ユーザー名(U): user
パスワード(P): ********
パスワードの保存(S)
電話番号(N): 0311111234cb
発信元(F): 新しい場所　ダイヤルのプロパティ(D)...
接続　キャンセル

●ATコマンドを使う場合

例：atd0311111234cb

■ サーバー(着信)側のスティルスコールバックを設定する ■

サーバー側に、スティルスコールバックを利用するための設定を行います。

1. 「発信者番号通知」を「通知する」に設定する

相手に発信者番号を通知するように設定します。

●らくらくアシスタントを使う場合

「発信者番号通知」(☞2-30ページ)

●ATコマンドを使う場合

at＄n12=1

2. 「スティルスコールバックする」に設定する

リモートクライアント側の手順2と同じです。

3. サーバー側を待ち受け状態にする

お知らせ・・・・・・・・

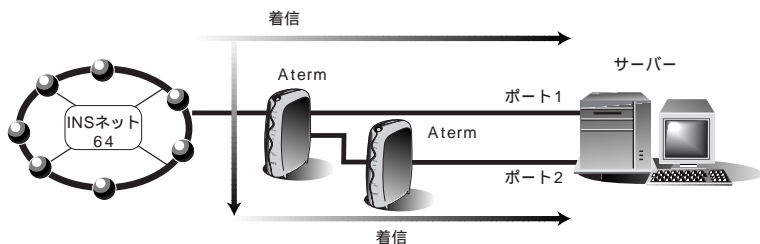
- 発信側・着信側とも以下の設定にしてください。

  RS-CSフロー制御あり（初期値）
  　at￥q3
  自動応答（初期値RING1回で自動応答）
  　ats0＝1

- スティルスコールバックを行ったかどうかは、通信の前後で累積通信料金が増えていないことで確認できます。
- 「スティルスコールバックする」に設定しておいても、通常の発着信を行うことができます。
- 128kbpsマルチリンクPPP通信では利用できません。
- アナログポートでは使用できません。
- ほかの相手がスティルスコールバックを行うことのないように、サーバ側で疑似識別着信（☞2-43ページ）に設定することをおすすめします。

6 応答平均化

複数のAtermを均等に使う

一本のINSネット64に複数のAtermが接続されているときに、各Atermへの着信応答を平均化できます。サーバーに対する無駄な着信を防ぐとともに、サーバを効率よく使用できます。

サーバーに2台のAtermが接続されている場合、リモートクライアントからサーバーにアクセスがあるとサーバーのポート1とポート2に同時に着信がかかります。サーバーは両方のポートに応答しますが、早く応答したポートはリモートクライアントと通信状態になり、遅く応答したポートは接続に失敗して切断されます。このため、遅く応答したポートは着信から切断復旧まで次の着信を受けることができず、サーバのメモリなどの資源が無効に消費されてしまいます。
応答平均化機能を利用すると、2台のAtermを使ってもサーバーのポート1とポート2に交互に着信させることができるようになり、サーバーへの無駄な着信が発生しなくなります。

■ 利用条件 ■

同一のINSネット64に接続されているすべてのAtermについて、以下の手順で「応答平均化する」を設定してください。「応答平均化しない」ターミナルアダプタがあると着信する順番は保証されません。

■ 利用可能機種 ■

AtermITシリーズ（IT30、IT35は除く）　AtermITXシリーズ　AtermIWシリーズ
AtermIWXシリーズ

■ 応答平均化を設定する ■

応答平均化を設定します。

1. らくらくアシスタントの「メニュー画面」を表示する

2. [データポートの詳細設定]ボタンをクリックする

3. [共通設定]タブをクリックする

4. 設定項目から[その他]を選択する

5. 「応答平均化」を設定する

「応答平均化」から「平均化する」を選択し、Atermの接続台数を入力します。

（初期値）

6. [OK]ボタンをクリックする

らくらくアシスタントのメニュー画面に戻ります。

お知らせ・・・・・・・

応答平均化はアナログポートでは利用できません。

7 無通信監視タイマ

通信の切断忘れを防止する

接続したパソコンやサーバーとのデータのやりとりが一定時間ないときに、通信を切断します。うっかりした切断忘れを防止できます。
監視時間（1～10分）を1分きざみで設定し、その時間内にデータのやりとりがなければ、通信を切断します。
ホームページを見たり、メールをやり取りする場合、何らかのデータがやり取りされます。データのやり取りのない状態が一定時間以上続いた場合、何の操作もしていない（切断忘れ）可能性があります。無通信監視タイマはこのような場合に、通信を自動的に切断するものです。

■ 無通信監視時間を設定する ■

監視時間を1～10分までの間で設定します。この間にデータのやり取りがなければ、通信が切断されます。

1. らくらくアシスタントの「メニュー画面」を表示する

2. [データポートの詳細設定]ボタンをクリックする

3. [シリアルポート]／[USBポート]タブをクリックする

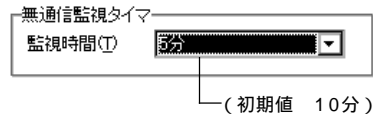
4. 設定項目から[自動切断]を選択する

5. 無通信監視時間を設定する

監視時間を入力します。監視をやめるときは「監視しない」を選択してください。

（初期値　10分）

6. [OK]ボタンをクリックする

らくらくアシスタントのメニュー画面に戻ります。

お願い・・・・・・・・・

- インターネットのプロバイダによっては監視パケットなどを定期的に発信することがあります。この場合は、無通信監視タイマが効かず、通信は切断されませんので、必ずパソコンから手動で切断してください。
- Macintoshに標準で搭載されているリモートアクセスまたはPPPでインターネットに接続する場合、Atermの無通信監視タイマは動作しません。リモートアクセスまたはPPPの方で、無通信時の自動切断を設定してください。

8 強制切断タイマ

切断の失敗を防止する

連続の通信時間が、設定した時間を超えたときに、通信を強制的に切断します。パソコンで切断操作を行っても、ソフトウェアが正常に動作せず切断できなかった場合などの、長時間接続を防止できます。

お願い

初期設定は、「10時間で強制切断する」になっています。切断したくない場合は、必ず「監視しない」に設定してください。

■ 強制切断タイマを設定する ■

強制切断するまでの監視時間を1～10時間の間で設定します。無通信監視タイマが効かないインターネットプロバイダとの間でも有効です。

1. **らくらくアシスタントの「メニュー画面」を表示する**

2. **[データポートの詳細設定]ボタンをクリックする**

3. **[シリアルポート]／[USBポート]タブをクリックする**

4. **設定項目から[自動切断]を選択する**

5. **強制切断時間を設定する**

   切断する時間を入力します。自動切断をやめるときは「監視しない」を選択してください。

（初期値　10時間）

6. **[OK]ボタンをクリックする**

   らくらくアシスタントのメニュー画面に戻ります。

お知らせ

長時間接続して通信費用が発生するのを防止するために、強制切断タイマを必ず設定しておくことをおすすめします。
Macintoshのモデム／プリンタポートは、通信ポートで一般的に使われるER信号とRS信号を一つの信号で制御しています。一般的にデータ通信では、RS-CSフロー制御を使いますが、Macintoshの場合、Atermは「ERを常にONとみなす」を設定しなければなりません。これを設定しないとデータ通信中にフローがかかった時にER信号（RS信号）がOFFになり、通信が切断されてしまうからです。しかしこれは同時に、ER信号を使った切断ができないことを意味します。もう一つの切断方法は、ATコマンドで+++の後、ATHコマンドを送出することです。
一般的に通信ソフトウェアでは、切断時、ER信号OFFと+++を送出しますが、ソフトウェアが異常動作をして、画面上では切断されていても、実際には+++、ATHが送出されずに通信が切断できなくなることが考えられます。

9 通信中データ切断

通信中にデータを手動で切断する

インターネットを終了しようとしたが切断されなかったときなどに手動でデータを切断することができます。

■ 通信中にデータ切断する ■

1. データ通信中に、でかけるボタンを押し続ける

途中でアラーム音が「ピッピッピッピッピッピッ」と鳴りますがそのまま押しつづけてください。およそ6秒後にデータ通信が切断され、「ピッ」音が鳴ります。通信中のデータがないときは再度「ピッピッピッピッピッ」音が鳴ります。

お知らせ・・・・・・・

- 通話中にでかけるボタンを押しても通話は切断されません。

10 CTI機能

電話などの着信情報をパソコンに通知する

一般的にCTI(コンピュータ・テレフォニー・インテグレーション)機能とは、着信時に通知される情報をコンピュータで処理するなど、電話機とコンピュータを統合的に利用する機能を指します。
Atermには、CTI情報出力とCTI発信機能があります。

10.1 CTI情報出力

CTI情報出力とは、アナログポートに通知される着信情報に含まれる発信者番号などを、着信時にシリアルポートまたはUSBポートに以下の形式のリザルトコードで送出する機能です。
非通知理由を受信したときは、発信者番号/発信者サブアドレスの代わりに以下の形式のリザルトコードを送出します。

```
RING ANALOG  発信者番号/発信者サブアドレス  着番号/着サブアドレス
             ↑          ↑                  ↑        ↑
             最大32桁   最大19桁           最大32桁 最大19桁
```

また、非通知理由を受信したときは、発信者番号/発信者サブアドレスの代わりに以下の形式でリザルトコードを送出します。

```
RING ANALOG  [非通知理由]着番号/着サブアドレス
             ↑
             P:ユーザ拒否        O:サービス提供不可
             C:公衆電話発信      S:サービス競合
```

お知らせ

- サブアドレスセパレータ(/)は固定です。
- リザルトコードの最後に付加される[CR][LF]は固定です。
- i・ナンバーを利用しているときは、着信番号の代わりに i・ナンバー情報に対応した電話番号が表示されます。

■ CTI機能の利用を設定する ■

CTI機能を利用するための設定を行います。

1. 以下のATコマンドを入力する

at＄a16=1
at＄b16=1
at＄c16=1

お知らせ

- ATコマンドの詳細については、『ATコマンド解説』を参照してください。

10.2 CTI 発信機能

シリアルポートまたはＵＳＢポートに接続したパソコンからATコマンドを入力し、アナログポートの発信をします。

1. 以下のATコマンドを入力する

AT!D アナログポート番号; 着番号/着サブアドレス

↑（アナログポート番号）
1：電話Aポート
2：電話Bポート
3：電話Cポート

↑（着番号）最大32桁

↑（着サブアドレス）最大19桁

ATコマンドで指定したアナログポートに接続されているアナログ通信機器の着信音が鳴ります。着信音は3分間まで鳴りつづけます。

2. 着信音が鳴っている間に電話機の受話器をあげる

ATコマンドで入力した着信信号に自動的に発信します。着信音が鳴っている間に受話器をあげないと、呼び出しは取り消されます。
また、着信音が鳴っている間に発信を取り消す場合は、以下のATコマンドを入力します（CTI発信キャンセル）。

AT!C アナログポート番号

↑
1:電話Aポート　2:電話Bポート　3:電話Cポート

3. 相手が出たら通話する

11 OCNエコノミー

インターネットに常時接続する

OCNエコノミーはNTTコミュニケーションズ株式会社が提供するサービスで、128kbpsの通信速度でインターネットに常時接続することができます。ここでは、OCNエコノミーに接続する方法を説明します。

■ ご利用条件 ■

ご利用になるには「OCNエコノミー」の契約が必要です。詳しくは、お近くのNTTコミュニケーションズ株式会社までお問い合わせください。

■ Atermを設定する ■

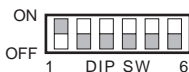
OCNエコノミーに接続するときは、ディップスイッチの切り替えが必要です。

1. Atermの電源を切る

2. 電池カバーを開けてディップスイッチを設定する

ディップスイッチは、電池ケースの中にあります。電池カバーを開け、電池が入っている場合は電池を抜き出してください。
つまようじなど先の細いものでディップスイッチ1をONに、それ以外をOFFの側に倒します。

3. AtermをOCNエコノミー回線に接続する

4. Atermの電源を入れる

お知らせ・・・・・・・

- OCNエコノミーへの接続時、アナログポートに接続した電話機やファクスなどは使用できません。
- OCNエコノミーの設定中、ファームウェアのバージョンアップはできません。バージョンアップを行う場合は、ディップスイッチ1をいったんOFFにして、電源を入れ直してください。

■ パソコン側の設定と通信のしかた ■

OCNエコノミーへのアクセスは、ダイヤルアップ接続で行うことができます。基本的な手順はインターネットプロバイダにアクセスする方法と同じですが、次の設定を必ず行ってください。

● パソコンの接続

シリアルポート、USBポートのどちらか一方に接続します。

お願い

Atermのシリアルポートにパソコンを接続する場合、パソコン側のシリアルポートの速度は230.4kbpsに設定してください。Windowsの場合、パソコンよっては、市販の高速シリアルボードを別途購入してください。USBポート接続が可能な場合は、パソコンをUSBポートに接続してお使いください。

● ダイヤルアップ接続情報の作成

基本的手順は通常のダイヤルアップ接続と同じですが、以下の点が異なります。

- ISDN回線128kbps(同期)用のモデム情報を使う
- 自分用に割り当てられた8個のIPアドレスのうち、ネットワークアドレスとブロードキャストアドレスを除く6個のアドレスの1つを設定する
- 指定されたDNSアドレスを設定する
- 電話番号には「0」など任意の数字を入力する

(1) WindowsMe/98/95の場合

「ダイヤルアップ接続情報を作成する」(☞1-21～24ページ)の手順に従ってダイヤルアップ接続情報を作成します。ただし、以下の手順については、該当ページに記述されている内容ではなく、以下の操作を行ってください。

1-22ページの手順4　**接続するプロバイダ名とモデム情報を指定し、[次へ]ボタンをクリックする**

[接続名]:「OCNエコノミー」と入力します。
[モデムの選択]:「AtermIT MP128」を選択します。

1-22ページの手順5　**電話番号に「0」を指定し、[次へ]ボタンをクリックする**

[市外局番]:Windows95の場合、先頭の0を除いて入力します(例:東京「03」の場合は「3」)。
[電話番号]:「0」などの任意の数字を入力します。
[国番号]:「日本(81)」と表示されていないときは、リストから選択します。

1-24ページの手順5　**自分のIPアドレスとDNSアドレスを入力し、[OK]ボタンをクリックする**

[IPアドレス]：[IPアドレスを指定する]を選択し、割り当てられたIPアドレスを入力します。
[ネームサーバーアドレス]：[ネームサーバーアドレスを指定する]を選択し、[プライマリDNS]にDNSアドレスを入力します。
[IPヘッダー圧縮を使う]：チェックをはずします。

（2）Windows2000の場合

1. **「ダイヤルアップ接続情報を作成する」（☞1-28ページ）の手順1～7を行う**

2. **接続するアクセスポイントの電話番号を指定し、[次へ]ボタンをクリックする**

   [電話番号]：「0」などの任意の数字を入力します。

3. **[詳細設定]ボタンをクリックする**

4. **[アドレス]タブをクリックして、IPアドレスとDNSサーバーアドレスを入力し、[OK]ボタンをクリックする**

   [IPアドレス]：[常に使用する設定]を選択し、割り当てられたIPアドレスを入力します。
   [DNSアドレスの自動割り当て]：[常に使用する設定]を選択し、プライマリDNSサーバーのアドレスなどを入力します。

5. **インターネット接続ウィザードに戻り、[次へ]ボタンをクリックする**

6. **ユーザ名とパスワードは空欄にし、[次へ]ボタンをクリックする**

   ユーザ名とパスワードについて、空白のままにしておきますかという確認メッセージが表示されたら、2回とも[はい]ボタンをクリックしてください。

7. **接続名に「OCNエコノミー」と入力し、[次へ]ボタンをクリックする**

8. **メールアカウントの設定は[いいえ]を選択し、[次へ]ボタンをクリックする**

9. **[完了]ボタンをクリックする**

（3）WindowsNT4.0の場合

「ダイヤルアップ接続情報を作成する」（☞1-44～46ページ）の手順に従ってダイヤルアップ接続情報を作成します。ただし、以下の手順については、該当ページに記述されている内容ではなく、以下の操作を行ってください。

1-44ページの手順5　**電話番号に「0」を指定し、[次へ]ボタンをクリックする**

1-45ページの手順2　**[基本]タブをクリックし、ダイヤル方法から[AtermIT MP128]を選択し、[構成]ボタンをクリックする**

1-45ページの手順3　**初期速度から[230400]を選択し、[ハードウェアフロー制御を行う]のみをチェックし、[OK]ボタンをクリックする**

1-46ページの手順6　**自分のIPアドレスとDNSアドレスを入力し、[OK]ボタンをクリックする**

[IPアドレス]：[IPアドレスを指定する]を選択し、割り当てられたIPアドレスを入力します。
[ネームサーバーアドレス]：[ネームサーバーアドレスを指定する]を選択し、[プライマリDNS]にDNSアドレスを入力します。
[IPヘッダー圧縮を使う]：チェックをはずします。

（4）Macintoshの場合

「インターネット接続アシスタントで設定する」（☞1-33〜38ページ）の手順に従ってダイヤルアップ接続情報を作成します。ただし、以下の手順については、該当ページに記述されている内容ではなく、以下の操作を行ってください。

1-34ページの手順6　**モデム情報とポートを選び、右矢印をクリックする**

[モデム]：「NEC AtermIT MP」または「NEC AtermIT MP(USB)」（USB接続の場合）を選択します。
[ポート]：Atermを接続したポートを選択します。iMacなどUSBポートに接続した場合は、「Aterm」を選択します。
[ダイヤル音を無視する]：チェックします。

1-35ページの手順7　**電話番号の代わりに「0」を入力し、右矢印をクリックする**

1つ目のボックス：電話番号の代わりに「0」などの任意の数字を入力します。
2つ目のボックス：何も入力しません。
3つ目のボックス：何も入力しません。
ゲストアクセスになるという確認メッセージが表示されたら、右矢印をクリックします。

1-35ページの手順9　**[はい]を選択し、右矢印をクリックする**

次の画面では、割り当てられた自分のIPアドレスを入力し、右矢印をクリックします。

1-36ページの手順10　**ネームサーバーアドレスを入力し、右矢印をクリックする**

上のボックス：DNSアドレスを入力します。
下のボックス：指定されたドメイン名を入力します。

● 接続のしかた

通常のダイヤルアップ接続と同様ですが、ユーザ名、パスワードの欄に何か入力されている場合は、削除してから接続してください。
ATコマンドを使う場合は、発信する前にat＄n11=1を入力してください。

12 発信者番号通知

自分の電話番号を相手に知らせる

データ発信する際に自分の番号を相手に通知するサービスです。通常は特に設定の必要はありませんが、サーバーなど相手側の設定によっては発信者番号通知が必要な場合があります。
INSネット64の基本サービスとして発信者番号を通知する／しないを契約できますが、実際に通知するかどうかは、Atermの設定や、ダイヤル時に付加する番号(186／184)で選択することができます。

■ 184／186を付ける ■

発信者番号を通知する／しないの選択は、ダイヤルアップ接続で入力する相手の電話番号の前に[1][8][6]または[1][8][4]を付加します。INSネット64の契約やAtermの設定内容に関係なく、通知する／しないが指定できます。
186(通知する):電話番号が通知されます。
184(通知しない):電話番号は通知されません。

■ 発信者番号を通知する／通知しないの組み合わせ ■

INSネット64の契約やAtermの設定、186／184の付加の組み合わせによって、実際に通知する／しないは次のようになります。

INSネット64の契約	発信時の付加番号	Atermの設定		
		通知しない	通知する	INSネット64の申込内容に従う
通常通知(通話ごと非通知)	相手の電話番号	×	○	○
	184＋相手の電話番号	×	×	×
	186＋相手の電話番号	○	○	○
通常非通知(回線ごと非通知)	相手の電話番号	×	○	×
	184＋相手の電話番号	×	×	×
	186＋相手の電話番号	○	○	○

○:通知する　×:通知しない

お知らせ

INSネット64で常時通知拒否をご契約の場合、Atermの設定や186／184の付加に関係なく、常に通知されません(常時通知拒否は以前にあった契約パターンです。現在、新しく常時通知拒否を契約することはできません)。

■ 発信者番号通知を設定する ■

発信者番号を通知するかどうかは、ポートごとに設定します。

1. らくらくアシスタントのメニュー画面を表示する

2. [データポートの詳細設定]ボタンをクリックする

3. [シリアルポート]／[USBポート]タブをクリックする

設定するポートのタブをクリックします。

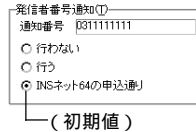
4. 設定項目から[電話番号]を選択する

5. 発信者番号通知にある番号通知を選択する

契約内容に関わりなく通知するときは「行う」を、契約通りとするときは「INSネット64の申込通り」を、通知しないときは「行わない」を選択します。

(初期値)

6. [OK]ボタンをクリックする

らくらくアシスタントのメニュー画面に戻ります

■ 通知する電話番号を設定する ■

相手に通知する電話番号を、ポートごとに設定します。何も設定しなければ、契約者回線番号が通知されます。契約者回線番号、ダイヤルイン番号、i･ナンバー情報として登録した番号の中から、通知する番号をポートごとに選択できます。

1. らくらくアシスタントのメニュー画面を表示する

2. [INS回線の電話番号の設定]ボタンをクリックする

3. ポートごとに電話番号を選択する

通知する電話番号を選択します。ポートごとに1つの電話番号を選択できます。

･i･ナンバーを使用しないとき

[契ON]ボタンをクリックすると、すべてのポートの通知番号が契約者回線番号となります。[全OFF]ボタンをクリックすると、すべてのポートの通知番号のチェックがはずれます。

･i･ナンバーを使用するとき

[1 ON]ボタンをクリックすると、すべてのポートの通知番号が、i･ナンバー情報1となります。[2 ON]ボタンをクリックすると、すべてのポートの通知番号が、i･ナンバー情報2となります。[3.ON]ボタンをクリックすると、すべてのポートの通知番号が、i･ナンバー情報3となります。

4. [OK]ボタンをクリックする

らくらくアシスタントのメニュー画面に戻ります。

13 i・ナンバー（INS ネット 64）

i・ナンバー利用時のデータ着信

Atermに接続したパソコンに接続させるには、シリアルポートやUSBポートに電話番号を割り当てます。1本のINSネット64で2つまたは3つの電話番号を使いたいときは、INSネット64のi・ナンバーを利用します。
契約者回線番号が i・ナンバー情報1、追加番号が i・ナンバー情報2、i・ナンバー情報3となります。

■ 利用条件 ■

	i・ナンバー
追加契約	i・ナンバー
追加料金	付加サービス使用料
利用条件	―
その他	i・ナンバーで使えるのは3つまでの電話番号です。4つ以上の電話番号を使用したいときは、ダイヤルインサービスをご利用ください。

■ i・ナンバーを設定する ■

i・ナンバーを利用する設定、着信番号の登録、着信させるポートの設定を行います。

1. らくらくアシスタントのメニュー画面を表示する

2. [INS回線の電話番号の設定]ボタンをクリックする

3. i・ナンバー使用を選択する

「i・ナンバーを使用する」を選択します。

○ i・ナンバーを使用しない　◉ i・ナンバーを使用する

初期値

4. 電話番号を入力する

i・ナンバー情報1に契約者回線番号を、i・ナンバー情報2、i・ナンバー情報3には追加番号を入力します。

	電話番号	内線指定番号
i・ナンバー情報 1(1)	0311111111	
i・ナンバー情報 2(2)	0311112222	
i・ナンバー情報 3(3)	0311113333	

5. 着信させるポートを選択する

i・ナンバー情報ごとに、着信させるポートをチェックします。複数のポートをチェックしてもかまいません。

着信するポート

A	B	C	シリアル	USB
☑	☐	☐	☐	☐
☐	☑	☐	☐	☐
☐	☐	☐	☑	☑

[全ON] [全OFF]

[全ON]ボタンをクリックすると、すべてのポートにすべての電話番号が着信するようになります。[全OFF]ボタンをクリックすると、すべてのポートのチェックがはずれます。

6. [OK]ボタンをクリックする

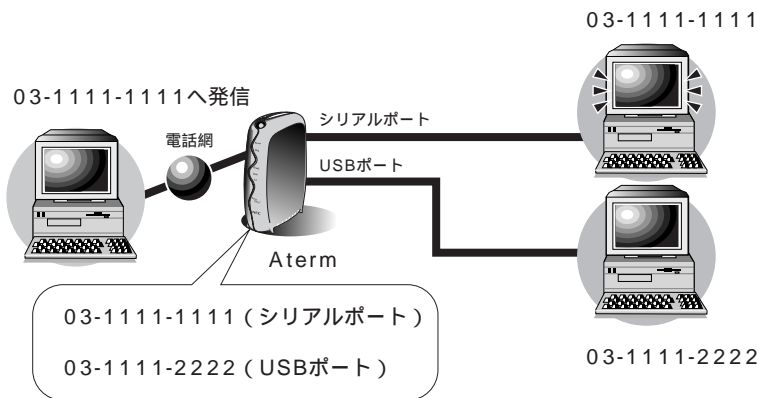
らくらくアシスタントのメニュー画面に戻ります。

お知らせ

- アナログポートにシリアルポートやUSBポートと同じ番号を設定した場合でも、かけてきた相手が電話の場合はアナログポートに、TAのデータポートからの場合はシリアルポートまたはUSBポートに着信します(☞「HLC」2-46ページ)。
- シリアルポートとUSBポートに同じ番号を設定すると、パソコンに同時に着信するため通信できません。電話番号を変えるか、サブアドレス(☞2-40ページ)または優先着信ポート指定(☞2-38ページ)を設定してください。

■ i・ナンバーの呼び分けのしくみ ■

シリアルポートに1台目のパソコン、USBポートに2台目のパソコンを接続し、それぞれ別の番号で呼び分ける場合を例として説明します。
i・ナンバーを契約すると、契約者回線番号(例:03-1111-1111)のほかに、追加番号(例:03-1111-2222)を2つまでもらうことができます。

i・ナンバー情報1	03-1111-1111	着信	シリアルポート	パソコン
i・ナンバー情報2	03-1111-2222	着信	USBポート	パソコン

- **相手が03-1111-1111をダイヤルした場合**
  INSネット64が03-1111-1111をポート番号1に変換し、ポート番号1という情報がAtermに通知されます。ポート番号1(i・ナンバー情報1)はシリアルポート着信なので、シリアルポートにつないであるパソコンが応答します。
- **相手が03-1111-2222をダイヤルした場合**
  INSネット64が03-1111-2222をポート番号2に変換し、ポート番号2という情報がAtermに通知されます。ポート番号2(i・ナンバー情報2)はUSBポート着信なので、USBポートにつないであるパソコンが応答します。

14 ダイヤルインサービス(INS ネット 64)

ダイヤルイン利用時のデータ着信

Atermに接続したパソコンに着信させるには、シリアルポートやUSBポートに電話番号を割り当てます。1本のINSネット64で4つ以上の電話番号を使いたいときは、INSネット64のダイヤルインサービスを利用します。

■ 利用条件 ■

	ダイヤルインサービス
追加契約	ダイヤルインサービス
追加料金	付加サービス使用料(追加した番号分だけ料金が加算される)
利用条件	グローバル着信「利用する」を同時に契約してください。
その他	番号は7つまで追加できます。

● グローバル着信

ダイヤルインサービスを利用すると、着信時にAtermへ電話番号が通知されますが、契約者回線番号の通知も電話番号1個分としてカウントされるので、仮にダイヤルインで番号を3つ追加すれば、計4個分のダイヤルインサービスの料金がかかります。
しかし、グローバル着信の利用をあわせて契約する(追加料金不要)と、料金が追加の3個分だけで済みます。このとき、Aterm側にグローバル着信の設定をしておくと、「電話番号が通知されない＝契約者回線番号への着信」と解釈しますので、契約者回線番号への着信とダイヤルイン番号への着信も区別することができます。

■ ダイヤルインを設定する ■

グローバル着信を利用する設定、着信番号の登録、着信させるポートの設定を行います。

1. らくらくアシスタントのメニュー画面を表示する

2. [INS回線の電話番号の設定]ボタンをクリックする

3. i・ナンバーを使用しないを選択する

◉ i・ナンバーを使用しない　○ i・ナンバーを使用する

初期値

4. グローバル着信するを選択する

「グローバル着信する」を選択します。

○ グローバル着信しない　◉ グローバル着信する

初期値

5. 電話番号を入力する

契約者回線番号とダイヤルイン番号を入力します。

	電話番号
契約者回線番号⓪	0311111111
ダイヤルイン1番①	0311112222
ダイヤルイン2番②	0311113333
ダイヤルイン3番③	0311114444
ダイヤルイン4番④	
ダイヤルイン5番⑤	
ダイヤルイン6番⑥	
ダイヤルイン7番⑦	

6. 電話番号ごとに着信させるポートを選択する

電話番号ごとに、着信させるポートをチェックします。複数のポートをチェックしてもかまいません。

着信するポート

A	B	C	シリアル	USB
☑	☐	☐	☐	☐
☐	☑	☐	☐	☐
☐	☐	☑	☐	☐
☐	☐	☐	☑	☑
☐	☐	☐	☐	☐
☐	☐	☐	☐	☐
☐	☐	☐	☐	☐
☐	☐	☐	☐	☐

[全ON] [全OFF]

[全ON]ボタンをクリックすると、すべてのポートにすべての電話番号が着信するようになります。[全OFF]ボタンをクリックすると、すべてのポートのチェックがはずれます。

7. [OK]ボタンをクリックする

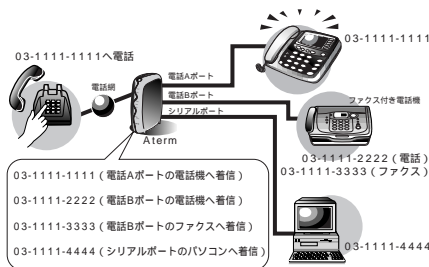
らくらくアシスタントのメニュー画面に戻ります。

お知らせ・・・・・・・

- アナログポートにシリアルポートやUSBポートと同じ番号を設定した場合でも、かけてきた相手が電話の場合はアナログポートに、TAのデータポートからの場合はシリアルポートまたはUSBポートに着信されます(☞「HLC」2-46ページ)。
- シリアルポートとUSBポートに同じ番号を設定すると、パソコンに同時に着信するため通信できません。電話番号を変えるか、サブアドレス(☞2-40ページ)または優先着信ポート指定(☞2-38ページ)を設定してください。

■ ダイヤルインの呼び分けのしくみ ■

電話Aポートに電話機、電話Bポートにファクス付き電話機、シリアルポートにパソコンを接続し、それぞれ別の番号で呼び分ける場合を例に説明します。
契約者回線番号(03-1111-1111)のほかに、3つのダイヤルイン番号(03-1111-2222・03-1111-3333・03-1111-4444)を契約し、グローバル着信を利用するものとします。

契約者回線番号(グローバル着信)	03-1111-1111	着信	電話Aポート	電話機
ダイヤルイン番号1	03-1111-2222	着信	電話Bポート	ファクス付き電話機の電話
ダイヤルイン番号2	03-1111-3333	着信	電話Bポート	ファクス付き電話機のファクス
ダイヤルイン番号3	03-1111-4444	着信	シリアルポート	パソコン

- **相手が03-1111-1111をダイヤルした場合**
  電話番号なしでAtermに着信します。電話Aポートにつないである電話機が呼び出されます。
- **相手が03-1111-2222をダイヤルした場合**
  03-1111-2222がAtermに通知されます。電話Bポートにつないであるファクス付き電話機の電話が呼び出されます。
- **相手が03-1111-3333をダイヤルした場合**
  03-1111-3333がAtermに通知されます。電話Bポートにつないであるファクス付き電話機のファクスに着信します。
- **相手が03-1111-4444をダイヤルした場合**
  03-1111-4444がAtermに通知されます。シリアルポートにつないであるパソコンが応答します。

お願い・・・・・・・・・

- ＩＮＳネット６４の契約が、「グローバル着信を利用する」となっていても、Atermの設定が「グローバル着信しない」になっていると、契約者回線番号で着信できなくなります。ご注意ください。
- ファクス付き電話機で電話とファクスを呼び分けるには、モデム・ダイヤルインまたはアナログ・ダイヤルインの設定が必要です（☞『取扱説明書』3-26、3-30ページ）。

15 優先着信ポート指定

シリアルポートとUSBポートの優先指定

シリアルポートとUSBポートに同じ電話番号を割り当てた場合に、優先的に着信させるポートを指定します。
シリアルポートを優先着信ポートにすると、シリアルポートが空いていればシリアルポートに接続しているパソコンだけに着信します。シリアルポートが空いていないときは、USBポートに接続しているパソコンに着信します。

1. らくらくアシスタントのメニュー画面を表示する

2. [データポートの詳細説明]ボタンをクリックする

3. [共通設定]タブをクリックする

4. 設定項目から[その他]を選択する

5. 優先着信ポートを選択する

優先着信させるポートを選択します。

（初期値）

6. [OK]ボタンをクリックする

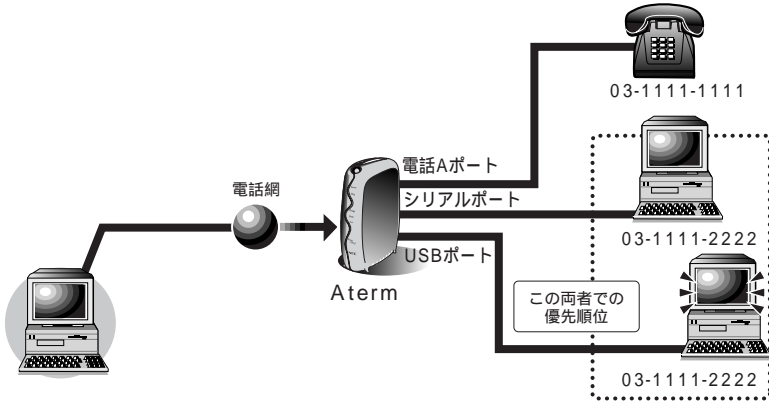
らくらくアシスタントのメニュー画面に戻ります。

お願い

シリアルポートとUSBポートそれぞれにパソコンを接続していて、同じ番号で着信させる場合は、優先着信ポート指定を行わないと、2つのポートが同時に応答してしまいます。必ず優先着信ポート指定を設定してください。

お知らせ・・・・・・・・

- i・ナンバーやダイヤルインサービスによって複数の電話番号を利用している場合、優先着信で選択したポートと同じ着信電話番号を割り当てられているポートのみが、優先着信の対象となります。

  たとえば下図のように電話番号が割り当てられていて、USBポートが優先着信ポートに設定されているとします。このとき、03-1111-2222に着信があると、USBポートのパソコンが通信中でなければ、USBポートのパソコンに着信します。シリアルポートに接続したパソコンは影響を受けません。

16 サブアドレス

サブアドレスでポートに着信させる

INSネット64の加入者同士なら、発信するときに、電話番号のほかにサブアドレスを加えることができます。
着信側で、ポートごとに異なるサブアドレスを設定しておくと、発信側はサブアドレスで端末を呼び分けることができます。

■ 利用条件 ■

	サブアドレス
追加契約	不要
追加料金	不要
利用条件	発信側・着信側両方が、INSネット64に加入している必要があります。
その他	－

■ 通信可能な組み合わせ ■

発信側のサブアドレス通知の有無と、着信側の設定の組み合わせによって、実際に通信できるかどうかが決まります。

<table>
<tr><th colspan="3" rowspan="2"></th><th colspan="2">発信側</th></tr>
<tr><th>サブアドレス通知なし</th><th>サブアドレス通知あり</th></tr>
<tr><th rowspan="6">着信側</th><th rowspan="3">サブアドレスなし着信する</th><th>サブアドレス登録なし</th><td>○</td><td>×</td></tr>
<tr><th rowspan="2">サブアドレス登録あり</th><td rowspan="2">○</td><td>アドレス一致　○</td></tr>
<tr><td>アドレス不一致　×</td></tr>
<tr><th rowspan="3">サブアドレスなし着信しない</th><th>サブアドレス登録なし</th><td>×</td><td>×</td></tr>
<tr><th rowspan="2">サブアドレス登録あり</th><td rowspan="2">×</td><td>アドレス一致　○</td></tr>
<tr><td>アドレス不一致　×</td></tr>
</table>

○：通信可能　×：通信拒否

お知らせ

- サブアドレスと電話番号をわけるセパレータを変更することができます。セパレータは、発信するパソコンとAtermの間だけで合わせればよいので、通信先とは別のセパレータが利用できます。
- サブアドレスは、パソコンのデータポートへの着信を完全に拒否したい場合にも利用できます。

■ 自己サブアドレスを設定する（着信側） ■

着信側は、あらかじめポートごとにサブアドレスを設定しておきます。サブアドレスに使う番号は自由に決めることができます。
相手に電話番号と設定したサブアドレスを知らせてください。

1. らくらくアシスタントのメニュー画面を表示する

2. [データポートの詳細設定]ボタンをクリックする

3. [シリアルポート]／[USBポート]タブをクリックする

4. 設定項目から[電話番号]を選択する

5. サブアドレスを入力する

サブアドレスを19桁以内の数字で入力します。

サブアドレス(S)　1234

6. 必要ならサブアドレスなし着信を解除する

サブアドレスが指定されない着信を拒否するときは、「サブアドレスなし着信する」のチェックをはずします。セパレータも選択できます。

（初期値　チェック済み）

7. [OK]ボタンをクリックする

らくらくアシスタントのメニュー画面に戻ります。

お知らせ

- 「サブアドレスなし着信をしない」に設定すると、サブアドレスが指定されない着信を一切受け付けなくなります。電話回線（アナログ網）の相手は、サブアドレスを付けて電話をかけることはできないので、電話回線の相手からの着信は一切受け付けなくなりますのでご注意ください。
- サブアドレスに使用できるのは数字のみです。

■ サブアドレスを付けて発信する（発信側）■

相手の電話番号に、サブアドレスを付けて発信します。
双方がINSネット64に加入している必要があります。

例：電話番号03-1111-1234、サブアドレス100の場合

●ダイヤルアップネットワークの場合

電話番号の末尾に/（スラッシュ）とサブアドレスをつけます。

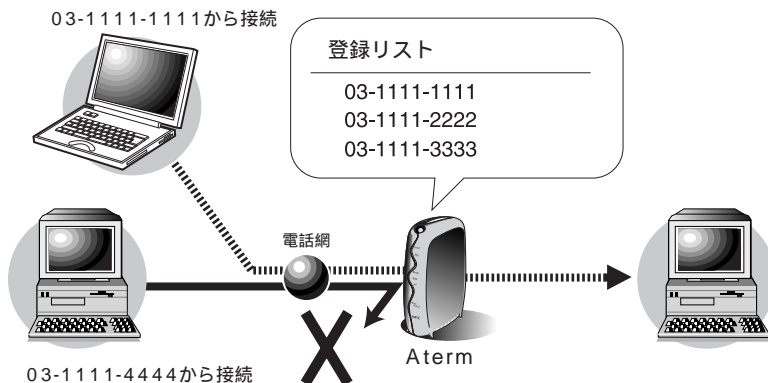
接続
サーバ接続
ユーザー名(U): user
パスワード(P): ********
パスワードの保存(S)
電話番号(N): 0311111234/100
発信元(F): 新しい場所
ダイヤルのプロパティ(D)...
接続　キャンセル

●ATコマンドを使う場合

例：atd0311111234/100

17 疑似識別着信(Aterm機能)

着信する相手を限定する

あらかじめ登録している特定の相手のみを着信させ、それ以外の相手は一切受け付けないようにします。
Atermの疑似識別着信を使います。

お知らせ・・・・・・・

- 識別着信番号として登録した番号は、アナログポートとデータポートで共用です。
- 登録した番号と通知された番号は桁数の末尾から照合され、桁数の短い方と一致したときに着信を受け付けます。

■ 利用条件 ■

	疑似識別着信
追加契約	INSナンバー・ディスプレイ
追加料金	付加サービス使用料
サービスの違い	—
利用条件	INSナンバー・ディスプレイの契約をしていない場合は、アナログ回線からの着信は識別できません。
その他	Atermの電話帳に相手の電話番号を登録します。最大で30件まで登録可能です。

■ 識別着信を設定する ■

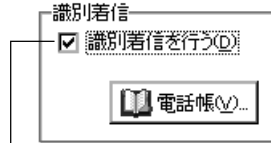
シリアルポートとUSBポートそれぞれについて、疑似識別着信を利用するかどうかを設定します。

1. らくらくアシスタントのメニュー画面を表示する

2. [データポートの詳細設定]ボタンをクリックする

3. [シリアルポート]／[USBポート]タブをクリックする

4. 設定項目から[電話番号]を選択する

5. 「識別着信を行う」をチェックする

（初期値　チェックなし）

6. [OK]ボタンをクリックする

らくらくアシスタントのメニュー画面に戻ります

■ 疑似識別着信用の電話番号を登録する ■

着信を許可する電話番号を疑似識別着信用の電話帳に登録します。30件まで登録可能です。

1. らくらくアシスタントのメニュー画面を表示する

2. [電話帳機能の設定]ボタンをクリックする

3. [疑似識別着信]タブをクリックする

4. 一覧から空いている番号を選択する

（識別着信の設定から続けて行うときは、識別着信のところの[電話帳]ボタンをクリックすると、同じ画面になります）
一覧の中で空いている番号をクリックします。

5. 名前・電話番号・サブアドレスを入力する

1) 相手の名前を入力する
2) 電話番号(市外局番から)を入力する
3) 必要ならサブアドレスを入力する

名前(N)	日電太郎		
電話番号(M)/サブアドレス(S)	0311119999	/	1234

6. [更新]ボタンをクリックする

7. 続けてほかの番号を登録するときは、手順4～6を繰り返す

8. [OK]ボタンをクリックする

らくらくアシスタントのメニュー画面に戻ります。

お知らせ・・・・・・・

- 相手が自分の電話番号を通知しないで送信した場合、電話帳に登録してあってもその相手を着信させることはできません。
- 疑似識別着信を使用する設定を選んだ場合、疑似識別着信用の電話帳に電話番号を1件も登録しないと、どこからの着信も受け付けなくなります。

こんなときは・・・・・

- 登録済みの電話番号を変更したい場合は、変更する番号を手順4で選択し、新しい電話番号に変更したあと、[更新]ボタンをクリックしてください。
- 登録済みの電話番号を削除したい場合は、削除する番号を手順4で選択したあと、[削除]ボタンをクリックしてください。

18 HLC

HLCが一致する相手と通信する

相手もINSネット64に加入している場合、接続する通信機器の種別をHLC（高位レイヤ整合性）に設定して、HLCが一致する相手とのみ通信を行うことができます。

■ 利用条件 ■

	HLC
追加契約	不要
追加料金	不要
利用条件	発信側・着信側両方が、INSネット64に加入している必要があります。
その他	－

■ HLC一覧 ■

HLCのコードは次のとおりです。アナログポートの場合、接続機器の種別を選択すると、機器に対応したHLCが自動的に設定されます。データポートには、コードを自由に設定できます。

コード	種別
01	電話
04	G2/G3ファクス
33	G4ファクス
36	ミックスモード
49	テレテックス
50	ビデオテックス
53	テレックス
56	メッセージ処理システム（MHS）
65	OSIアプリケーション

アナログポートに自動設定されるコード

接続機器	コード	種別
電話	01	電話
FAX/モデム	04	G2/G3ファクス

■ HLCを設定する ■

HLCを設定します。

1. らくらくアシスタントのメニュー画面を表示する

2. [データポートの詳細設定]ボタンをクリックする

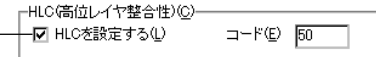
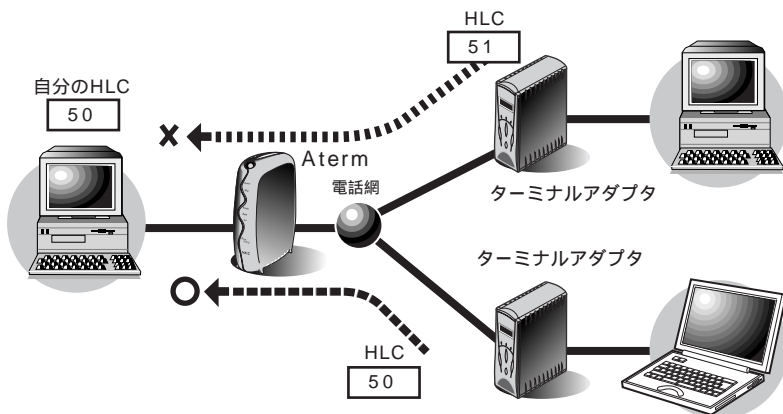
3. [シリアルポート]/[USBポート]タブをクリックする

4. HLCを設定する

1)「HLCを設定する」をチェックする
2) コードを入力する

（初期値　チェックなし）

5. [OK]ボタンをクリックする

らくらくアシスタントのメニュー画面に戻ります。

■ HLC照合のしくみ ■

発信時は、Atermが自分の機器を表すHLCを付けて発信します。
着信時は、発信側からのHLCと自分のHLCを照合し、一致する場合にのみ通信を行います。ただし、HLCが通知されない相手からの着信は受け付けます。

通常のご利用にあたってはHLC設定を絶対にしないでください。発着信ができなくなる場合があります。

お知らせ

- ファクス付き電話機のように、電話でもファクスでも受け付けたいときは「HLCを設定しない」に設定します。HLCを設定すると、相手がINSネット64に接続された電話機の場合は着信できません。
- アナログポート設定に関する判定表

アナログポートの設定	着信のHLC	Atermの設定	着信可否
「FAXやモデムを接続する」	なし	「HLCを設定しない」	可
「FAXやモデムを接続する」	なし	「HLCを設定するが着信判定しない」	可
「FAXやモデムを接続する」	なし	「HLCを設定し、着信判定する」	否
「電話機」	なし	「HLCを設定しない」	可
「電話機」	なし	「HLCを設定するが着信判定しない」	可
「電話機」	なし	「HLCを設定し、着信判定する」	否

19 SmartWakeup!サービス

外出先のパソコンからＴＶ録画する

NECのTVパソコンで､BIGLOBEの｢SmartVision TV 録画予約サービス｣とオプションサービスの｢SmartWakeup!サービス｣を使って､i･モード対応携帯電話や外出先のパソコンから､Aterm経由でご自宅のTVパソコンを遠隔起動し､TV録画予約を行うことができます。

NECのTVパソコン(*1)をお使いのお客様は、BIGLOBEの｢SmartVision TV 録画予約サービス｣(*2)とオプションサービスの｢SmartWakeup!サービス｣(*3)をあわせてご利用いただくと、ｉ・モード対応携帯電話や外出先のパソコンから、Aterm経由でご自宅のTVパソコンを遠隔起動し、TV録画予約を行うことができます。

お知らせ・・・・・・・

＊1　TVパソコン
NEC TV機能搭載の ValueStarシリーズ
http://wakeup.cplaza.ne.jp/wapi/info/tvtype.html

＊2　SmartVision TV 録画予約サービス
i･モード対応携帯電話や外出先のパソコンから､ご自宅のTVパソコン(*2)の録画予約を行うことができるBIGLOBE会員向け(るんるんコースを除く)の無料サービスです。

＊3　SmartWakeup!サービス
Atermをご利用のお客様向けの｢SmartVision TV録画予約サービス｣のオプションサービス(有料)です。
Aterm経由でご自宅のTV パソコンを遠隔起動するサービスです。

各サービスの詳細や申し込みは、BIGLOBEにお問い合わせください。

3. Atermで使えるメール機能

AtermとBIGLOBEによって提供される便利でお得なメールサービス、電子メール着信通知・UUIメール・遊遊メールについて説明します。

1 利用できるUUIメールサービス

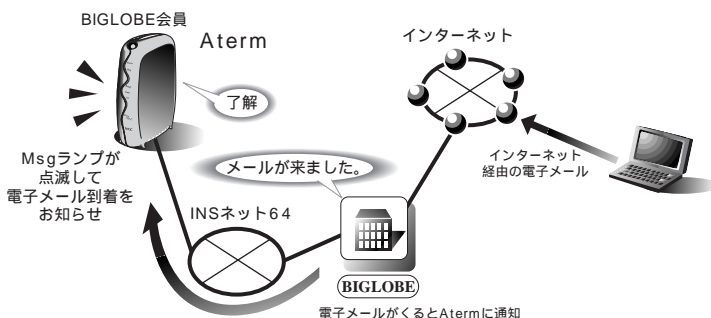
Atermでは、INSネット64のユーザ間情報通知サービス（UUI）を利用して、電子メール着信通知・UUIメール・遊遊メールという3種類のUUIメールサービスを利用することができます。

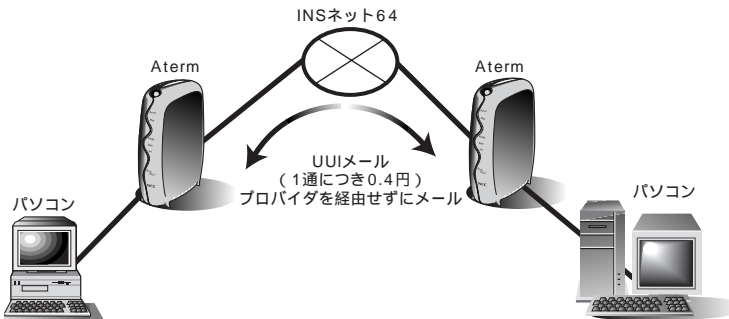
■ ユーザ間情報通知サービス（UUI）とは ■

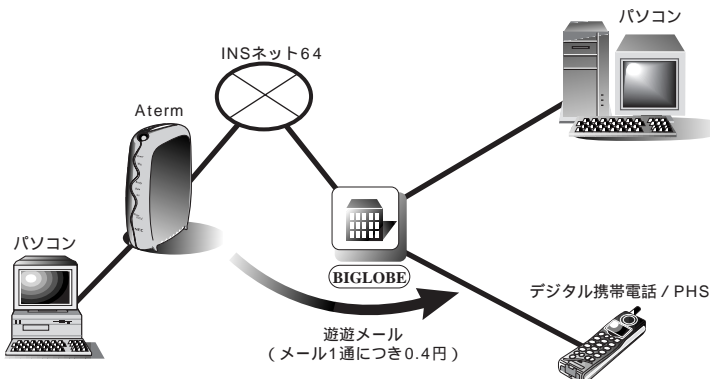
INSネット64の基本サービスで、契約料・月額使用料は無料です。INSネット64の信号チャネル（Dチャネル）を利用して、ユーザ間の情報のやり取りを行います。これにより最大128バイトまでの情報を0.4円で送ることができます。

■ 電子メール着信通知 ■

電子メールでは、インターネットプロバイダなどのサーバーに自分専用のメールボックスを設け、自分宛てのメッセージはそのメールボックスの中に届きます。通常、電子メールが届いたかどうかを確認するには、いちいちインターネットに接続し、メールの有無を確認する必要があります。そのため、メールが届いていない場合でも通信料金が発生してしまいます。
電子メール着信通知はこの手間を省いてくれるものです。BIGLOBE宛てに電子メールが届いたときに、AtermのMsgランプを点滅させて、電子メールが到着していることをお知らせします。そのため、パソコンを起動しておく必要はありません。
また、専用ユーティリティ「UUIメールEX」を使うと電子メールの到着時にパソコンの画面に電子メールの発信元（From:）や題目（Subject）を表示します。

URL. http://www.biglobe.ne.jp/info/aterm/（平成13年1月現在）

■ UUIメール ■

INSネット64のユーザ間情報通知サービス（UUI）を利用して、2台のAterm間で直接、メールを送受信することができます。電子メールとは異なり、インターネットプロバイダは経由しません。相手の電話番号を指定してやり取りするので、メールアカウントは不要です。
専用ユーティリティ「UUIメールEX」を使って送受信する方法と、Atermにつないだ電話機から「テレホンUUIメール」で送る方法があります。

■ 遊遊メール（UUIメール変換サービス） ■

UUIメールとしてBIGLOBEの専用サーバーに送信したメールを、通常の電子メールの形式としてインターネット上に送信します。UUIメールでは、Atermを持った相手にしか送信できませんが、遊遊メールは電子メールのアドレスを持つ人なら誰にでも送信できます。
1回0.4円と、通常の方法で電子メールを送信するのに比べると通信料金が安くすむというメリットもあります。
相手がBIGLOBE以外のプロバイダでも送信できるほか、電子メールが受信できるデジタル携帯電話・PHSなどにも送信できます。
専用ユーティリティ「UUIメールEX」を使って送受信する方法と、Atermにつないだ電話機から「テレホン遊遊メール」で送る方法があります。

■ 利用条件 ■

平成13年1月現在

		電子メール着信通知	UUIメール	遊遊メール
INSネット64	追加契約	・ユーザ間情報通知:着信許可(追加料金なし) ・通信中着信通知:利用する(追加料金なし)	・ユーザ間情報通知:着信許可(追加料金なし) ・通信中着信通知:利用する(追加料金なし)	・発信者番号通知:通常通知(通話ごと非通知)または通常非通知(回線ごと非通知)(追加料金なし)
BIGLOBE	契約と料金	・加入(BIGLOBE-IDの取得)(有料) ・メールオプションの電子メール着信通知(300円/月+60円/月(0~30通まで)+2円/通知(31通目以降))	不要	・加入(BIGLOBE-IDの取得)(有料) ・メールオプションの電子メール着信通知(200円/月)
利用条件		データポートに発信者通知番号と着信番号を設定します。	データポートに発信者通知番号と着信番号を設定します。	データポートに発信者通知番号と着信番号を設定します。
その他		「通信中着信通知」を利用すると、Bチャネル2つを使用中でも、ユーザ間情報通知を受け付けることができます。	「通信中着信通知」を利用すると、Bチャネル2つを使用中でも、ユーザ間情報通知を受け付けることができます。	・通常の電子メールを送るのに比べ、通信料金が安くなります(0.4円/1回)。BIGLOBEへの接続ごとの接続料金は不要です。 ・「通常非通知」の契約の場合は、Atermの設定で、データポートの発信者番号通知を「行う」に設定してください。 ・送信メッセージの長さは、相手のメールアドレスと合わせて、半角98文字までです。

2 準備

各UUIメールサービスを利用できるようにするための準備作業について説明します。特に断りのないものは、3つのサービスに共通した作業です。

step 1 INS ネット 64 の契約の確認

以下のサービスについて、NTT東日本・NTT西日本との契約内容を確認してください。
「利用条件」(☞3-4ページ)

推奨する契約方法は以下のとおりです。

・ユーザ間情報通知 ：着信許可
・通信中着信通知 ：利用する
・発信者番号通知 ：通常通知(通話ごと非通知)

step 2 BIGLOBEの申し込みとメールオプションの設定

電子メール着信通知と遊遊メールを利用する場合は、BIGLOBEへの加入とメールオプションの申し込みが必要です。

■ BIGLOBEへの加入 ■

BIGLOBEへ加入していない場合は、以下の手続きを行ってください。
らくらくアシスタントを使うと、BIGLOBEへのオンラインサインアップを簡単に行うことができます(☞『取扱説明書』2-51、2-66ページ)。

お知らせ

- オンラインサインアップとは、プロバイダへの入会手続きをオンライン(通信中に)で行うものです。ウィザードの中で名前その他の必要事項を入力します。
- 電子メール着信通知と遊遊メールは別々のサービスです。両方を利用するにはそれぞれの申し込みが必要です。

■ メールオプションの申し込み(有料) ■

メールオプションの申し込みもオンラインでできます。ブラウザでメールオプションのページを表示し、サービスに関する説明をよく読んだあとで、以下の手順で入力します。

● 電子メール着信通知(平成13年1月現在)

1. ブラウザを開き、BIGLOBEメールのページを表示する

http://www.biglobe.ne.jp/mail/

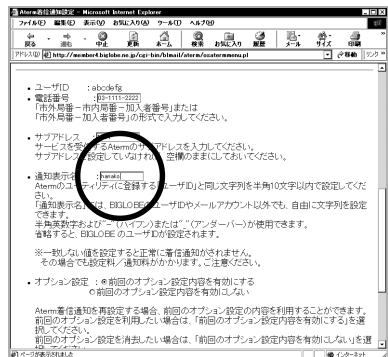
2. オプションサービスの中からラインナップをクリックし、Atermメール着信通知の[購入する]ボタンをクリックする

3. [BIGLOBEのアクセスポイントからご利用の方]をクリックする

4. ユーザIDとパスワードを入力し、[確認]ボタンをクリックする

ユーザIDとパスワードは会員証をご覧ください。ダイヤルアップ接続時に使用するものと同じです。パスワードを変更した場合は、新しいパスワードを入力してください。

5. Aterm着信通知設定画面で、電話番号・サブアドレス・通知表示名を入力する

電話番号:データポートに割り当てた着信番号を入力します。
サブアドレス:データポートにサブアドレスを設定しているときは、入力します。
通知表示名:表示用に適当な名前を入力します。同じ名前をUUIメールEXにも設定します(☞3-10ページ)。

6. オプション設定を選択し、[確認画面へ]ボタンをクリックする

7. Aterm着信通知 入力内容確認画面で入力内容を確認し、正しければ[設定する]ボタンをクリックする

お知らせ・・・・・・・

BIGLOBEメールの各ページのURLは変更になる場合があります。見つからない場合は、BIGLOBEのトップページから、メールオプションの設定を探してください。

● 遊遊メール(平成13年1月現在)

1. インターネットに接続してからブラウザを開き、BIGLOBEメールのページを表示する

http://www.biglobe.ne.jp/mail/

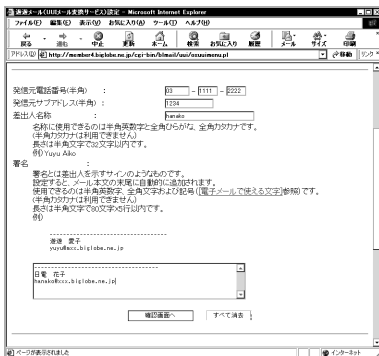
2. オプションサービスの中からラインナップをクリックし、遊遊メールの[購入する]ボタンをクリックする

3. [BIGLOBEのアクセスポイントからご利用の方]をクリックする

4. ユーザIDとパスワードを入力し、[確認]ボタンをクリックする

ユーザIDとパスワードはBIGLOBEの会員証をご覧ください。ダイヤルアップ接続時に使用するものと同じです。パスワードを変更した場合は、新しいパスワードを入力してください。

5. 発信元電話番号、サブアドレス、差出人名称、署名を入力し、[確認画面へ]ボタンをクリックする

発信元電話番号:データポートの発信者番号通知で通知する電話番号を入力します。
サブアドレス:データポートにサブアドレスを設定しているときに入力します。
差出人名称:メール送信時に通知する自分の名前を入力します。
署名:メール本文の終わりに付ける署名(自分の名前など)を入力します。

6. 遊遊メール設定 入力内容確認画面で入力内容を確認し、正しければ[設定する]ボタンをクリックする

step 3 着信電話番号と発信者電話番号の設定

データポートに着信用の電話番号と発信者通知の電話番号を設定します。
「i・ナンバーを設定する」(☞2-32ページ)
「ダイヤルインサービスを設定する」(☞2-34ページ)
「発信者番号通知」(☞2-30ページ)

step 4 UUIメールEXのインストールと設定

Windowsの場合とMacintoshの場合にわけて説明します。
Windowsの場合(☞本ページ)
Macintoshの場合(☞3-13ページ)

お知らせ

インターネットに接続している間は、UUIメールEXを起動することはできません。

■ Windowsの場合 ■

(1) インストール

1. **Atermに添付のCD-ROMをドライブにセットする**

   しばらくするとメインメニュー画面が表示されます。
   → メインメニュー画面が表示されない場合は[スタート]ボタンをクリックし、[プログラム]−[エクスプローラ]をクリックして[CD-ROM]ドライブをダブルクリックします。そこにあるmenu.exeをダブルクリックするとメインメニュー画面が表示されます。

2. **[欲しいものだけインストール]をクリックする。**

3. **[UUIメールEXのインストール]をクリックする。**

4. **インストール先フォルダを選択し、[次へ]ボタンをクリックする**

5. **[次へ]ボタンをクリックする**

   インストールが始まります。

6. **[スタートアップに登録する]をチェックし、[次へ]ボタンをクリックする**

7. **[今すぐUUIメールを起動する]をチェックし、[終了]ボタンをクリックする**

8. **UUIメールEXが起動する**

UUIメールEX画面が開きます。以降、パソコンを起動するたびに、UUIメールEXが自動的に起動します。
UUIメールEX起動中は、タスクトレイにUUIメールインジケータ(青い郵便箱)が表示されます。

9. **UUIメールEX画面が不要なときは[×]ボタンをクリックして閉じる**

画面を閉じても、UUIメールEXは起動しています。

お知らせ

タスクバーにUUIメールEXのインジケータを常駐させておくと、UUIメールEXはAtermのメール着信状況を自動的に検出します(1分間ごと)。検出している間は、データポートを使用するほかのアプリケーションは使用できません。例えば、インターネット接続しようとすると、「モデムを検出できませんでした。モデムは使用中か、電源が入っていないか、または正しくインストールされていません。」のメッセージが表示されてしまいます。その場合は、しばらく時間を置いてから再度試してみてください。また、下記の操作で、手動でUUIメールEXを起動／終了させることもできます。

- UUIメールEXを自動起動しないように設定をする
  1) Windowsの[スタート]ボタンをクリックし、[プログラム]−[スタートアップ]をクリックする
  2) [UUIメールEX]を選んで右クリックし、[削除]する
  パソコン起動時に自動起動しなくなります。

- UUIメールEXを手動起動する
  Windowsの[スタート]ボタンをクリックし、[プログラム]−[UUIメールEX]−[UUIメールEX]をクリックする

- UUIメールEXを手動終了する
  タスクトレイにあるUUIメールアイコンを右クリックして終了を選ぶ

(2) 環境設定

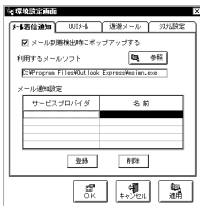
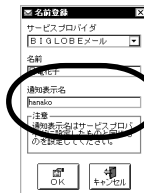
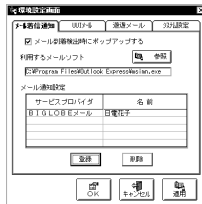
環境設定は、メールサービスごとのタブとなっています。利用するサービスのタブを選択してください。

1. **タスクバーのUUIメールEXインジケータを右クリックし、ポップアップメニューから[環境設定]を選択する**

お知らせ

[UUIメールEX]画面の をクリックしても[環境設定]画面を表示させることができます。

● 電子メール着信通知

1. **[メール着信通知]タブを表示する**
2. **[メール到着検出時にポップアップする]をチェックする**
   電子メールが着信したときに、メッセージが表示されます。
3. **[参照]ボタンをクリックし、利用するメールソフトのパスを指定する**
   実際にメールを読むときに使用するメールソフトを指定します。空欄のままでもかまいません。
4. **メール通知設定の空いている行をクリックし[登録]ボタンをクリックする**

5. **名前と通知表示名を入力し、[OK]ボタンをクリックする**
   名前：電子メール到着時にUUIメールEXに表示する名前を入力します。
   通知表示名：BIGLOBEのメールオプションで設定した通知表示名を入力します(☞3-6ページ)。

6. **[OK]ボタンをクリックする**

お願い

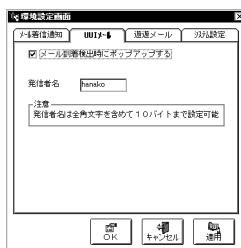
テストを行う場合は、いったんUUIメールEXを終了し、再度起動してください。

● UUIメール

1. **[UUIメール]タブを表示し、[メール到着検出時にポップアップする]をチェックする**

   UUIメールが着信したときに、メッセージが表示されます。

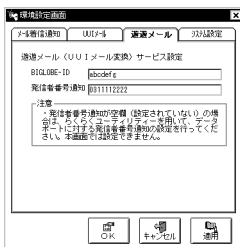
2. **発信者名を入力する**

   UUIメールを送信したときに相手側に表示される名前を入力します。

3. **[OK]ボタンをクリックする**

● 遊遊メール

1. **[遊遊メール]タブを表示し、BIGLOBE-IDを入力する**

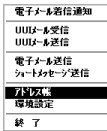
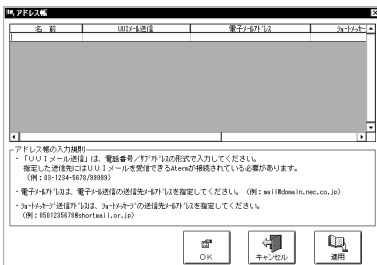
   BIGLOBEのIDを入力します。

2. **[OK]ボタンをクリックする**

お知らせ

画面にはらくらくアシスタントで設定した発信者通知番号が表示されています。ただし、「i･ナンバーを使用する」を選択した場合、らくらくアシスタントで設定しても空欄のままになりますが、そのまま手順2へ進んでください。

（3）アドレス帳への登録

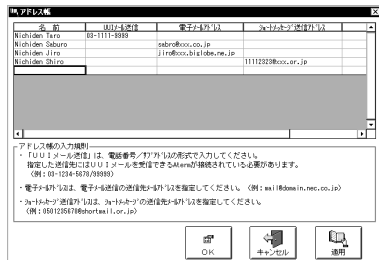
送信先の電話番号やメールアドレスはアドレス帳に登録しておくことができます。アドレス帳に登録した宛先は、メール送信時に簡単に選択できます。

1.　タスクトレイのUUIメールEXインジケータを右クリックし、ポップアップメニューから[アドレス帳]を選択する

2.　アドレス帳画面で、一覧から登録する欄をクリックする

3.　名前やアドレスなどを入力する

名前：送信先の名前を入力します

UUIメール送信：相手の電話番号を入力します。サブアドレスがある場合は、/の後にサブアドレスを入力します。

電子メールアドレス：遊遊メールを送信する場合の、相手の電子メールアドレスを入力します。

ショートメッセージ送信アドレス：ポケットベル・デジタル携帯電話・PHSのショートメッセージ送信をする場合の、相手のドメイン名を入力します。

4.　手順2～3を繰り返す

5.　[OK]ボタンをクリックする

お知らせ

UUIメール送信画面のアドレス帳ボタンや、UUIメールEX画面のアドレス帳アイコンをクリックしても、アドレス帳画面を表示できます。

■ Macintoshの場合 ■

(1) インストール

1. **Atermに添付のCD-ROMをドライブにセットする**

2. **ウィンドウが開くので、ウィンドウの中にある[IT31L]アイコンをダブルクリックする**

   ウィンドウが開かないときは、CD-ROMアイコンをダブルクリックしてウィンドウを開きます。

3. **メニュー画面から[UUIメールEXのインストール]をダブルクリックする**

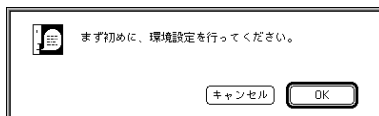
4. **画面の指示に従ってインストールする**

(2) 環境設定

環境設定は、メールサービスごとのタブとなっています。利用するサービスのタブを選択してください。

1. **UUIメールEXフォルダの中の、UUIメールEXアイコンをダブルクリックする**

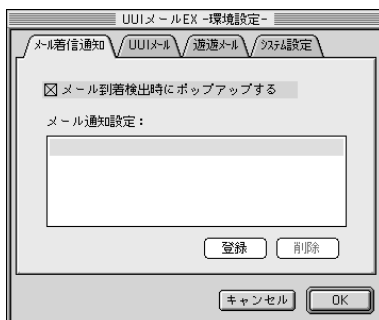
2. **次の画面が表示されたら[OK]ボタンをクリックする**

   UUIメールEX画面がすでに表示されているときは、UUIメールEX画面で、ツールバーの[アイコン]ボタンをクリックしてください。

● 電子メール着信通知

1. **[メール着信通知]タブを表示する**

2. **[メール到着検出時にポップアップする]をチェックする**

   電子メールが着信したときに、メッセージが表示されます。

3. **一覧から登録する部分をクリックし、[登録]ボタンをクリックする**

4. 名前と通知表示名を入力し、[OK]ボタンをクリックする

名前：電子メール到着時にUUIメールEXに表示する名前を入力します。
通知表示名：BIGLOBEのメールオプションで設定した通知表示名を入力します(☞3-6ページ)。

5. [OK]ボタンをクリックする

● UUIメール

1. [UUIメール]タブを表示し、[メール到着検出時にポップアップする]をチェックする

UUIメールが着信したときに、メッセージが表示されます。

2. 発信者名を入力する

UUIメールを送信したときに相手側に表示される名前を入力します。

3. [OK]ボタンをクリックする

● 遊遊メール

1. [遊遊メール]タブを表示し、BIGLOBE-IDを入力する

BIGLOBEのIDを入力します。

2. [OK]ボタンをクリックする

UUIメールEX -環境設定-
メール着信通知 / UUIメール / 遊遊メール / システム設定
遊遊メール（UUIメール変換）サービス設定
BIGLOBE ID　abcdefg
発信者通知番号　0311112222
注意
この画面からは発信者通知番号の設定はできません。
発信者通知番号が空欄の場合は、らくらくユーティリティを使用してデータポートの発信者通知番号を設定して下さい。
キャンセル　OK

お知らせ・・・・・・・・

画面にはらくらくアシスタントで設定した発信者通知番号が表示されています。ただし、「i・ナンバーを使用する」を選択した場合、らくらくアシスタントで設定しても空欄のままになりますが、そのまま手順2へ進んでください。

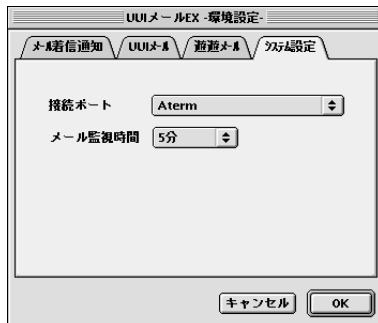
● システム設定

1. ［システム設定］タブを表示する

2. 接続ポートとメール監視時間を選択する

接続ポート：Atermが接続されているポートを選択します。
メール監視時間：何分おきにメールの到着を確認するかを設定します。

3. ［OK］ボタンをクリックする

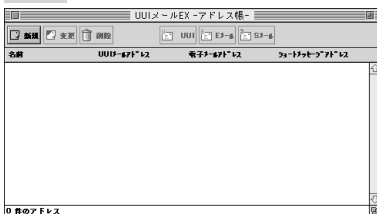
UUIメールEX画面に戻ります。

(3) アドレス帳への登録

送信先の電話番号やメールアドレスはアドレス帳に登録しておくことができます。アドレス帳に登録した宛先は、メール送信時に簡単に選択できます。

1. UUIメールEX画面のツールバーの ボタンをクリックする

UUIメールEXアドレス帳画面が表示されます。

2. 新規ボタンをクリックする

3. 名前やアドレスなどを入力する

名前：送信先の名前を入力します
UUIメールアドレス：相手の電話番号を入力します。サブアドレスがある場合は、/の後にサブアドレスを入力します。
電子メールアドレス：遊遊メールを送信する場合の、相手の電子メールアドレスを入力します。
ショートメッセージアドレス：ポケットベル・デジタル携帯電話・PHSのショートメッセージ送信をする場合の、相手のドメイン名を入力します。

4. ［OK］ボタンをクリックする

5. 手順2～4を繰り返す

同様の手順を繰り返し、複数のアドレスを登録できます。

6. クローズボックスをクリックして画面を閉じる

3 電子メールの着信をランプで知らせる［電子メール着信通知］

電子メール（BIGLOBE）やUUIメールが届くと、AtermのMsgランプがオレンジ色に点滅します。
UUIメールEXを起動していると、タスクトレイのUUIメールEXインジケータも点滅します。電子メールの場合はオレンジ色、UUIメールの場合は青色、両方を受信した場合は紫色に点滅します。

お知らせ

- UUIメールEXをインストールしていれば、パソコンを起動したときにUUIメールEXも起動します。
- BIGLOBEのメール着信通知には、差出人や題目を通知する／しないのオプション設定があります。

お願い

初めて利用するときは、「2. 準備」（☞3-5ページ）を参照して、必要な準備作業を行ってください。

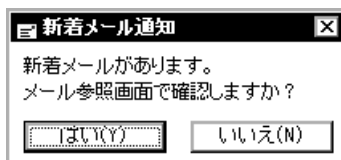
電子メールを確認する

UUIメールEXを使って、到着した電子メールの差出人（From情報：@の前の10バイト）と題目（Subject情報：先頭100バイト）を確認します。

■ Windowsの場合 ■

1. **タスクトレイのUUIメールEXインジケータがオレンジ色に点滅する**

オレンジ色に点滅

2. **次のメッセージが表示されたときは、［はい］ボタンをクリックする**

3. メール参照画面で発信者と題目を確認し、[OK]ボタンをクリックする

メールの本文を読みたいときは、インターネットに接続して[メーラー起動]ボタンをクリックし、メールを読み出します。3-10ページの電子メール着信通知の手順3を行なわないと[メーラー起動]ボタンは使用できません。いったんUUIメールを終了してから設定してください。

⇒

UUIメールEX画面ではすべてのメールを確認できます。

お願い・・・・・・・・

電子メールの本文を読むためには、インターネットに接続し、メールソフトで受信しなければなりません。

お知らせ・・・・・・・

AtermのMsgランプの点滅は消灯させることができます。

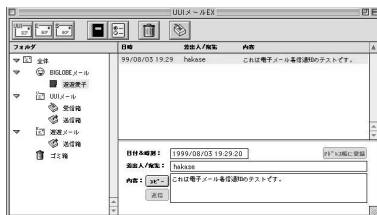
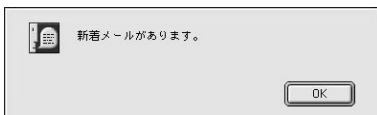
電話機の場合 ：受話器をあげて [＊] [＊] [0] を押してください。

らくらくアシスタントの場合 ：あらかじめ設定しておくと、電子メールやUUIメールを受信したときのAtermのMsgランプの点滅をやめることができます。

1) らくらくアシスタントのメニュー画面を表示する
2) [データーポートの詳細設定]ボタンをクリックする
3) [共通設定]タブをクリックする
4) 設定項目から[電子メール]を選択する
5) ランプの点滅の有無を設定し、[OK]ボタンをクリックする
電子メール、UUIメールそれぞれについて、ランプを点滅させるのチェックをはずします。
6) らくらくアシスタントのメニュー画面を表示させ、終了させる

■ Macintoshの場合 ■

1. メール到着のメッセージが表示されたら、[OK]ボタンをクリックする

2. UUIメールEX画面で発信者と題目を確認する

お願い

電子メールの本文を読むためには、インターネットに接続し、メールソフトで受信しなければなりません。

お知らせ

AtermのMsgランプの点滅は消灯させることができます。

電話機の場合　：受話器をあげて ＊ ＊ 0 を押してください。

らくらくアシスタントの場合　：あらかじめ設定しておくと、電子メールやUUIメールを受信したときのAtermのMsgランプの点滅をやめることができます。

1）らくらくアシスタントのメニュー画面を表示する
2）[データーポートの詳細設定]ボタンをクリックする
3）[共通設定]タブをクリックする
4）設定項目から[電子メール]を選択する
5）ランプの点滅の有無を設定し、[OK]ボタンをクリックする
電子メール、UUIメールそれぞれについて、ランプを点滅させるのチェックをはずします。
6）らくらくアシスタントのメニュー画面を表示させ、終了させる

4 Aterm同士でメールを送る[UUIメール]

2台のAterm間で直接送受信できるメールです。BIGLOBEを含むプロバイダとの契約は不要です。

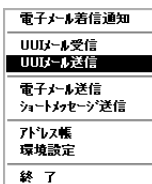
お願い

初めて利用するときは、「2. 準備」(☞3-5ページ)を参照して、必要な準備作業を行ってください。

4.1 UUI メールを送信する

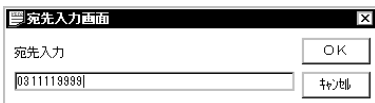
UUIメールEXを使って、Atermを使っている相手にUUIメールを送信します。

■ Windowsの場合 ■

1. タスクトレイのUUIメールEXインジケータを右クリックし、ポップアップメニューから[UUIメール送信]を選択する

2. UUIメール送信画面の[手入力]ボタンをクリックする

アドレス帳に登録済みのアドレスを使う場合は、[追加]ボタンをクリックし、アドレスを選択します。
「アドレス帳への登録」(☞3-12ページ)

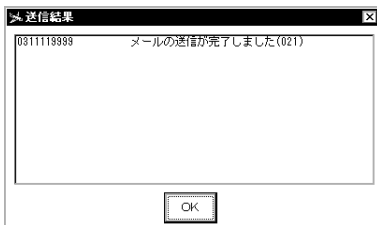
3. 相手の電話番号を入力し、[OK]ボタンをクリックする

サブアドレスがあるときは、0311119999/1234の形で入力します。

4. 下のボックスにメッセージを入力する

送信できる文字数に制限があります。「あとXXX文字」の表示を確認してください。
作成済みのメッセージがあるときは、[差込ファイル]ボタンをクリックし、ファイルを選択します。

5. [送信]ボタンをクリックする

6. 次の画面が表示されたら[OK]ボタンをクリックする

AtermのDataランプが消灯していることも確認してから、[OK]ボタンをクリックしてください。

お知らせ・・・・・・・

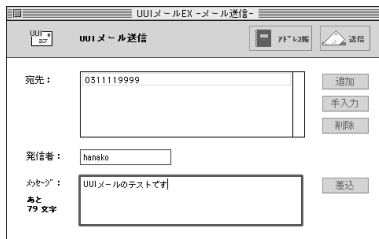
UUIメールEX画面のメール送信アイコンをクリックしてもUUIメール送信画面を表示できます。

■ Macintoshの場合 ■

1. UUIメールEXフォルダの中の、UUIメールEXアイコンをダブルクリックする

UUIメールEX画面が表示されます。

2. ツールバーの ボタンをクリックする

メール送信画面が表示されます。

3. [手入力]ボタンをクリックする

アドレス帳に登録済みのアドレスを使う場合は、[追加]ボタンをクリックし、アドレスを選択します。
「アドレス帳への登録」(☞3-15ページ)

4. 相手の電話番号を入力し、[OK]ボタンをクリックする

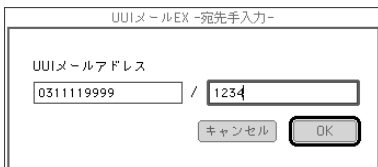
サブアドレスがある場合は、右側のボックスに入力します。

5. メッセージボックスにメッセージを入力する

送信できる文字数に制限があります。「あとXXX文字」の表示を確認してください。
作成済みのメッセージがあるときは、[差込]ボタンをクリックし、ファイルを選択します。

6. [送信]ボタンをクリックする

7. 送信結果が表示されたら[OK]ボタンをクリックする

[OK]ボタンをクリックする前に、AtermのDataランプが消灯していることも確認してください。

4.2 受信したUUIメールを読む

UUIメールが届いたら、UUIメールEXを起動してメールを読みます。

■ Windowsの場合 ■

1. タスクトレイのUUIメールEXインジケータが青色に点滅する

電子メールとUUIメールの両方が届いたときは、紫色に点滅します。

2. 「新着メールがあります。メール参照画面で確認しますか？」のメッセージ画面が表示されたら、[OK]ボタンをクリックする

3. UUIメール参照画面でメッセージを確認する

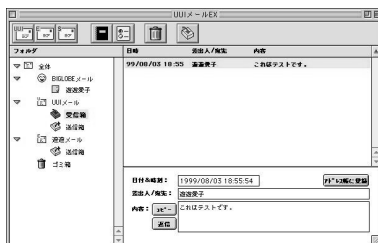
AtermのMsgランプの点滅は消灯させることができます。3-17ページのお知らせを参考にしてください。

UUIメールEX画面ではすべてのメールを表示できます。

■ Macintoshの場合 ■

1. メール到着のメッセージが表示されたら、[OK]ボタンをクリックする

AtermのMsgランプの点滅は消灯させることができます。3-18ページのお知らせを参考にしてください。

2. UUIメールの受信箱でメッセージを確認する

5 メールを安く送る[遊遊メール]

UUIメールとして送信したメッセージを、BIGLOBEのサーバーが通常の電子メールの形式に変換し、インターネット上に送信します。

お願い

初めて利用するときは、「2. 準備」(☞3-5ページ)を参照して、必要な準備作業を行ってください。

5.1 遊遊メールを送る

UUIメールEXを使って、遊遊メールを送信します。遊遊メールは送られた相手から見ると、BIGLOBEから送った通常の電子メールと同様に見えます。

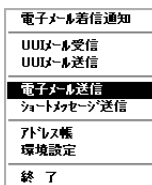
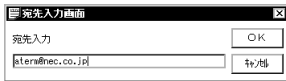
お知らせ

相手がAtermを使用していない場合、相手からの返信メールはBIGLOBEのメールアドレス宛に送ってもらいます。Atermを使用している場合は、UUIメールで返信をもらうことも可能です。

■ Windowsの場合 ■

1. タスクトレイのUUIメールEXインジケータを右クリックし、ポップアップメニューから[電子メール送信]を選択する

2. UUIメール送信画面が表示されたら、[手入力]ボタンをクリックする

アドレス帳に登録済みのアドレスを使う場合は、[追加]ボタンをクリックし、アドレスを選択します。
「アドレス帳への登録」(☞3-12ページ)

3. 相手の電子メールアドレスを入力し、[OK]ボタンをクリックする

4. 下のボックスにメッセージを入力する

送信できる文字数には制限があります。「あとXXX文字」の表示を確認してください。作成済みのメッセージがある場合は、[差込ファイル]ボタンをクリックしてそのファイルを選択します。

■ Macintoshの場合 ■

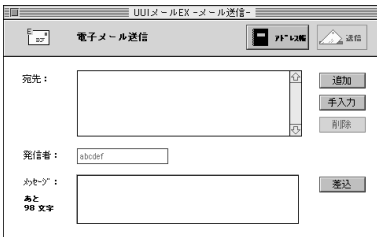
1. UUIメールEXフォルダの中の、UUIメールEXアイコンをダブルクリックする

UUIメールEX画面が表示されます。

2. ツールバーの ボタンをクリックする

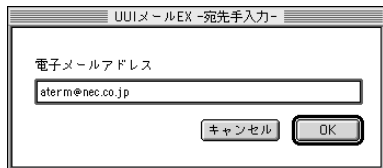
3. [手入力]ボタンをクリックする

アドレス帳に登録済みのアドレスを使う場合は、[追加]ボタンをクリックし、アドレスを選択します。

「アドレス帳への登録」(☞3-15ページ)

5. [送信]ボタンをクリックする

6. 送信結果画面が表示されたら、[OK]ボタンをクリックする

[ＯＫ]ボタンをクリックする前に、AtermのDataランプが消灯していることも確認してください。

遊遊メールを受信すると相手には、次のように届きます。

4. 相手の電子メールアドレスを入力し、[OK]ボタンをクリックする

5. メッセージボックスにメッセージを入力する

送信できる文字数には制限があります。「あとXXX文字」の表示を確認してください。作成済みのメッセージがあるときは、[差込]ボタンをクリックし、ファイルを選択します。

6. [送信]ボタンをクリックする

7. 送信結果が表示されたら[OK]ボタンをクリックする

AtermのDataランプが消灯していることも確認してから、[OK]ボタンをクリックしてください。

6 電話機からUUIメールを送る[テレホンUUIメール]

Atermに接続した電話機を使ってUUIメールを送ることができます。BIGLOBEを含むプロバイダとの契約は不要です。

6.1 テレホン UUI メールを送信する

Atermのアナログポートに接続した電話機を使って、Atermを使っている相手にUUIメールを送ります。

1. **電話機の受話器をあげる**
2. **[＊][＊][2][＊][1][＊]を押す**
3. **相手の電話番号を入力する**

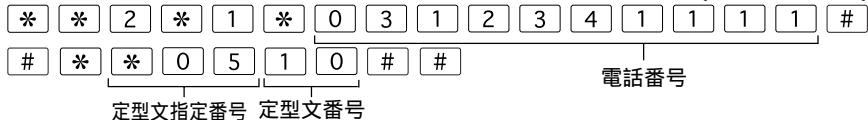
   例　03-1234-1111の場合
   [0][3][1][2][3][4][1][1][1][1]を押す

   電話番号の代わりに[＊][3]を押すと前回と同じ相手に送ることができます。
4. **[#]を押す**
5. **サブアドレスを付ける場合は、[＊][サブアドレス]を押す**

   サブアドレスは15ケタまで入力できます。
   サブアドレスを付けない場合は、手順6に進みます。
6. **[#][＊]を押す**
7. **メッセージを入力する**

   「7.4　メッセージの入力方法」(☞3-34ページ)
   例　定型文「デンワクダサイ」を入力する場合

   [＊][3]を押すと前回と同じメッセージを送ることができます。
8. **[#][#]を押す**
9. **受話器を戻す**

手順1～9で押したボタンを順につなぐと下記のようになります(手順5を除く)。

? こんなときは・・・・・

メッセージの送信を中止するときは、手順8で最後の[#]を押す前までに受話器を戻します。

お知らせ・・・・・・・

- メッセージの送信が失敗したときは、「ビー」(ビジートーン)と鳴ります。再送信してください。
- 1回の送信料は0.4円です。
- 電話機の短縮ボタンに登録すると、繰り返し使用する場合に大変便利です(☞3-37ページ)。

■ テレホンUUIメールを再送信する ■

テレホンUUIメールの送信が失敗したときや、同じ相手にもう一度同じメッセージを送りたいときはメールを再送信します。

1. 電話機の受話器をあげる

2. ＊ ＊ 2 ＊ 3 # を押す

3. 受話器を戻す

お願い

- ほかのUUIメールをテレホンUUIメールとして再送信したり、逆に、テレホンUUIメールをテレホン遊遊メール（ショートメッセージ）やテレホン遊遊メール（電子メール）の相手へ送信することはできません。
- 前回送信したメールと違う種類のUUIメールを再送信しようとすると、「ビー」（ビジートーン）と鳴ります。

7 電話機から遊遊メールを送る[テレホン遊遊メール]

Atermに接続した電話機を使って遊遊メールを送ることができます。遊遊メールと同じ準備(☞3-5ページ)のほかに、以下の準備作業が必要です。

7.1 テレホン遊遊メール利用の準備

テレホン遊遊メールを利用する場合は、遊遊メール用の準備のほかに、以下の登録作業が必要です。

・BIGLOBEのユーザIDの登録 (☞本ページ)
・電子メールアドレスの短縮番号登録(☞3-28ページ)
・サーバーのドメインネームの登録(☞3-29ページ)

■ BIGLOBEのID番号の登録 ■

テレホン遊遊メールは、送信先へ直接送信するのではなく、BIGLOBEのサーバーを介してポケットベルサービスや電子メールの宛先にメッセージを送ります。このため、テレホン遊遊メールを利用するときは、事前にBIGLOBEのID番号をAtermに登録してください。登録していない場合、テレホン遊遊メールを送ることはできません。

1. 電話機の受話器をあげる

2. [＊] [＊] [8] [5] [＊] [0] [1] [＊] を押す

3. ID番号を入力する

BIGLOBE-ID番号を入力します。
番号の入力方法は、メッセージの入力と同じです。
「7.4.1 文字コードを使って入力する」(☞3-34ページ)
例　abc1234の場合

4. [#] [#] を押す

5. 受話器を戻す

■ 電子メールアドレスの短縮番号登録 ■

テレホン遊遊メールで電子メールを送信するときの相手の電子メールアドレスを、短縮番号に登録します。9件分登録できます。
電子メールアドレスは短縮番号に登録しなくても送信できますが、よく使うアドレスを登録しておくと、送信時の操作が簡単になります。

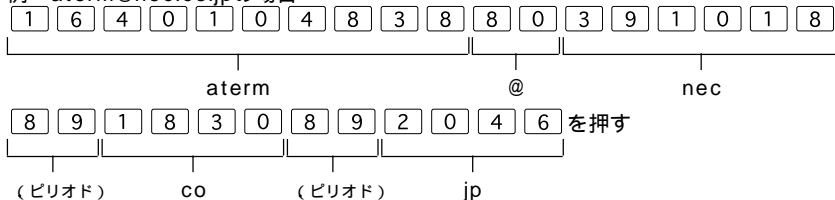
1. 電話機の受話器をあげる

2. ＊ ＊ 8 3 ＊ を順に押す

3. 短縮番号(01〜09)を入力する

4. ＊ を押す

5. 電子メールアドレスを入力する

送信先電子メールアドレスを入力します。
電子メールアドレスの入力方法は、メッセージの入力と同じです。最大40文字まで入力できます。
「7.4.1 文字コードを使って入力する」(☞3-34ページ)
例　aterm@nec.co.jpの場合

6. # # を押す

7. 受話器を戻す

■ サーバーのドメインネームの登録 ■

テレホン遊遊メールでPHS・デジタル携帯電話へショートメッセージを送信するときは、事前にサーバーのドメインネームを登録します。
ドメインネームは、最大8個までを短縮番号(01～08)に登録できます。送信時にここで登録した短縮番号を使いますので、登録した短縮番号を覚えておいてください。

1. 電話機の受話器をあげる

2. [＊] [＊] [8] [4] [＊] を順に押す

3. 短縮番号(01～08)を入力する

4. [＊] を押す

5. ドメインネームを入力する

サーバーのドメインネームを入力します。
ドメインネームの入力方法は、メッセージの入力と同じです。最大40文字まで入力できます。
「7.4.1 文字コードを使って入力する」(☞3-34ページ)
例　nec.co.jpの場合

を押す

6. [#] [＊] を押す

7. [#] [#] を押す

8. 受話器を戻す

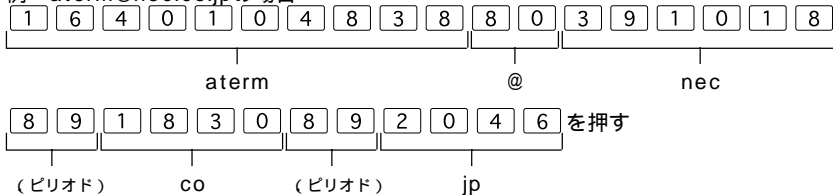
7.2 パソコンへ電子メールを送る

電話機を使って、インターネットの電子メールを送ります。相手の電子メールアドレスを登録している場合は、次ページの「相手の電子メールアドレスを登録している場合は」(☞3-31ページ)を参照してください。

1. **電話機の受話器をあげる**

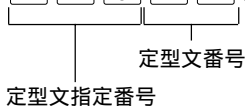
2. [＊] [＊] [4] [1] [＊] **を順に押す**

3. **相手の電子メールアドレスを入力する**

   電子メールアドレスの入力方法は、メッセージの入力方法と同じです。
   「7.4.1 文字コードを使って入力する」(☞3-34ページ)
   例　aterm@nec.co.jpの場合

   相手のメールアドレスの代わりに [＊] [3] を押すと前回と同じアドレスに送ることができます。

4. [#] [＊] **を押す**

5. **メッセージを入力する**

   「7.4 メッセージの入力方法」(☞3-34ページ)
   例　定型文「デンワクダサイ」を入力する場合

   [＊] [3] を押すと前回と同じメッセージを送ることができます。

6. [#] [#] **を押す**

7. **受話器を戻す**

■ 相手の電子メールアドレスを登録している場合は（☞3-28ページ） ■

電子メールアドレスを登録した短縮番号を指定できます。
手順2と手順3は次の操作に置き換えてください。

2. [＊] [＊] [4] [2] [＊] **を順に押す**

3.　短縮番号（1～9）を入力する

入力した短縮番号に電子メールアドレスが登録されていないときは、「ビー」（ビジートーン）と鳴ります。

? こんなときは・・・・・

メッセージの送信を中止するときは、手順6で最後の [＃] を押す前までに受話器を戻します。

お知らせ・・・・・・・・

メッセージの送信が失敗したときは、「ビー」（ビジートーン）と鳴ります。再送信してください。

■ テレホン遊遊メール（電子メール）を再送信する ■

テレホン遊遊メールを使った電子メールの送信が失敗したときや、同じ相手にもう一度同じメッセージを送りたいときはメールを再送信します。

1.　電話機の受話器をあげる

2. [＊] [＊] [4] [9] [＃] **を押す**

3.　受話器を戻す

お願い・・・・・・・・・

- ほかのUUIメールをテレホン遊遊メール（電子メール）として再送信したり、テレホン遊遊メール（電子メール）をテレホンUUIメールやテレホン遊遊メール（ショートメッセージ）の相手へ送信することはできません。
- 前回送信したメールと違う種類のUUIメールを再送信しようとすると、「ビー」（ビジートーン）と鳴ります。

7.3 ポケットベル・PHS・デジタル携帯電話へショートメッセージを送る

電話機を使って、ポケットベル・PHS・デジタル携帯電話にショートメッセージを送ります。

1. 電話機の受話器をあげる

2. [＊] [＊] [3] [＊] [ドメインネームの短縮番号(01～08)]を順に押す

事前に登録したドメインの短縮番号を指定します。
「サーバーのドメインネームの登録」(☞3-29ページ)

3. 相手のポケットベル番号を入力する

パスワードがある場合は、ポケットベル番号に続けてパスワードも入力してください。
例　03-1111-9999の場合
[0] [3] [1] [1] [1] [1] [9] [9] [9] [9] を押す

4. [#] [＊] を押す

5. メッセージを入力する

「7.4 メッセージの入力方法」(☞3-34ページ)
[＊] [3] を押すと前回と同じメッセージを送信できます。
例　「ドコニイルノ？」
[＊] [0] [5] [2] [6] を押す

定型文番号

定型文指定番号

6. [#] [#] を押す

7. 受話器を戻す

? こんなときは・・・・・

メッセージの送信を中止するときは、手順6で最後の [#] を押す前までに受話器を戻します。

お知らせ・・・・・・・

- 手順3でパスワードに“ _(アンダーバー) ”を入力したいときは、[＊] [9] [1] と押します。
- 手順3で相手のポケットベル番号の代わりに [＊] [3] を押すと前回と同じ相手に送信できます。
- メッセージの送信が失敗したときは、「ビー」(ビジートーン)と鳴ります。再送信してください。

■ テレホン遊遊メール(ショートメッセージ)を再送信する ■

テレホン遊遊メールを使った、ポケットベル・PHS・デジタル携帯電話への送信が失敗したときや、同じ相手にもう一度同じメッセージを送りたいときはメールを再送信します。

1. **電話機の受話器をあげる**
2. **[＊] [＊] [3] [9] [#] を押す**
3. **受話器を戻す**

お願い

- ほかのUUIメールをテレホン遊遊メール(ショートメッセージ)として再送信したり、テレホン遊遊メール(ショートメッセージ)をテレホンUUIメールやテレホン遊遊メール(電子メール)の相手へ送信することはできません。
- 前回送信したメールと違う種類のUUIメールを再送信しようとすると、「ビー」(ビジートーン)と鳴ります。

7.4 メッセージの入力方法

テレホンUUIメール・テレホン遊遊メールのメッセージの入力方法です。文字コードを使って1文字ずつ入力する方法、定型文を使う方法、自作伝言文を使う方法があります。

・文字コードを使って入力する(☞本ページ)
・定型文や自作伝言文を入力する(☞3-35ページ)
・自作伝言文を登録する(☞3-36ページ)

7.4.1 文字コードを使って入力する

オリジナルメッセージや、メールアドレス・ドメインネームなどは、文字コードを使って入力します。文字コード一覧表を参照して、入力したい文字のコードを順番に押してください。

■ 文字コード一覧表 ■

文字	コード	文字	コード	文字	コード	文字	コード	文字	コード
ア	11	イ	12	ウ	13	エ	14	オ	15
カ	21	キ	22	ク	23	ケ	24	コ	25
サ	31	シ	32	ス	33	セ	34	ソ	35
タ	41	チ	42	ツ	43	テ	44	ト	45
ナ	51	ニ	52	ヌ	53	ネ	54	ノ	55
ハ	61	ヒ	62	フ	63	ヘ	64	ホ	65
マ	71	ミ	72	ム	73	メ	74	モ	75
ヤ	81	(	82	ユ	83	)	84	ヨ	85
ラ	91	リ	92	ル	93	レ	94	ロ	95
ワ	01	ヲ	02	ン	03	゛	04	゜	05
A	16	B	17	C	18	D	19	E	10
F	26	G	27	H	28	I	29	J	20
K	36	L	37	M	38	N	39	O	30
P	46	Q	47	R	48	S	49	T	40
U	56	V	57	W	58	X	59	Y	50
Z	66	?	67	!	68	ー	69	／	60
¥	76	&	77	＿	78	，	79	%	70
＊	86	#	87	スペース	88	．	89	@	80
1	96	2	97	3	98	4	99	5	90
6	06	7	07	8	08	9	09	0	00
訂正	＊＊	頁めくり	＊1	ー	＊2	前回のデータ	＊3	[	＊4
大/小文字	＊5	]	＊6	スペース	＊8	＿	＊91	;	＊92注1

注1：遊遊メールでは使用できません。

■ 入力例 ■

「アシタハ？」の場合

1 1 3 2 4 1 6 1 6 7

「Ka」の場合

3 6 ＊ 5 1 6

英字の大文字/小文字の切り替え

「ゴゴ3ジ」の場合

お願い

入力可能文字数はメッセージの種類などによって異なります。入力可能文字数を超えると、「ピッピッ」と鳴り、超えた文字は無視されます。

7.4.2 定型文や自作伝言文を入力する

あらかじめ登録されている定型文は、文の番号を入力するだけで入力できます。また、よく使う文章を自作伝言文として登録しておき、定型文と同じように使うこともできます。

＊ 0 5 **[定型文・自作伝言文の番号]を押す**

10～29：定型文の番号
30～59：自作伝言文の番号

■ 定型文一覧表 ■

番号	メッセージ	番号	メッセージ
10	デンワクダサイ	20	シキュウ!
11	オクレマス	21	OKデス
12	ヘンコウシマス	22	NGデス
13	チュウシデス	23	シュウゴウ!
14	サキニカエリマス	24	マッテテ!
15	ルスデンアリ	25	ナニシテルノ？
16	ジカンデス	26	ドコニイルノ？
17	ジタク	27	イマイソガシイ
18	カイシャ	28	ゴメンナサイ
19	ガッコウ	29	アリガトウ

7.4.3 自作伝言文を登録する

よく使うメッセージは、自作伝言文としてAtermに登録しておくことができます。メッセージ送信時には、自作伝言文の番号を指定するだけで入力できるようになります。

1. 電話機の受話器をあげる

2. [*] [*] [8] [2] [*] を順に押す

3. 自作伝言文の番号(30〜59)を入力する

4. [*] を押す

5. メッセージを入力する

文字コードを使ってメッセージを入力します。
最大22文字まで入力できます。

6. [#] [#] を押す

7. 受話器を戻す

お知らせ

- 手順3で誤って10〜29を入力したときは、[#] を押してから、番号を入力し直してください。
- 文字を削除するときは、[*] [*] を押します。1文字ずつ削除できます。

■ 自作伝言文控え ■

番号	メッセージ	番号	メッセージ	番号	メッセージ
30		40		50	
31		41		51	
32		42		52	
33		43		53	
34		44		54	
35		45		55	
36		46		56	
37		47		57	
38		48		58	
39		49		59	

7.5 テレホン遊遊メールを便利に使う

テレホン遊遊メールを便利に使うヒントをご紹介します。

ヒント1　同じ相手に同じメッセージをひんぱんに送る(☞本ページ)
ヒント2　同じ相手に毎回違うメッセージを送る(☞3-40ページ)

ヒント1：同じ相手に同じメッセージをひんぱんに送る

テレホン遊遊メールで、相手のメールアドレスを入力したり、メッセージを入力するのはちょっと面倒です。しかし、いつも同じ相手に同じメッセージを送る場合は、Atermにメールアドレスとメッセージの内容を登録しておき、さらに、お使いの電話機の短縮ダイヤルに、このメールアドレスとメッセージを登録しておくことで、2回目からは、短縮ダイヤルするだけでメールを送ることができるようになります。

step 1 送り先の電子メールアドレスを Aterm に登録する

よく使う相手のアドレスは、Atermの短縮番号に登録しておきます。ここでは、例として短縮番号1に相手の電子メールアドレスaterm@abc.biglobe.ne.jpを登録します。

お知らせ

- メールアドレスに対応する文字コードを、文字コード一覧表(☞3-34ページ)であらかじめ調べて控えておきましょう。
- 電子メールアドレスはAtermに9件まで短縮登録できます。短縮番号は下記の手順3で、[0][1]～[0][9]を指定できます。

1. **受話器をあげる**
2. **[＊][＊][8][3][＊]を押す**
3. **短縮番号[0][1]を入力する**
4. **[＊]を押す**
5. **電子メールアドレスを入力する**

1 6	4 0	1 0	4 8	3 8	8 0	1 6	1 7	1 8
a	t	e	r	m	@	a	b	c
8 9	1 7	2 9	2 7	3 7	3 0	1 7	1 0	8 9
.(ピリオド)	b	i	g	l	o	b	e	.(ピリオド)
3 9	1 0	8 9	2 0	4 6				
n	e	.(ピリオド)	j	p				

6. **[#][#]を押す**
7. **受話器を戻す**

step 2 自作文メッセージを登録する

よく使うメッセージは、自作伝言文としてAtermに登録しておくことができます。ここでは、自作伝言文30番に「ナンジニカエッテクルノ？」を登録してみます。

お知らせ

- 登録したいメッセージの文字コードを、文字コード一覧表(☞3-34ページ)であらかじめ調べて控えておきましょう。
- 自作伝言文はAtermに30件まで短縮登録できます。伝言番号は下記の手順3で、[3][0]～[5][9]を指定できます。

1. **受話器をあげる**
2. **[＊][＊][8][2][＊]を押す**
3. **自作伝言文の番号[3][0]を入力する**
4. **[＊]を押す**
5. **メッセージを入力する**

[5][1]	[0][3]	[3][2]	[0][4]
ナ	ン	シ	゛
[5][2]	[2][1]	[1][4]	[＊][5]
ニ	カ	エ	小文字
[4][3]	[4][4]	[2][3]	[9][3]
ツ	テ	ク	ル
[5][5]	[6][7]		
ノ	？		

6. **[#][#]を押す**
7. **受話器を戻す**

step 3 メッセージを送信する

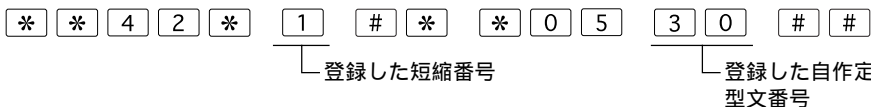
相手のアドレスaterm@abc.biglobe.ne.jpが短縮番号１に、メッセージが定型文30として登録されているので、次の手順で「ナンジニカエッテクルノ？」が送信できます。

1. **受話器をあげる**
2. **[＊][＊][4][2][＊]を押す**
3. **短縮番号[1]を入力する**
4. **[#][＊]を押す**
5. **[＊][0][5]を押す**
6. **自作伝言文の番号[3][0]を押す**
7. **[#][#]を押す**
8. **受話器を戻す**

お知らせ

短縮番号は、登録するときは例えば[0][1]と2桁で入力しますが、送信するときは[1]というように1桁で入力します。

step 4 電話機の短縮ダイヤルへの登録

お使いの電話機の短縮ダイヤルまたはワンタッチボタンへ、相手先の電話番号の代わりに以下を登録します。

登録方法はお使いの電話機の取扱説明書をお読みください。

step 5 短縮ダイヤルまたはワンタッチボタンでメールを送る

Step4で登録した短縮ダイヤルまたはワンタッチボタンを押して電話をかけます。これだけでメールを送ることができます。
ワンタッチボタンや短縮ボタンで電話をかける方法は、お使いの電話機の取扱説明書をお読みください。

お知らせ

- 遊遊メールでは、あらかじめ署名（メールの本文の下につける自分の名前など）を登録しておくことができます（☞3-7ページ）。署名を付けると相手は、誰からきたメールかわからなくなるおそれがありません。
- テレホン遊遊メールからの電子メールを受け取った相手の方が、そのメールに返信すると自分のBIGLBE-ID宛のメールとなります。電子メール着信通知と一緒に契約すると、スムーズに受け取ることができます。電子メールの受信はパソコンで行ってください。

ヒント2： 同じ相手に毎回違うメッセージを送る

送るメッセージが違っていても、相手が同じ場合は、Atermにメールアドレスを登録しておきましょう。ここではフリーワードでメッセージを送る例を説明します。

step 1 送り先の電子メールアドレスを Aterm に登録する

よく使う相手のアドレスは、Atermの短縮番号に登録しておきます。ここでは、短縮1に相手の電子メールアドレスaterm@abc.biglobe.ne.jpを登録します。

お知らせ

- メールアドレスに対応する文字コードを、文字コード一覧表（☞3-34ページ）であらかじめ調べて控えておきましょう。
- 電子メールアドレスはAtermに9件まで短縮登録できます。短縮番号は下記の手順3で、［0］［1］～［0］［9］を指定できます。

1. **受話器をあげる**
2. **［＊］［＊］［8］［3］［＊］を押す**
3. **短縮番号［0］［1］を入力する**
4. **［＊］を押す**
5. **電子メールアドレスを入力する**

6. **［#］［#］を押す**
7. **受話器を戻す**

step 2 メッセージを送信する

短縮1に登録されたアドレスに、メッセージを送ってみましょう。

お知らせ

メッセージに対応する文字コードを、文字コード一覧表(☞3-34ページ)であらかじめ調べて控えておきましょう。

1. 受話器をあげる
2. * * 4 2 * を押す
3. 短縮番号 1 を入力する
4. # * を押す
5. メッセージを入力する

   例 「Thank You!」の場合

6. # # を押す
7. 受話器を戻す

4.USBネットワーク

Atermに2台のWindowsパソコンを接続して、PCネットワークを構築する方法を説明します。

Windows® MeはMicrosoft® Windows® Millennium Edition operating systemの略です。
Windows® 98はMicrosoft® Windows® 98 operating systemの略です。
Windows® 95はMicrosoft® Windows® 95 operating systemの略です。
Windows® 2000はMicrosoft® Windows® 2000 operating systemの略です。

目　　次

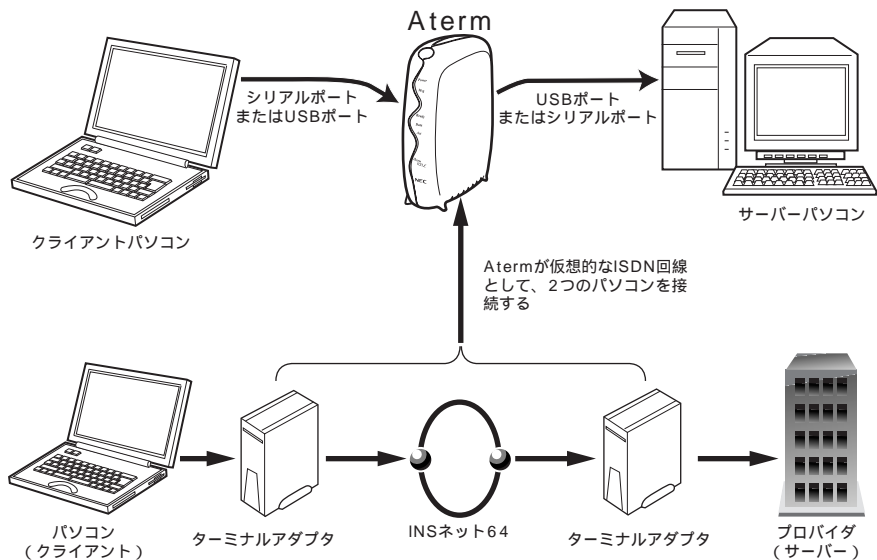
1 USBネットワークとは？

USBネットワークとは、1台のAtermに2台のパソコンを接続することによってネットワークを組み、2台のパソコン間でデータをやり取りしたり、1台のプリンタを共有できるようにするものです。イーサネットケーブルで接続するLANと違い、ネットワークボードが不要なので、手軽に始めることができます。

**ここでは、Windowsのダイヤルアップサーバーとダイヤルアップネットワークを利用してUSBネットワークを構築する方法を説明します。
詳しくはWindowsを提供するメーカーにお問い合わせください。**

この章では、サーバーの役目を果たすパソコンをサーバーパソコン、クライアントとなるパソコンをクライアントパソコンと呼ぶことにします。

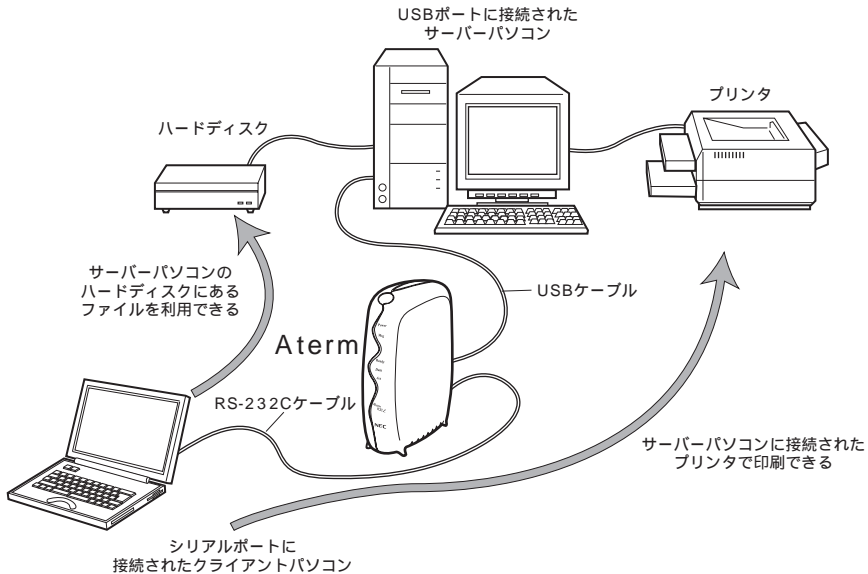
■ USBネットワークのしくみ ■

USBネットワークでは、1台のAtermの中に、INSネット64につながれた2台のターミナルアダプタによる仮想的なネットワークがあると考えることができます。インターネットプロバイダに接続するのと同様に、クライアントパソコンからサーバーパソコンにダイヤルアップ接続して利用します。

■ サーバーとクライアント ■

一般的にサーバーとは、ネットワーク上のほかのコンピュータに資源を提供するコンピュータで、クライアントとは、サーバーの資源を利用するコンピュータです。USBネットワークでの資源とは、サーバーに直接接続されたプリンタやサーバー上のファイルです。USBネットワークを組むと、クライアントからもプリンタが使えるようになり、サーバーが持つファイルを読み書きしたり、クライアントで作成したファイルをサーバーに渡すことができます。

サーバーとクライアントは役割の違いだけなので、WindowsMe/98/95/2000を搭載し、Atermに接続できるパソコンなら、サーバーにもクライアントにもなることができます。サーバー側のパソコンが高性能でなければ動かないといったことはありません。WindowsMe/98/95/2000が提供するダイヤルアップサーバープログラムまたはRASプログラムをインストールし、ダイヤルアップ接続を可能にすると、サーバーになります。
また、サーバーとなるパソコンをAtermのどのポートに接続しなければならないといった制限もありません。

■ 利用例 ■

1台のパソコンをUSBポートに接続してサーバーに、もう1台のパソコンをシリアルポートに接続してクライアントにします。

ここでは、サーバー用にデスクトップパソコンを、クライアント用にノートパソコンを利用しています。
デスクトップパソコンは今まで通り利用できますが、ノートパソコンから次のようなことができるようになります。

- デスクトップパソコンの共有設定されたファイルをノートパソコンにコピーする
- ノートパソコンのファイルをデスクトップパソコンの共有設定されたフォルダにコピーする
- ノートパソコンからデスクトップパソコンに接続されているプリンタで印刷する
- デスクトップパソコンの共有設定されたファイルを、ノートパソコンから開く

デスクトップパソコンにあるファイルをノートパソコンから直接使うことができます。たとえば、デスクトップパソコン上のファイルをノートパソコンからダブルクリックで開き、編集できます。

お願い・・・・・・・・・・

サーバーパソコンのファイルを、クライアントパソコンから直接開く場合、ネットワーク機能をサポートしたアプリケーションを使う必要があります。サポートされていない場合、1つのファイルをサーバー側とクライアント側で同時に処理しようとして、ファイルが壊れることがあります。

2 準備

USBネットワーク構築のために必要な作業について説明します。

2.1 必要なハードウェア

USBネットワーク機能を利用するには、以下の機材が必要です。

・サーバー用パソコン
・クライアント用パソコン
WindowsMe/98/95/2000のいずれかが動作するもの。ただし、Windows95の場合、シリアルポートのみ動作します。

2.2 必要なソフトウェア

■ USB ドライバ、モデム情報 ■

USBネットワークを使う前提条件としては、サーバーパソコンとクライアントパソコン双方ともがAtermに接続され、インターネットにダイヤルアップ接続可能な状態となっている必要があります。

パソコンを1台ずつAtermに接続し、らくらくアシスタントを使って設定するのが一番簡単な方法です。それぞれのパソコンがインターネットに接続できるところまで確認してください(☞『取扱説明書』第2章)。

お知らせ

- らくらくアシスタントによる設定がうまくいかない場合などは、USBドライバ・モデム情報・ダイヤルアップアダプタを手動でインストールしてください(☞『データ通信ガイド　1.手動セットアップ』)。
- ハイパーターミナルを使って、接続状態を確認することもできます。
「ハイパーターミナルを使ってAtermとパソコンの接続状態を確認する」
(☞『お困りのときには』)

■ ダイヤルアップサーバープログラム ■

サーバーパソコンには、ダイヤルアップサーバープログラム（またはRAS）をインストールします。ダイヤルアップサーバープログラムは、クライアントパソコンからの着信を受け付け、クライアントパソコンと通信を行うためのものです。

ダイヤルアップサーバープログラムは、Windows Me/98/2000には標準で含まれています。Windows95には含まれていない場合もありますが、以下のモジュールを入手して利用できます。

- マイクロソフト社のMicrosoft Plus!という製品を別途購入する
- ダイヤルアップネットワークVer.1.3というWindows95のアップデートモジュールをMicrosoftのホームページ（http://www.microsoft.com/japan/windows/dun1_3/）から入手する

お知らせ

- URL、名称などは、マイクロソフト社の都合により変更される場合があります。
- ダイヤルアップサーバープログラムのインストール時、Windows Me/98/95のインストールCD-ROMやフロッピーディスクが必要になることがあります。

■ Microsoft ネットワーク ■

USBネットワークは、Windows Me/98/95/2000が持つMicrosoftネットワーク機能を利用して構成します。Microsoftネットワークを構築するためには、次の3つのコンポーネントを組み込む必要があります。

①アダプタ

通信を行うためのハードウェアやそれを利用するためのデバイスドライバのことです。Windows Me/98/95では、「ダイヤルアップアダプタ」を使用します。Windows 2000では「ダイヤルアップアダプタ」を使いません。

②プロトコル

通信を行う場合の手順などの約束ごとです。実際には、これを実現するためのプログラムを指します。Microsoftネットワークでは、TCP/IP・NetBEUI・IPXの3つのプロトコルが利用可能ですが、USBネットワークでは、「NetBEUI」の利用を推奨します。サーバーパソコンとクライアントパソコンの双方で同じプロトコルを使わなければなりません。

③サービス／クライアント

サービスは、資源の提供を行うサーバー側で実行するプログラムで、サービスの提供を受ける側で実行するのがクライアントです。

USBネットワークでは、サーバーパソコンに「Microsoftネットワーク共有サービス」、クライアントパソコンに「Microsoftネットワーククライアント」を使用します。

お知らせ

USBネットワークでも、プロトコルとして「TCP/IP」を利用することは可能ですが、特殊な設定が必要になること、ネットワークコンピュータにサーバーマシンが表示されないなどの理由で、利用を推奨していません。本書では、NetBEUIのインストールのしかたについてのみ説明します。
また、すでにインターネットアクセス用にTCP/IPがインストールされている環境にNetBEUIプロトコルを追加しても問題はありません。

次章からは、WindowsのOSごとに説明します。お使いのWindowsのOSに合わせてお読みください。
・WindowsMe/98/95をお使いの方　→「3. サーバーパソコンがWindowsMe/98/95の場合」（☞4-9ページ）
・Windows2000をお使いの方　→「4. サーバーパソコンがWindows2000の場合」（☞4-36ページ）

3 サーバーパソコンがWindowsMe/98/95の場合

3.1 サーバーパソコンの設定

サーバーパソコンは、以下の順番で設定します。

Step1　ダイヤルアップサーバープログラムのインストール
Step2　Microsoftネットワーク共有サービスをインストールする
Step3　NetBEUIプロトコルをインストールする
Step4　コンピュータ名とワークグループ名を設定する
Step5　ダイヤルアップサーバーを設定する
Step6　フォルダの共有設定
Step7　プリンタの共有設定

お願い

- お使いの環境によっては、これからインストールするネットワーク関係のモジュールがすでにインストールされていることがあります。その場合、新たにインストールを行う必要はありません。
- 標準以外のモジュールが組み込まれていたり、バージョンアップを行った場合など、以後で説明する画面とは異なる画面が表示されることがあります。その場合は、実際の画面に従って作業を行ってください。

step 1　ダイヤルアップサーバープログラムのインストール

WindowsMe/98には、ダイヤルアップサーバープログラムが含まれています。標準ではインストールされないのでコントロールパネルを使って、ダイヤルアップサーバーをインストールします。
WindowsMe/98のCD-ROMが必要になることがありますので、用意しておいてください。

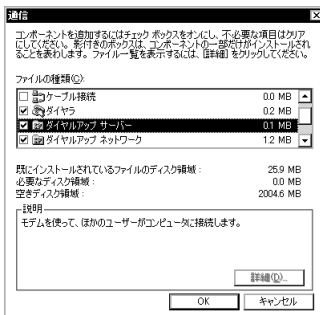
お知らせ

Windows95には、ダイヤルアップサーバープログラムが含まれていません。ダイヤルアップサーバープログラムを入手して、インストールを行ってください。
インストール方法については、ダイヤルアップサーバープログラムが含まれるそれぞれの製品、モジュールに添付の文書の指示に従ってください。

1. Windowsの[スタート]ボタンをクリックし、[設定]－[コントロールパネル]の[アプリケーションの追加と削除]アイコンをダブルクリックする

2. [Windowsファイル]タブをクリックする

3. [ファイルの種類]から「通信」を選択し、[詳細]ボタンをクリックする

4. [コンポーネントの種類](Windows98/95は[ファイルの種類])の[ダイヤルアップサーバー]をチェックし、[OK]ボタンをクリックする

ファイルがコピーされます。
ディスクの挿入メッセージが表示されたときは、WindowsMe/98のCD-ROMをセットしてください。

step 2　Microsoftネットワーク共有サービスをインストールする

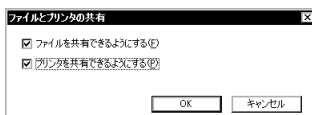
Microsoftネットワーク共有サービスをインストールし、プロパティを設定します。

1. **Windowsの[スタート]ボタンをクリックし、[設定]－[コントロールパネル]の[ネットワーク]アイコンをダブルクリックする**

   Windows Meで[コントロールパネル]に[ネットワーク]アイコンが見つからない場合は、[すべてのコントロールパネルのオプションを表示する]をクリックしてください。

2. **[ネットワークの設定]タブをクリックする**

3. **[ファイルとプリンタの共有]ボタンをクリックする**

4. **両方のチェックボックスをチェックし、[OK]ボタンをクリックする**

   Microsoftネットワーク共有サービスが追加されます。
   なお、Microsoftネットワーククライアントがインストールされていなかった場合は、同時に追加されます。

5. **[現在のネットワークコンポーネント]から[Microsoftネットワーク共有サービス]を選択し、[プロパティ]ボタンをクリックする**

6. **[プロパティ]から「LMアナウンス」を選択し、[値]に「はい」を選択する**

7. **[プロパティ]から「ブラウズマスタ」を選択し、[値]に「有効」を選択する**

8. **[OK]ボタンをクリックする**

お知らせ

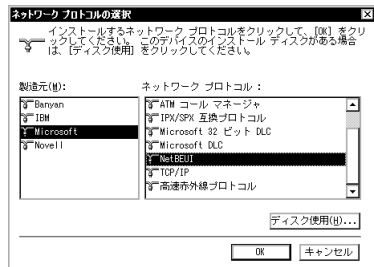
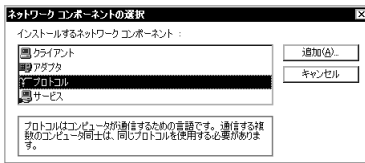
- 「LMアナウンス」とは、パソコンがネットワークに接続したときに、接続したことを他のパソコンにアナウンスする機能です。この機能により、他のパソコンは、新しくネットワークに参加したパソコンを見つけ、ネットワークコンピュータフォルダにアイコンを追加します。
- 「ブラウズマスタ」を有効にすると、そのパソコンはネットワーク内のパソコンのリストを保持し、他のマシンにその情報を提供するようになります。

step 3　NetBEUI プロトコルをインストールする

NetBEUIプロトコルをインストールします。

1. [ネットワークの設定]タブに戻り[追加]ボタンをクリックする

2. 「プロトコル」を選択し、[追加]ボタンをクリックする

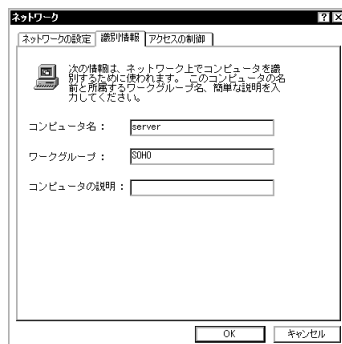
3. [製造元]から「Microsoft」を、[ネットワークプロトコル]から「NetBEUI」を選択し、[OK]ボタンをクリックする

NetBEUIが追加されます。

step 4　コンピュータ名とワークグループ名を設定する

サーバーパソコンのコンピュータ名とワークグループ名を設定します。

1. [識別情報]タブをクリックする

2. コンピュータ名、ワークグループ名を入力する

コンピュータ名には適当な名前を指定します。ほかのパソコンの名前と重ならないようにしてください。ワークグループ名は、クライアント側(ネットワークで共通の名前)と同じ名前にします。

3. [OK]ボタンをクリックする

ファイルのコピーが行われます。
途中で、Windowsのセットアップメッセージが表示されたら、WindowsのCD-ROMをドライブにセットしてください。

4. 再起動メッセージが表示されたら、[再起動]ボタンをクリックする

お願い

- コンピュータ名は半角英数字15文字以内で指定します。スペースを入れることはできません。
- ほかのパソコンと同じ名前を付けるとUSBネットワークを利用できなくなります。
- ワークグループ名は、半角英数字15文字以内で指定します。スペースを入れることはできません。サーバーパソコンとクライアントパソコンに同じ名前を設定します。ワークグループ名が違うと、USBネットワークを利用できなくなります。
- 再起動を行わないと、モジュールのインストールや設定が完了せず、パソコンが不安定な状態になります。この状態で作業を続けると、動作がおかしくなったり、停止してしまうことがあります。必ずここでパソコンを再起動してください。

step 5 ダイヤルアップサーバーを設定する

ダイヤルアップサーバーの設定を行い、サーバーパソコンに着信できるようにします。

1. Windowsの[スタート]ボタンをクリックし、[設定]－[ダイヤルアップネットワーク]を選択する

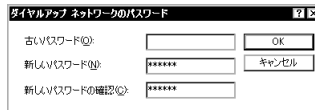
Windows98/95の場合は、マイコンピュータ内の[ダイヤルアップネットワーク]アイコンをダブルクリックで開いてください。

2. メニューの[接続]－[ダイヤルアップサーバー]を選択する

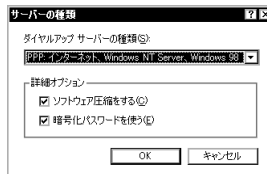
3. [AtermIT SYNC115]タブをクリックする

4. [着信する]を選択し、[パスワードの変更]ボタンをクリックする

5. パスワードを設定し、[OK]ボタンをクリックする

[新しいパスワード]の欄に適当なパスワードを入力し、[新しいパスワードの確認]欄に同じパスワードをもう一度入力します。
ここで設定したパスワードを、クライアント側がダイヤルアップ接続する際のパスワードとして入力します。

6. [サーバーの種類]ボタンをクリックする

7. [ダイヤルアップサーバーの種類]から[PPP:インターネット]を選択する

8. 詳細オプションの両方をチェックして[OK]ボタンをクリックする

9. [適用]ボタンをクリックする

クライアント側からの接続待ちの状態になります。

10. [OK]ボタンをクリックする

お知らせ

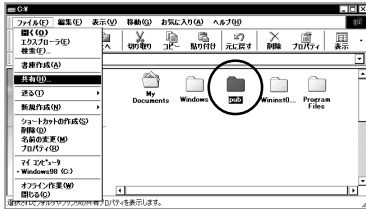
ダイヤルアップサーバーを停止するときは、タスクバーのダイヤルアップサーバーをダブルクリックして手順9の画面を表示し、[着信しない]を選択して[OK]ボタンをクリックします。

お願い

- 複数のモデム情報を登録している場合、手順9の画面のようにタブごとに着信する／しないを設定できます。しかし、実際に同時に着信できるのは1つだけです。このためUSBネットワークを使っている間は、他のモデムを介して着信することはできません。
- USBネットワーク用にダイヤルアップサーバーを動作させている場合でも、Atermのデータポートに着信があり、Atermが着信可能な設定になっていると、ダイヤルアップサーバーに対して、外部からの接続が行われてしまいます。パスワードが一致しないと接続できませんが、セキュリティ上、INSネット64側から接続されたくない場合はデータポートへの着信を禁止する必要があります。らくらくアシスタント画面の[INS回線の電話番号の設定]をクリックして、着信するポート（シリアルまたはUSB)のチェックをはずします。
- ダイヤルアップサーバー起動中は、らくらくアシスタントは使用できません。ダイヤルアップサーバーの起動前にこれらすべてを終了させてください。

step 6　フォルダの共有設定

ファイルの共有を行うためには、サーバーパソコンで共有の設定を行います。共有設定では、クライアントから見える名前（共有名またはシェア名といいます）を付けたり、アクセスの種類、パスワードなどを設定します。
共有を設定する単位は、ドライブまたはフォルダです。

1. 共有するフォルダを選択し、メニューから［ファイル］－［共有］を選択する

2. 共有名、アクセスの種類、パスワードを設定し、［OK］ボタンをクリックする

クライアントからの書き込みを許可する場合は、「フルアクセス」または「パスワードで区別」を選択してください。パスワードを設定しないときは、クライアントからの利用時、パスワードが不要となります。

フォルダが共有されると、手のマークが付きます。

お願い

ドライブに対して共有設定をすると、クライアントパソコンからサーバーパソコンのハードディスクをそのまま利用できるので、使いやすくなります。ただし、クライアント側のアプリケーションから直接サーバーパソコンのファイルにアクセスするように設定した場合、サーバーパソコン側でハードディスク内のフォルダの位置を変えたり、別のドライブへ移動させたときに、クライアント側のアプリケーションの設定も変更しなければならないことがあります。
フォルダ単位で共有設定する場合は、クライアントから見える共有名はハードディスク上のフォルダ構成の影響を受けません。

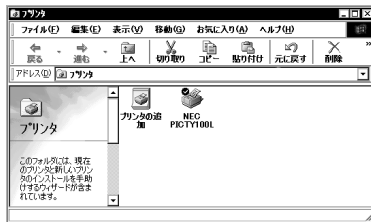
お知らせ

WindowsNT/2000のドメインを利用し、「ユーザレベルでアクセス制御する」を指定する場合は、ネットワーク管理者に共有の権限を確認してください。

step 7　プリンタの共有設定

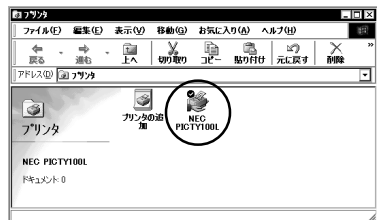
サーバーパソコンに接続しているプリンタをクライアントパソコンからも利用する場合、プリンタの共有設定を行います。

1. Windowsの[スタート]ボタンをクリックし、[設定]-[コントロールパネル]の[プリンタ]アイコンをダブルクリックする

現在登録されているプリンタが表示されます。

2. 共有するプリンタを右クリックし、ポップアップメニューから[共有]を選択する

メニューの[ファイル]－[共有]を選択しても同じです。

3. [共有する]を選択し、[OK]ボタンをクリックする

プリンタアイコンに手のマークが付きます。

3.2 クライアントパソコンがWindowsMe/98/95の場合の設定

サーバーパソコンがWindowsMe/98/95のとき、クライアントパソコン側にもWindowsMe/98/95を使う場合は、以下の順に設定します。クライアントパソコンがWindows2000のときは「3.4クライアントパソコンがWindows2000の場合の設定」(☞4-27ページ)に進んでください。

Step1　NetBEUIプロトコルをインストールする

Step2　コンピュータ名とワークグループ名を設定する

Step3　ダイヤルアップネットワークの接続先を作成する

お願い

- お使いの環境によっては、これからインストールするネットワーク関係のモジュールがすでにインストールされていることがあります。その場合、新たにインストールを行う必要はありません。
- Windowsの種類による違いや標準以外のモジュールがインストールされていたり、バージョンアップを行った場合など、以後で説明する画面とは異なる画面が表示されることがあります。その場合は、実際の画面に従って作業を行ってください。
- Microsoftネットワーク共有サービスがインストールされていると、うまく接続できない場合があります。この場合、Microsoftネットワーク共有サービスを削除するか、以下の設定を行ってください。

1)[コントロールパネル]の[ネットワーク]アイコンをダブルクリックする

2)[ネットワークの設定]タブをクリックする

3)[ネットワークの設定]タブで[Microsoftネットワーク共有サービス]を選択し、[プロパティ]ボタンをクリックする

4)[プロパティ]から「LMアナウンス」を選択し、[値]に「いいえ」を選択する

5)[プロパティ]から「ブラウズマスタ」を選択し、[値]に「自動」を選択する

6)[OK]ボタンをクリックする

step 1　NetBEUIプロトコルをインストールする

クライアント側にもNetBEUIをインストールします。

1. [コントロールパネル]の[ネットワーク]アイコンをダブルクリックする

2. [ネットワークの設定]タブをクリックする

3. [追加]ボタンをクリックする

4. 「プロトコル」を選択し、[追加]ボタンをクリックする

5. [製造元]から「Microsoft」を、[ネットワークプロトコル]から「NetBEUI」を選択し、[OK]ボタンをクリックする

6. [NetBEUI]がインストールされていることを確認する

インストールされると、[現在のネットワークコンポーネント]に[NetBEUI]が追加されます。

お知らせ

手順6の画面で[現在のネットワークコンポーネント]に[Microsoftネットワークコンポーネント]が表示されていない場合、下記の通りにインストールします。

1)手順6の画面で[追加]ボタンをクリックする

2)手順4の画面で「クライアント」を選択し、[追加]ボタンをクリックする

3)手順5の画面で[製造元]から「Microsoft」を、[ネットワーククライアント]から「Microsoftネットワーククライアント」を選択し、[OK]ボタンをクリックする

4)手順6の画面で[現在のネットワークコンポーネント]に[Microsoftネットワークコンポーネント]が追加されていることを確認する

step 2　コンピュータ名とワークグループ名を設定する

コンピュータ名とワークグループ名を設定します。

1.　[識別情報]タブをクリックする

2.　コンピュータ名・ワークグループ名を入力する

コンピュータ名には適当な名前を指定します。ほかのパソコンの名前と重ならないようにしてください。ワークグループ名は、サーバー側(ネットワークで共通の名前)と同じ名前にします。

3.　[OK]ボタンをクリックする

ファイルのコピーが行われます。
途中で、Windowsのセットアップメッセージが表示されたら、WindowsのCD-ROMをドライブにセットしてください。

4.　再起動メッセージが表示されたら、[再起動]ボタンをクリックする

お願い

- コンピュータ名は半角英数字15文字以内で指定します。スペースを入れることはできません。
- コンピュータ名にほかのパソコンと同じ名前を付けるとUSBネットワークを利用できなくなります。
- ワークグループ名は、半角英数字15文字以内で指定します。スペースを入れることはできません。サーバーパソコンとクライアントパソコンに同じ名前を設定します。ワークグループ名が違うと、USBネットワークを利用できなくなります。
- 再起動を行わないと、モジュールのインストールや設定が完了せず、パソコンが不安定な状態になります。この状態で作業を続けると、動作がおかしくなったり、停止してしまうことがあります。必ずここでパソコンを再起動してください。

step 3 ダイヤルアップネットワークの接続先を作成する

サーバーパソコンに接続するために、ダイヤルアップネットワークの新しい接続先を作成します。特殊な電話番号を使うことで、Atermは外部への接続とUSBネットワーク用の接続を区別します。

1. [ダイヤルアップネットワーク]フォルダを開く

WindowsMeの場合は、Windowsの[スタート]ボタンをクリックし、[設定]－[ダイヤルアップネットワーク]を選択してください。
Windows/98/95の場合は、マイコンピュータ内の[ダイヤルアップネットワーク]アイコンをダブルクリックします。

2. [新しい接続]アイコンをダブルクリックする

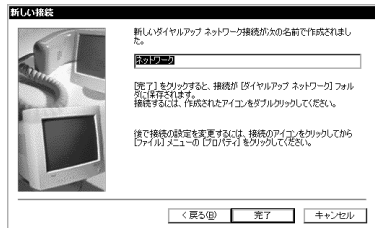
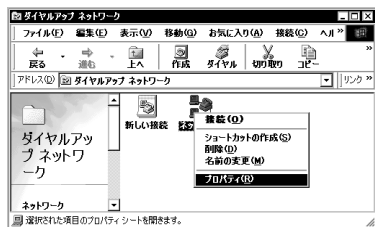
3. 適当な接続名を入力し、[モデムの選択]から「AtermIT SYNC115」を選択し、[次へ]ボタンをクリックする

4. 現在地の市外局番、下記の電話番号、国番号を入力し、[次へ]ボタンをクリックする

サーバーパソコンがUSBポート接続の場合　：00
サーバーパソコンがシリアルポート接続の場合：02

5. [完了]ボタンをクリックする

6. 作成されたダイヤルアップアイコンを右クリックし、ポップアップメニューの[プロパティ]を選択する

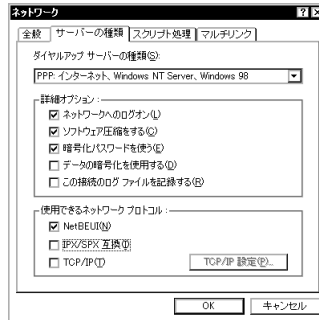
お願い

手順4で設定する市外局番や国番号は、[コントロールパネル]の[モデム]の[ダイヤルのプロパティ]ボタンをクリックして設定する所在地情報と一致させてください。

7. [ネットワークへのログオン]、[ソフトウェア圧縮をする]、[暗号化パスワードを使う]と、使用できるネットワークプロトコルを選択する

1)WindowsMeの場合

[ネットワーク]タブをクリックし、詳細オプションから[ソフトウェア圧縮をする]をチェックします。また、使用できるネットワークプロトコルから[NetBEUI]だけをチェックします。
さらに、[セキュリティ]タブをクリックし、詳細セキュリティオプションから[ネットワークへのログオン]、[暗号化パスワードを使う]の2つだけをチェックします。

2)Windows98/95の場合

[サーバーの種類]タブをクリックし、詳細オプションから[ネットワークへのログオン]、[ソフトウェア圧縮をする]、[暗号化パスワードを使う]の3つだけをチェックします。
また、使用できるネットワークプロトコルから[NetBEUI]だけをチェックします。

（画面はWindows95の例）

8. [全般]ダブをクリックし、[市外局番とダイヤルのプロパティを使う]のチェックをはずす

9. [OK]ボタンをクリックする

お知らせ

手順7を行うとき、お客様のパソコンの環境によっては、「NetBEUIプロトコル」をチェックしているだけではうまく接続できないことがあります。このような場合には、TCP/IPにもチェックをして試してください。

3.3 WindowsMe/98/95⟷WindowsMe/98/95構成のUSBネットワークの使いかた

設定が完了したら、USBネットワークを使ってみましょう。

step 1 USBネットワークを開始する

USBネットワーク機能を使うには、クライアントパソコンからダイヤルアップでサーバーパソコンに接続します。基本的な接続手順はインターネットプロバイダなどに接続する場合と同じです。

1. [ダイヤルアップネットワーク]フォルダを開く

WindowsMeの場合は、Windowsの[スタート]ボタンをクリックし、[設定]－[ダイヤルアップネットワーク]を選択してください。
Windows98/95の場合は、マイコンピュータ内の[ダイヤルアップネットワーク]アイコンをダブルクリックします。

2. USBネットワーク接続用のダイヤルアップアイコンをダブルクリックする

3.2項(☞4-21ページ)で作成したダイヤルアップアイコンをダブルクリックします。

3. ユーザー名と、パスワードを入力し、[接続]ボタンをクリックする

パスワードは、サーバーパソコンのダイヤルアップサーバーで登録したパスワードを入力します。(☞4-14ページ)
電話番号が「00」・「02」のいずれかになっていることを確認してください。
「00」はUSBポート、「02」はシリアルポートにそれぞれ接続されているサーバーへの発信になります。

接続されると、タスクバーに[ダイヤルアップ]のインジケータが表示されます。

(Windows98/95のインジケータ例)

- WindowsMe/98/95では、クライアントパソコンからの接続／切断のみが可能です。
- 電話番号に市外局番も含まれているときは、以下のどちらかの対処を行ってください。
  - ● 電話番号を修正して「00」・「02」のみとしてください。ただし、この方法は接続のたびに修正する必要があります。
  - ● [コントロールパネル]の[モデム]で、[ダイヤルのプロパティ]ボタンをクリックし、現在地の市外局番を正しく設定してください。

step 2　共有フォルダを使う

ダイヤルアップネットワークでの接続後、デスクトップにあるネットワークパソコンを開くと、サーバーパソコンのアイコンが表示されます。
サーバーパソコンのアイコンを開くと、共有フォルダが表示され、中のファイルを利用できます。

1. WindowsMeの場合は[マイネットワーク]アイコンを、Windows98/95は[ネットワークコンピュータ]アイコンをそれぞれダブルクリックする

2. サーバーアイコンをダブルクリックする

共有フォルダやファイル、共有プリンタが見え、利用できるようになります。
このフォルダを開き、ファイルをクライアント側に取り出したり、クライアント側で作成したファイルをフォルダにコピーすることができます。
なお、サーバーパソコンでフォルダにパスワードを設定している場合（☞4-16ページ）は、フォルダを開く際にパスワードの入力が必要です。

？こんなときは・・・・・

[ネットワークコンピュータ]（WindowsMeの場合は[マイネットワーク]）を開いてもサーバーパソコンのアイコンが表示されない場合、しばらく待つか、メニューの[表示]－[最新の情報に更新]を選択してください。それでも表示されない場合、[スタート]ボタンをクリックし、メニューから[検索]－[ほかのコンピュータ]（WindowsMeの場合は[検索]－[ファイルやフォルダ]－[ほかの項目を検索]－[コンピュータ]）を選択して、サーバーパソコンに登録したコンピュータ名を[名前]欄に入力してください。

step 3 共有プリンタを使う

接続後サーバー側で共有設定されたプリンタを使用できるようになります。最初に使用するときは、以下の手順でネットワークプリンタを設定します。

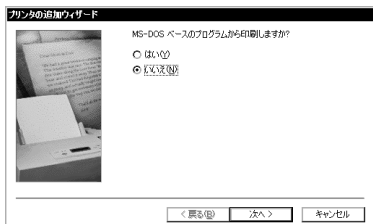
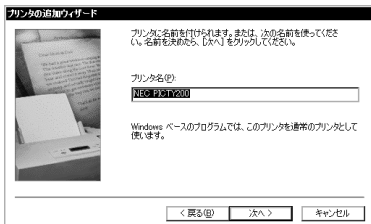
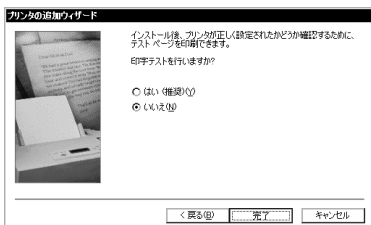
1. [ネットワークコンピュータ]アイコンをダブルクリックする

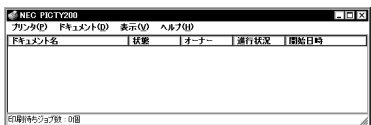
2. サーバーパソコンのアイコンをダブルクリックする

サーバー側で共有設定されたフォルダやプリンタが表示されます。

3. プリンタアイコンをダブルクリックする

4. [はい]ボタンをクリックする

5. 通常は[いいえ]を選択し、[次へ]ボタンをクリックする

6. 必要ならプリンタ名を変更し、[次へ]ボタンをクリックする

7. [いいえ]を選択し、[完了]ボタンをクリックする

ファイルがコピーされ、プリンタウィンドウが開きます。

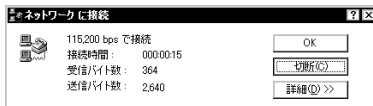
8. [X] ボタンをクリックして閉じる

登録したプリンタは、ローカルプリンタと同様に使うことができます。

お知らせ・・・・・・・

利用するプリンタのプリンタドライバが必要になることがあります。

step 4　ネットワークを切断する

ダイヤルアップ接続を切断すると、USBネットワークが終了します。

1. タスクバーの[ダイヤルアップ]インジケータをダブルクリックする

（ダイヤルアップネットワークインジケータはWindows98/95の例）

2. [切断]ボタンをクリックする

3.4 クライアントパソコンがWindows2000の場合の設定

クライアントパソコンは以下の順番で設定します。

Step1　ワークグループ名を設定する

Step2　ダイヤルアップの接続先を作成する

Windows2000では、ウィザードを使って、以下のネットワークコンポーネントのインストールや設定、ダイヤルアップ接続させるための設定を一度に行います。

・Microsoftネットワーク用クライアント
・NetBEUIプロトコル

お願い

- Windows2000で以降の設定を行うためには、Administrator（権限のあるアカウント）でログオンする必要があります。
- 標準以外のモジュールがインストールされていたり、バージョンアップを行った場合など、以降で説明する画面とは異なる画面が表示されることがあります。その場合は、実際の画面に従って作業を行ってください。

step 1　ワークグループ名を設定する

サーバーパソコンと同じワークグループ名を設定します。
パソコン名はサーバーパソコンと同じにならないようにしてください。

1. Windowsの[スタート]ボタンをクリックし、[設定]-[コントロールパネル]の[システム]アイコンをダブルクリックする

2. [ネットワークID]タブをクリックし、[プロパティ]ボタンをクリックする

3. ワークグループを入力し、[OK]ボタンをクリックする

ワークグループにサーバーと同じワークグループ名を入力します。

4. 次の画面が表示されたら[OK]ボタンをクリックする

5. [OK]ボタンをクリックする

6. [OK]ボタンをクリックする

7. [はい]ボタンをクリックしてWindows2000を再起動する

step 2 ダイヤルアップの接続先を作成する

USBネットワークのサーバーに接続するためのダイヤルアップ接続を作成します。

お願い

以降の操作を行う前に、必ずAtermのモデム情報をインストールしておいてください。
「モデム情報をインストールする」(☞1-25ページ)

1. Windowsの[スタート]ボタンをクリックし[設定]－[コントロールパネル]の[ネットワークとダイヤルアップ接続]アイコンをダブルクリックする

2. [新しい接続の作成]アイコンをダブルクリックする

3. ネットワークの接続ウィザードが開始されたら、[次へ]ボタンをクリックする

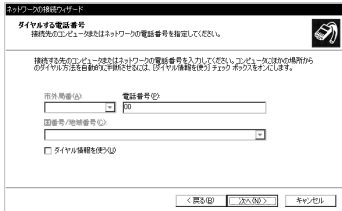
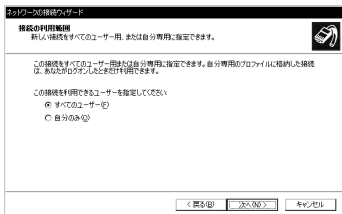
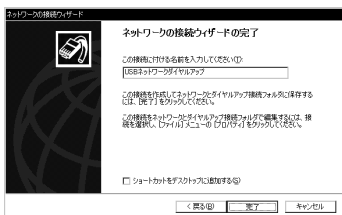
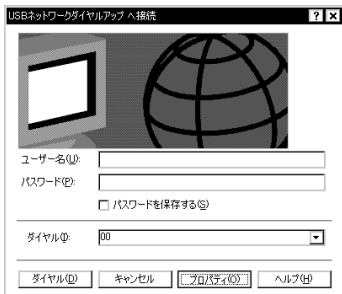
4. ネットワーク接続の種類から[プライベートネットワークにダイヤルアップ接続する]を選択し、[次へ]ボタンをクリックする

5. クライアントパソコン(ここではWindows2000)の接続方法に応じたAtermのモデム情報(シリアルポート接続の場合は[AtermIT 128K Support Series]、USBポート接続の場合は[AtermIT 128K Support Series for USB])をチェックし、[次へ]ボタンをクリックする

モデムを1つしか登録していない場合、この画面は表示されません。次に進んでください。

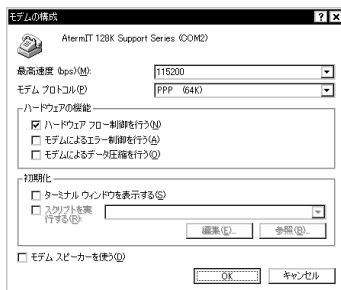
6. 次の電話番号を入力し、[次へ]ボタンをクリックする

サーバーパソコンの接続ポートによって電話番号が決まります。

サーバーパソコンがUSBポート接続の場合　：00
サーバーパソコンがシリアルポート接続の場合：02

7. 利用するユーザーを選択し、[次へ]ボタンをクリックする

8. USBネットワークなどの名前を入力し、[完了]ボタンをクリックする

9. 接続画面が表示されたら[プロパティ]ボタンをクリックする

10. [全般]タブで接続の方法に、手順5で選択したモデム情報が表示されていることを確認して、[構成]ボタンをクリックする

複数のモデム情報がある場合は、選択した方にチェックが入っていることを確認します。

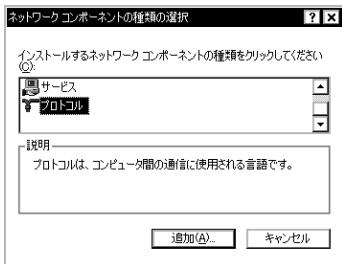
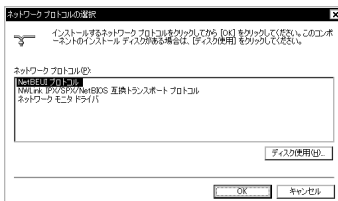
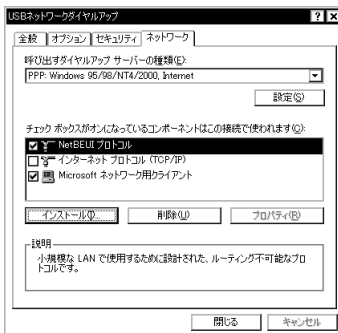
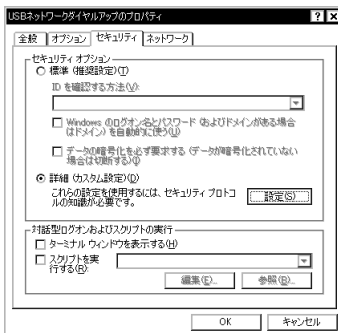
11. モデムプロトコルとハードウェアの機能を選択する

1)モデムプロトコルに[PPP(64K)]を選択する
2)[モデムによるエラー制御を行う]、[モデムによるデータ圧縮を行う]のチェックをはずす
3)[OK]ボタンをクリックする

12.[ネットワーク]タブをクリックし、TCP/IPのチェックをはずす

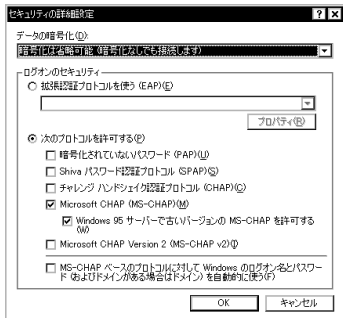
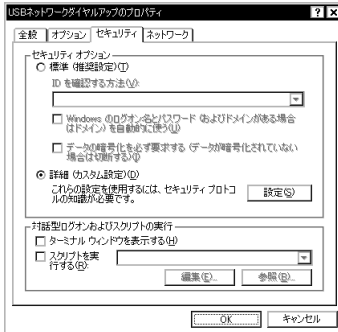
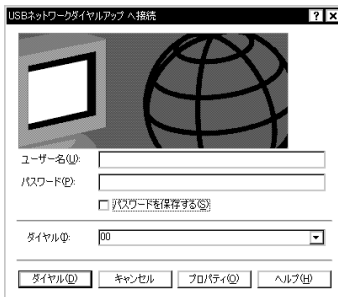
コンポーネントの一覧の[インターネットプロトコル(TCP/IP)]のチェックをはずします。

13.[インストール]ボタンをクリックする

NetBEUIプロトコルの追加インストールを行います。

14.[プロトコル]を選択し、[追加]ボタンをクリックする

15.[NetBEUIプロトコル]を選択し、[OK]ボタンをクリックする

16. [NetBEUIプロトコル]が追加されていることを確認し、[閉じる]ボタンをクリックする

17.セキュリティオプションから[詳細(カスタム設定)]を選択し、[設定]ボタンをクリックする

お知らせ・・・・・・・

手順12を行うとき、お客様のパソコンの環境によっては、「NetBEUIプロトコル」をチェックしているだけではうまく接続できないことがあります。このような場合には、TCP/IPにもチェックをして試してください。

18.[次のプロトコルを許可する]を選択し、[Microsoft CHAP(MS-CHAP)]と[Windows95サーバーで古いバージョンのMS-CHAPを許可する]をチェックし、[OK]ボタンをクリックする

19.[OK]ボタンをクリックする

20. [キャンセル]ボタンをクリックする

3.5 WindowsMe/98/95 ⟷ Windows2000 構成のUSBネットワークの使いかた

設定が完了したら、USBネットワークを使ってみましょう。

step 1 USBネットワークを開始する

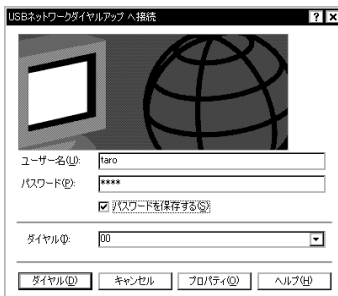
USBネットワーク機能を使うには、クライアントパソコンからダイヤルアップで、サーバーパソコンに接続します。基本的な接続手順はインターネットプロバイダなどに接続する場合と同じです。

1. Windows2000の[スタート]ボタンをクリックし、[設定]－[コントロールパネル]の[ネットワークとダイヤルアップ接続]アイコンをダブルクリックする

2. 作成したダイヤルアップアイコンをダブルクリックする

例ではUSBネットワークダイヤルアップをダブルクリックします。

3. ユーザー名とパスワードを入力し、[ダイヤル]ボタンをクリックする

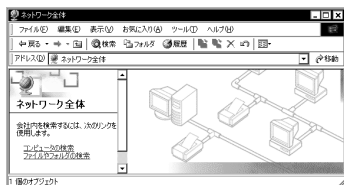
パスワードはサーバーパソコンのダイヤルアップサーバーで登録したものを入力します。
電話番号が次のようになっていることを確認してください。
「00」はUSBポート、「02」はシリアルポートに接続されているサーバーへの発信となります。

4. 接続される

タスクバーに[ダイヤルアップインジケーター]が表示されます。

step 2 共有フォルダを使う

接続後、クライアントパソコンからサーバーパソコンを検索して開くと、共有フォルダを利用できます。

1. デスクトップの[マイネットワーク]アイコンをダブルクリックする

2. [ネットワーク全体]アイコンをダブルクリックする

3. [コンピュータの検索]をクリックする

4. サーバーパソコンのコンピュータ名を入力し、[検索開始]ボタンをクリックする

5. サーバーが検索されたら、パソコンのアイコンをクリックする

6. 共有フォルダや共有プリンタを確認する

7. フォルダをダブルクリックする

中のフォルダが見えます。デスクトップ上にコピーしたり、クライアント側で作成したファイルやフォルダをここにコピーすることができます。

step 3　共有プリンタを使う

接続後、サーバーパソコンを検索して開くと、共有プリンタのアイコンが見えます。最初に使用するときは、以下の手順でプリンタをネットワークプリンタとしてインストールします。

1. 「Step 2 共有フォルダを使う」の手順1～6を行う

2. 共有プリンタのアイコンをダブルクリックする

3. [はい]ボタンをクリックする

4. [X]ボタンをクリックして閉じる

登録したプリンタは、ローカルプリンタと同様に使うことができます。

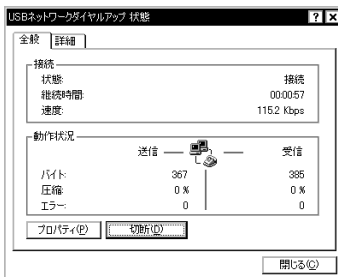
お知らせ・・・・・・・

WindowsのCD-ROMや利用するプリンタドライバのディスクが必要になることがあります。

step 4　ネットワークを切断する

ダイヤルアップ接続を切断すると、USBネットワークが終了します。
サーバーパソコン、クライアントパソコンのどちらからでも切断できます。

1. タスクバーの[ダイヤルアップインジケーター]をダブルクリックする

2. [切断]ボタンをクリックする

（クライアントパソコンの例）

4 サーバーパソコンがWindows2000の場合

4.1 サーバーパソコンの設定

サーバーパソコンは以下の順番で設定します。

Step1　着信接続を作成する

Windows2000では、ウィザードを使って、以下のネットワークコンポーネントのインストールや設定、ダイヤルアップ接続させるための設定、ユーザ登録などを一度に行います。

・Microsoftネットワーク用ファイルとプリンタ共有
・NetBEUIプロトコル

Step2　ワークグループ名を設定する

Step3　フォルダの共有設定

Step4　プリンタの共有設定

クライアントに公開するファイルやプリンタに共有設定を行います。共有設定をしていないファイルやプリンタは、クライアントからは利用できません(見えません)。

お願い

- Windows2000で以降の設定を行うためには、Administrator(権限のあるアカウント)でログオンする必要があります。
- 標準以外のモジュールが組み込まれていたり、バージョンアップを行った場合など、以降で説明する画面とは異なる画面が表示されることがあります。その場合は、実際の画面に従って作業を行ってください。

step 1　着信接続を作成する

サーバーパソコンにダイヤルアップ接続させるための設定を行います。
Windows2000ではダイヤルアップサーバー機能を、着信接続と呼びます。

お願い

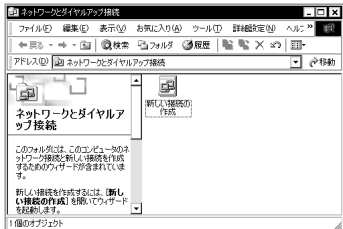
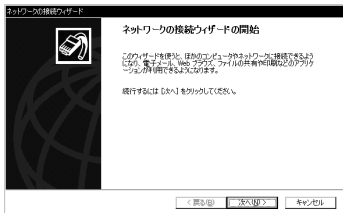
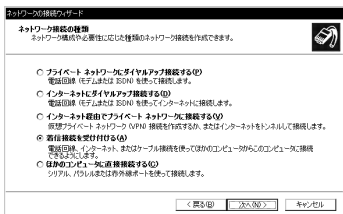
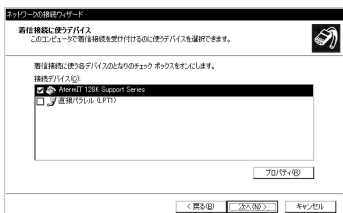
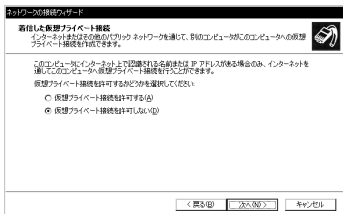
以降の操作を行う前に、必ずAtermのモデム情報をインストールしておいてください。「モデム情報をインストールする」(☞1-25ページ)

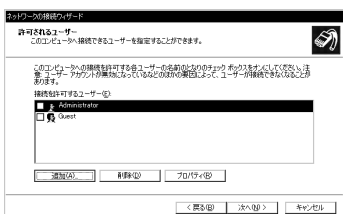
お知らせ

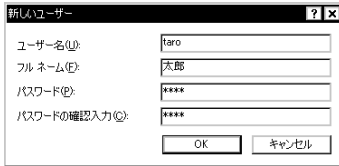
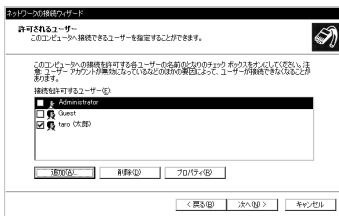
本操作を行っても接続できない場合は、以下の設定を行うと接続できるようになります。ただし、セキュリティに問題がありますのでご注意ください。

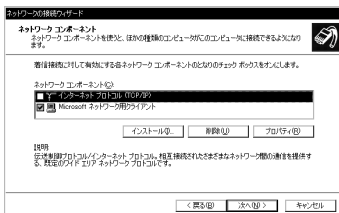
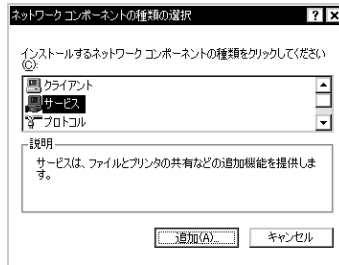
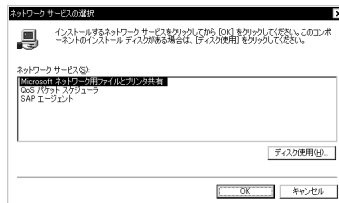
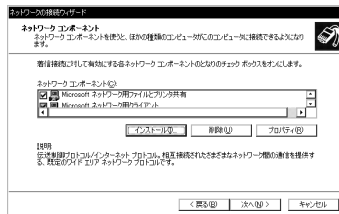
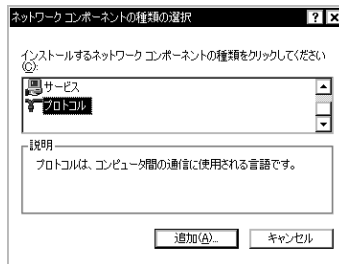
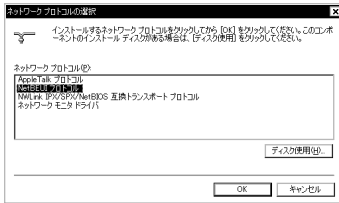
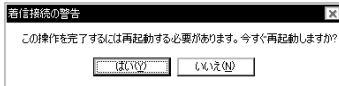
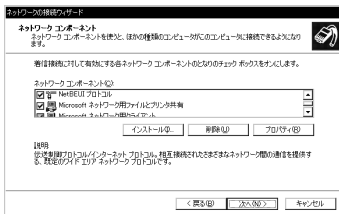
1）[コントロールパネル]ー[管理ツール]ー[コンピュータの管理]をダブルクリックする
2）[システムツール]ー[ローカルユーザーとグループ]ー[ユーザー]をクリックする
3）[Guest]を選択し、プロパティを開く
4）[全般]タブを選択し、[アカウントを無効にする]のチェックボックスをはずす

1. **Windowsの[スタート]ボタンをクリックし、[設定]－[コントロールパネル]の[ネットワークとダイヤルアップ接続]アイコンをダブルクリックする**

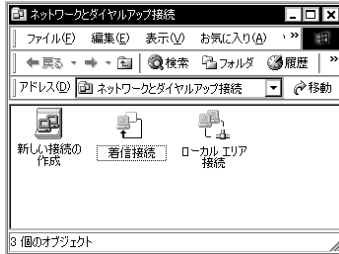
2. **[新しい接続の作成]アイコンをダブルクリックする**

3. **ネットワークの接続ウィザードが開始されたら、[次へ]ボタンをクリックする**

4. **ネットワーク接続の種類から[着信接続を受け付ける]を選択し、[次へ]ボタンをクリックする**

5. **接続デバイスから、接続しているポートに対応したAtermのモデム情報(シリアルポート接続の場合は[AtermIT 128K Support Series]、USB接続の場合は[AtermIT 128K Support Series for USB])をチェックし、[次へ]ボタンをクリックする**

6. **[仮想プライベート接続を許可しない]を選択し、[次へ]ボタンをクリックする**

7. **[追加]ボタンをクリックする**

着信させたいユーザー名が表示されている場合はチェックして手順9へ進んでください。

8. ユーザー名とパスワードを入力し、[OK]ボタンをクリックする

パスワードの確認入力には、パスワードと同じものを入力してください。
ここで設定したユーザー名とパスワードを、クライアントパソコンからのダイヤルアップ接続時に指定します。

9. すべてのユーザーを追加したら[次へ]ボタンをクリックする

10.現在のネットワークコンポーネントを確認し、足りないときは[インストール]ボタンをクリックする(すべてそろっているときは手順17へ進む)

以下のネットワークコンポーネントにチェックが入った状態にします。不足のものはインストールします。
[NetBEUIプロトコル]
[Microsoftネットワーク用クライアント]
[Microsoftネットワーク用ファイルとプリンタ共有]
ここでは、[Microsoftネットワーク用ファイルとプリンタ共有]と[NetBEUIプロトコル]をインストールします。

11.[サービス]を選択し、[追加]ボタンをクリックする

12.ネットワークサービスから[Microsoftネットワーク用ファイルとプリンタ共有]を選択し、[OK]ボタンをクリックする

13.もう一度[インストール]ボタンをクリックする

14.[プロトコル]を選択し、[追加]ボタンをクリックする

15.[NetBEUIプロトコル]を選択し、[OK]ボタンをクリックする

16.再起動のメッセージが出ても、[いいえ]ボタンをクリックする

17.必要なコンポーネントがそろったら[次へ]ボタンをクリックする

18. [完了]ボタンをクリックする

19.Windowsを再起動する

20.再起動後、[コントロールパネル]から[ネットワークとダイヤルアップ接続]アイコンをダブルクリックする

21.作成した「着信接続」ダイヤルアップ接続アイコンをダブルクリックする

22.[全般]タブで[AtermIT 128K Support Series](シリアルポート接続の場合)または[AtermIT 128K Support Series for USB](USBポート接続の場合)を選択し、[プロパティ]ボタンをクリックする

23.データプロトコルが[AUTO (1Ch)]となっていることを確認し、[OK]ボタンをクリックする

１２８kで着信させたい場合は[ＰＰＰ(128K)]を選択してください。

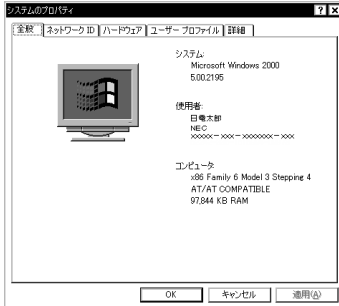
24.[OK]ボタンをクリックする

お知らせ

- 着信接続アイコンが作成されたときから、AtermのReadyランプが点灯します。Readyランプを消灯させるには、着信接続アイコンを削除するか、着信接続アイコンのプロパティの[全般]タブで[AtermIT 128K Support Series](シリアルポート接続の場合)または[AtermIT 128K Support Series for USB](USBポート接続の場合)のチェックをはずしてください。
- USBネットワーク用に着信接続を作成した場合でも、Atermのデータポートに着信があり、Atermが着信可能な設定になっていると、外部からの接続が行われてしまいます。パスワードが一致しないと接続できませんが、セキュリティ上、INSネット64側から接続されたくない場合はデータポートへの着信を禁止する必要があります。
  らくらくアシスタント画面の[INS回線の電話番号の設定]をクリックして、着信するポート(シリアルまたはUSB)のチェックをはずします。

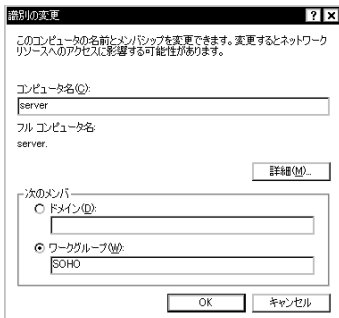
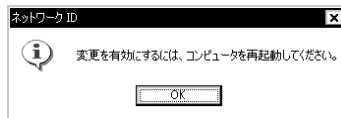
step 2 ワークグループ名を設定する

クライアントパソコンでサーバーパソコンと同じワークグループ名を指定する必要があるため、サーバーパソコンのワークグループ名を設定します。

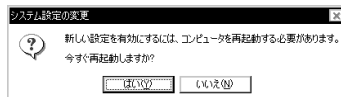
1. [コントロールパネル]の[システム]アイコンをダブルクリックする

2. [ネットワークID]タブをクリックし、[プロパティ]ボタンをクリックする

3. ワークグループを入力し、[OK]ボタンをクリックする

ワークグループにサーバーと同じワークグループ名を入力します。

4. 次の画面が表示されたら[OK]ボタンをクリックする

5. [OK]ボタンをクリックする

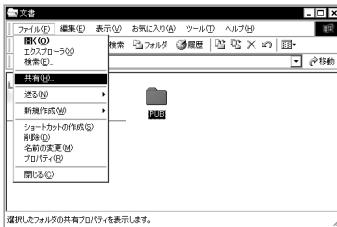
6. [OK]ボタンをクリックする

7. [はい]ボタンをクリックしてWindows2000を再起動する

step 3 フォルダの共有設定

ファイルの共有を行うためには、サーバーパソコンで共有の設定を行います。共有設定では、クライアントから見える名前(共有名またはシェア名といいます)を付けたり、アクセスさせるユーザーやその権利などを設定します。共有を設定する単位は、ドライブまたはフォルダです。

1. Windowsの[スタート]ボタンをクリックし、[プログラム]－[アクセサリ]からエクスプローラを開いて共有させるフォルダを右クリックし、メニューから[ファイル]－[共有]を選択する

2. フォルダを共有する場合は、[このフォルダを共有する]を選択し、[OK]ボタンをクリックする
ドライブを共有する場合は、[このフォルダを共有する]を選択し、[新しい共有]ボタンをクリックする
新しい共有画面で共有名を入力し(任意でかまいません)[OK]ボタンをクリック、さらに[OK]ボタンをクリックする。

3. 設定したフォルダやドライブに手のマークがつきます。

お知らせ

- ドライブに対して共有設定をすると、クライアントパソコンからサーバーパソコンのディスクをそのまま利用できるので、使いやすくなります。ただし、クライアント側のアプリケーションから直接サーバーパソコンのファイルにアクセスするように設定した場合、サーバーパソコン側でハードディスク内のフォルダの位置を変えたり、別のドライブへ移動させたときに、クライアント側のアプリケーションの設定も変更しなければならないことがあります。
  フォルダ単位で共有設定する場合は、クライアントから見える共有名はハードディスク上のフォルダ構成の影響を受けません。
- WindowsNT/2000のドメインを利用し、「ユーザレベルでアクセス制御する」を指定する場合は、ネットワーク管理者に共有の権限を確認してください。

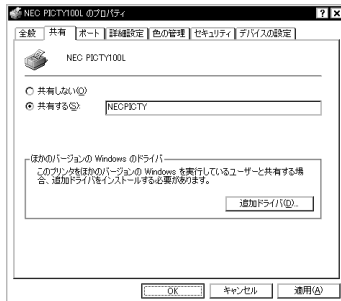
step 4 プリンタの共有設定

サーバーパソコンに接続してあるプリンタをクライアントパソコンからも利用する場合、プリンタの共有設定を行います。

1. Windowsの[スタート]ボタンをクリックし、[設定]－[コントロールパネル]の[プリンタ]アイコンをダブルクリックする

現在登録されているプリンタが表示されます。

2. 共有するプリンタアイコンを選択し、メニューから[ファイル]－[共有]を選択する

3. [共有]タブで[共有する]を選択し、[OK]ボタンをクリックする

4. プリンタアイコンに手のマークが付きます。

4.2 クライアントパソコンがWindowsMe/98/95の場合の設定

クライアントパソコンとしてWindowsMe/98/95を使う場合は以下の順番で設定します。

Step1 NetBEUIプロトコルをインストールする

Step2 コンピュータ名とワークグループ名を設定する

Step3 ダイヤルアップネットワークの接続先を作成する

お願い

- お使いの環境によっては、これからインストールするネットワーク関係のモジュールがすでにインストールされていることがあります。その場合、新たにインストールを行う必要はありません。
- Windowsの種類による違いや標準以外のモジュールがインストールされていたり、バージョンアップを行った場合など、以後で説明する画面とは異なる画面が表示されることがあります。その場合は、実際の画面に従って作業を行ってください。
- Microsoftネットワーク共有サービスがインストールされていると、うまく接続できない場合があります。この場合、Microsoftネットワーク共有サービスを削除するか、以下の設定を行ってください。

1）[コントロールパネル]の[ネットワーク]アイコンをダブルクリックする

2）[ネットワークの設定]タブをクリックする

3）[ネットワークの設定]タブで[Microsoftネットワーク共有サービス]を選択し、[プロパティ]ボタンをクリックする

4）[プロパティ]から「LMアナウンス」を選択し、[値]に「いいえ」を選択する

5）[プロパティ]から「ブラウズマスタ」を選択し、[値]に「自動」を選択する

6）[OK]ボタンをクリックする

step 1 NetBEUI プロトコルをインストールする

クライアント側にもNetBEUIをインストールします。

1. [コントロールパネル]の[ネットワーク]アイコンをダブルクリックする

2. [ネットワークの設定]タブをクリックする

3. [追加]ボタンをクリックする

4. 「プロトコル」を選択し、[追加]ボタンをクリックする

5. [製造元]から「Microsoft」を、[ネットワークプロトコル]から「NetBEUI」を選択し、[OK]ボタンをクリックする

6. [NetBEUI]がインストールされていることを確認する

インストールされると、[現在のネットワークコンポーネント]に[NetBEUI]が追加されます。

お知らせ

- 手順6の画面で[現在のネットワークコンポーネント]に[Microsoftネットワークコンポーネント]が表示されていない場合、下記の通りにインストールします。

  1）手順6の画面で[追加]ボタンをクリックする

  2）手順4の画面で「クライアント」を選択し、[追加]ボタンをクリックする

  3）手順5の画面で[製造元]から「Microsoft」を、[ネットワーククライアント]から「Microsoftネットワーククライアント」を選択し、[OK]ボタンをクリックする

  4）手順6の画面で[現在のネットワークコンポーネント]に[Microsoftネットワークコンポーネント]が追加されていることを確認する

step 2 コンピュータ名とワークグループ名を設定する

コンピュータ名とワークグループ名を設定します。

1. [識別情報]タブをクリックする

2. コンピュータ名・ワークグループ名を入力する

コンピュータ名には適当な名前を指定します。ほかのパソコンの名前と重ならないようにしてください。ワークグループ名は、サーバー側(ネットワークで共通の名前)と同じ名前にします。

3. [OK]ボタンをクリックする

ファイルのコピーが行われます。
途中で、Windowsのセットアップメッセージが表示されたら、WindowsのCD-ROMをドライブにセットしてください。

4. 再起動メッセージが表示されたら、[再起動]ボタンをクリックする

お願い

- コンピュータ名は半角英数字15文字以内で指定します。スペースを入れることはできません。
- ほかのパソコンと同じ名前を付けるとUSBネットワークを利用できなくなります。
- ワークグループ名は、半角英数字15文字以内で指定します。スペースを入れることはできません。サーバーパソコンとクライアントパソコンに同じ名前を設定します。ワークグループ名が違うと、USBネットワークを利用できなくなります。
- 再起動を行わないと、モジュールのインストールや設定が完了せず、パソコンが不安定な状態になります。この状態で作業を続けると、動作がおかしくなったり、停止してしまうことがあります。必ずここでパソコンを再起動してください。

step 3 ダイヤルアップネットワークの接続先を作成する

サーバーパソコンに接続するために、ダイヤルアップネットワークの新しい接続先を作成します。特殊な電話番号を使うことで、Atermは外部への接続とUSBネットワーク用の接続を区別します。

1. [ダイヤルアップネットワーク]フォルダを開く

WindowsMeの場合は、Windowsの[スタート]ボタンをクリックし、[設定]－[ダイヤルアップネットワーク]を選択してください。
Windows/98/95の場合は、マイコンピュータ内の[ダイヤルアップネットワーク]アイコンをダブルクリックします。

2. [新しい接続]アイコンをダブルクリックする

3. 適当な接続名を入力し、[モデムの選択]から「AtermIT SYNC115」を選択し、[次へ]ボタンをクリックする

4. 現在地の市外局番、下記電話番号、国番号を入力し、[次へ]ボタンをクリックする

サーバーパソコンがUSBポート接続の場合　：00
サーバーパソコンがシリアルポート接続の場合：02

5. [完了]ボタンをクリックする

6. 作成されたダイヤルアップアイコンを右クリックし、ポップアップメニューの[プロパティ]を選択する

お願い

手順4で設定する市外局番や国番号は、[コントロールパネル]の[モデム]の[ダイヤルのプロパティ]ボタンをクリックして設定する所在地情報と一致させてください。

7. [ネットワークへのログオン]、[ソフトウェア圧縮をする]、[暗号化パスワードを使う]と、使用できるネットワークプロトコルを選択する

1)WindowsMeの場合

[ネットワーク]タブをクリックし、詳細オプションから[ソフトウェア圧縮をする]をチェックします。また、使用できるネットワークプロトコルから[NetBEUI]だけをチェックします。
さらに[セキュリティ]タブをクリックし、詳細セキュリティオプションから[ネットワークのログオン]、[暗号化パスワードを使う]の2つだけをチェックします。

2)Windows98/95の場合

[サーバーの種類]タブをクリックし、詳細オプションから[ネットワークへのログオン]、[ソフトウェア圧縮をする]、[暗号化パスワードを使う]の3つだけをチェックします。
また、使用できるネットワークプロトコルから[NetBEUI]だけをチェックします。

(画面はWindows98/95の場合)

8. [全般]タブをクリックし、[市外局番とダイヤルのプロパティを使う]のチェックをはずす

9. [OK]ボタンをクリックする

お知らせ

手順7を行うとき、お客様のパソコンの環境によっては、「NetBEUIプロトコル」をチェックしているだけではうまく接続できないことがあります。このような場合には、TCP/IPにもチェックをして試してください。

4.3 Windows2000 ←→ WindowsMe/98/95 構成のUSBネットワークの使いかた

（サーバーパソコン）　（クライアントパソコン）

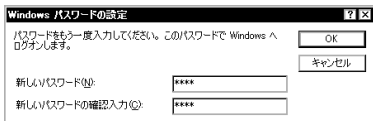
設定が完了したら、USBネットワークを使ってみましょう。

step 1 USBネットワークを開始する

USBネットワーク機能を使うには、サーバーパソコンに登録したユーザー名とパスワードでログオンしたあと、クライアントパソコンからダイヤルアップでサーバーパソコンに接続します。基本的な接続手順はインターネットプロバイダなどに接続する場合と同じです。

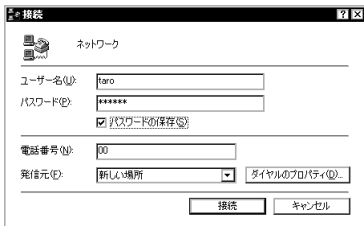
1. WindowsMe/98/95にログオンする

サーバーパソコンの着信接続で登録した（☞4-38ページ手順8）ユーザー名とパスワードを使ってWindowsMe/98/95にログオンします。ユーザー名とパスワードを入力し、[OK]ボタンをクリックします。

2. 初めて入力したユーザー名の場合、パスワードをもう一度入力する

3. USBネットワーク接続用のダイヤルアップアイコンをダブルクリックする

マイコンピュータ内（WindowsMeは[マイコンピュータ]-[コントロールパネル]）の[ダイヤルアップネットワーク]アイコンを開き、4-47ページstep3で作成したダイヤルアップアイコンをダブルクリックします。

4. ユーザー名と、パスワードを入力し、[接続]ボタンをクリックする

サーバーパソコンの着信接続で登録した（☞4-38ページ手順8）ユーザー名とパスワードを入力します。
電話番号が「00」・「02」のいずれかになっていることを確認してください。「00」はUSBポート、「02」はシリアルポートにそれぞれ接続されているサーバーへの発信になります。

接続されると、タスクバーに[ダイヤルアップ]のインジケータが表示されます。

（Windows98/95のインジケータ例）

お願い

電話番号に市外局番も含まれているときは、以下のどちらかの対処を行ってください。

- 電話番号を修正して「00」・「02」のみとしてください。ただし、この方法は接続のたびに修正する必要があります。
- ［コントロールパネル］の［モデム］で、［ダイヤルのプロパティ］ボタンをクリックし、現在地の市外局番を正しく設定してください。

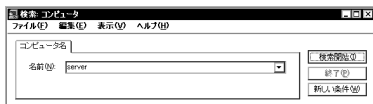
お知らせ

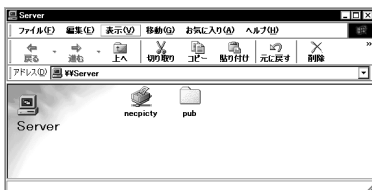
接続すると、サーバー側にもダイヤルアップインジケーターが表示されます。

step 2　共有フォルダを使う

接続後、クライアントパソコンから、サーバーパソコンを検索して開くと、共有フォルダを利用できます。

1.　［スタート］ボタンをクリックし、［検索］－［ほかのコンピュータ］を選択する

2.　サーバーパソコンのコンピュータ名を入力し、［検索開始］ボタンをクリックする

3.　サーバーが検索されたら、パソコンのアイコンをダブルクリックする

4.　共有フォルダや共有プリンタが見える

5.　フォルダをダブルクリックする

中のフォルダが見えます。デスクトップ上にコピーしたり、クライアント側で作成したファイルやフォルダをここにコピーすることができます。

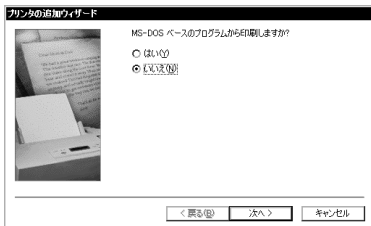
step 3 共有プリンタを使う

接続後、クライアントパソコンからサーバーパソコンを検索して開くと、共有プリンタのアイコンが見えます。最初に使用するときは、以下の手順でプリンタをネットワークプリンタとしてインストールします。

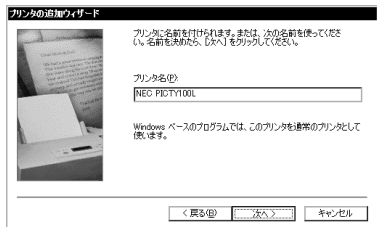
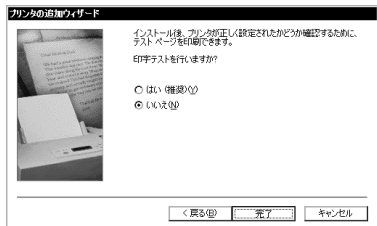
1. 「Step2　共有フォルダを使う」の手順1～4を行う

2. 共有プリンタのアイコンをダブルクリックする

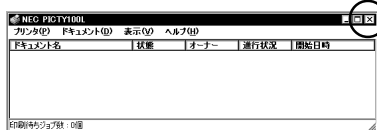
3. [はい]ボタンをクリックする

4. 通常は[いいえ]を選択し、[次へ]ボタンをクリックする

5. プリンタの製造元と機種名を選択し、[次へ]ボタンをクリックする

プリンタドライバのインストールディスクをお持ちの場合は、インストールディスクをセットし[ディスク使用]ボタンをクリックしてください。

6. 必要ならプリンタ名を変更し、[次へ]ボタンをクリックする

7. [いいえ]を選択し、[完了]ボタンをクリックする

8. 次の画面が表示されたときは、WindowsのCD-ROMをセットし、[OK]ボタンをクリックする

9. [×]ボタンをクリックして閉じる

必要なファイルがコピーされ、プリンタウィンドウが開きます。

登録したプリンタは、ローカルプリンタと同様に使うことができます。

お知らせ

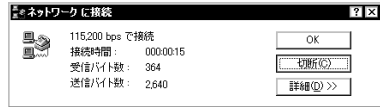
利用するプリンタのプリンタドライバが必要になることがあります。

step 4　ネットワークを切断する

ダイヤルアップ接続を切断すると、USBネットワークが終了します。サーバーパソコン、クライアントパソコンのどちらからでも切断できます。

1.　タスクバーの[ダイヤルアップ]インジケータをダブルクリックする

（Windows98/95のインジケータ例）

2.　[切断]ボタンをクリックする

（クライアントパソコンの例）

4.4 クライアントパソコンがWindows2000の場合の設定

クライアントパソコンは以下の順番で設定します。

Step1　ワークグループ名を設定する

Step2　ダイヤルアップの接続先を作成する
Windows2000では、ウィザードを使って、以下のネットワークコンポーネントのインストールや設定、ダイヤルアップ接続させるための設定を一度に行います。
・Microsoftネットワーク用クライアント
・NetBEUIプロトコル

お願い

- Windows2000で以降の設定を行うためには、Administrator（権限のあるアカウント）でログオンする必要があります。
- 標準以外のモジュールがインストールされていたり、バージョンアップを行った場合など、以降で説明する画面とは異なる画面が表示されることがあります。その場合は、実際の画面に従って作業を行ってください。

step 1　ワークグループ名を設定する

サーバーパソコンと同じワークグループ名を設定します。
パソコン名はサーバーパソコンと同じにならないようにしてください。

1. Windowsの[スタート]ボタンをクリックし、[設定]－[コントロールパネル]の[システム]アイコンをダブルクリックする

2. [ネットワークID]タブをクリックし、[プロパティ]ボタンをクリックする

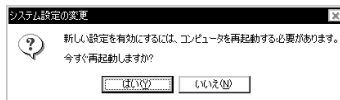
3. ワークグループを入力し、[OK]ボタンをクリックする

ワークグループにサーバーと同じワークグループ名を入力します。

4. 次の画面が表示されたら[OK]ボタンをクリックする

5. [OK]ボタンをクリックする

6. [OK]ボタンをクリックする

7. [OK]ボタンをクリックしてWindows2000を再起動する

step 2 ダイヤルアップの接続先を作成する

USBネットワークのサーバーに接続するためのダイヤルアップ接続を作成します。

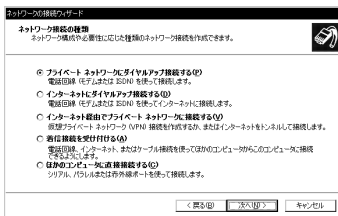
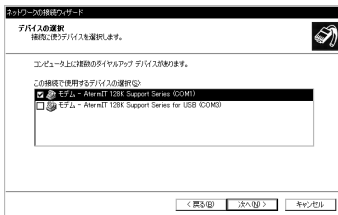
お願い

以降の操作を行う前に、必ずAtermのモデム情報をインストールしておいてください。
「モデム情報をインストールする」(☞1-25ページ)

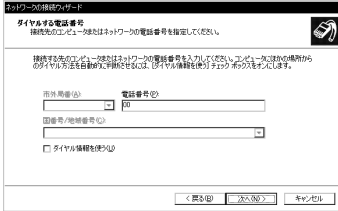
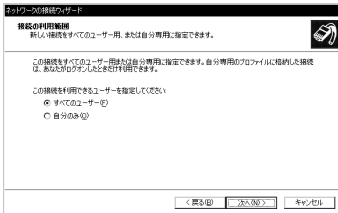
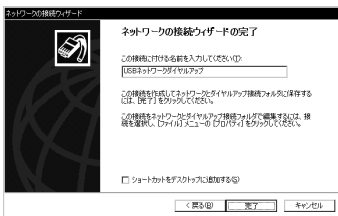
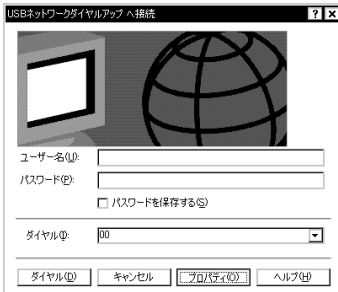
1. [コントロールパネル]の[ネットワークとダイヤルアップ接続]アイコンをダブルクリックする

2. [新しい接続の作成]アイコンをダブルクリックする

3. ネットワークの接続ウィザードが開始されたら、[次へ]ボタンをクリックする

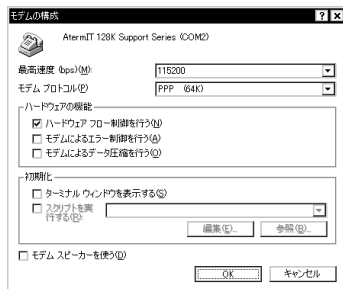
4. ネットワーク接続の種類から[プライベートネットワークにダイヤルアップ接続する]を選択し、[次へ]ボタンをクリックする

5. クライアントパソコン(ここではWindows2000)の接続方法に応じたAtermのモデム情報(シリアルポート接続の場合は[AtermIT 128K Support Series]、USBポート接続の場合は[AtermIT 128K Support Series for USB])をチェックし、[次へ]ボタンをクリックする

6. 次の電話番号を入力し、[次へ]ボタンをクリックする

サーバーパソコンの接続ポートによって電話番号が決まります。

サーバーパソコンがUSBポート接続の場合　：00
サーバーパソコンがシリアルポート接続の場合：02

7. 利用するユーザーを選択し、[次へ]ボタンをクリックする

8. USBネットワークなどの名前を入力し、[完了]ボタンをクリックする

9. 接続画面が表示されたら[プロパティ]ボタンをクリックする

10. [全般]タブで[構成]ボタンをクリックする

接続の方法に、手順5で選択したモデム情報が表示されていることを確認してください。複数のモデム情報がある場合は、選択した方にチェックが入っていることを確認します。

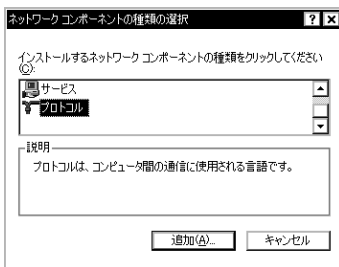
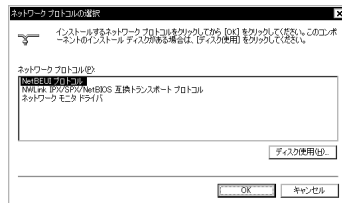
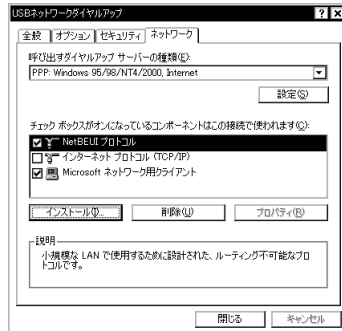
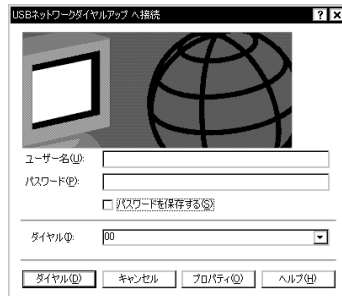
11. モデムプロトコルとハードウェアの機能を選択する

1)モデムプロトコルに[PPP(64K)]を選択する
2)[モデムによるエラー制御を行う]、[モデムによるデータ圧縮を行う]のチェックをはずす
3)[OK]ボタンをクリックする

12.[ネットワーク]タブをクリックし、TCP/IPのチェックをはずす

コンポーネントの一覧の[インターネットプロトコル(TCP/IP)]のチェックをはずします。

13.NetBEUIプロトコルがないときは[インストール]ボタンをクリックする(あるときは手順16へ進む)

NetBEUIプロトコルの追加インストールを行います。

14.[プロトコル]を選択し、[追加]ボタンをクリックする

15.[NetBEUIプロトコル]を選択し、[OK]ボタンをクリックする

16. NetBEUIプロトコルが追加されたら[閉じる]ボタンをクリックする

17. [キャンセル]ボタンをクリックする

お知らせ

手順12を行うとき、お客様のパソコンの環境によっては、「NetBEUIプロトコル」をチェックしているだけではうまく接続できないことがあります。このような場合には、TCP/IPにもチェックをして試してください。

4.5 Windows2000 ⟷ Windows2000 構成のUSBネットワークの使いかた
（サーバーパソコン）（クライアントパソコン）

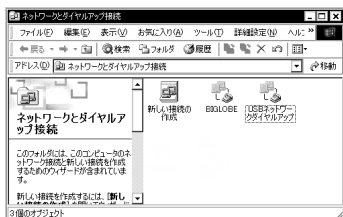
設定が完了したら、USBネットワークを使ってみましょう。

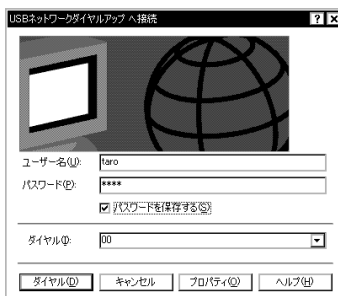
step 1 USBネットワークを開始する

USBネットワーク機能を使うには、クライアントパソコンからダイヤルアップで、サーバーパソコンに接続します。基本的な接続手順はインターネットプロバイダなどに接続する場合と同じです。

1. Windowsの[スタート]ボタンをクリックし、[設定]－[コントロールパネル]の[ネットワークとダイヤルアップ接続]アイコンをダブルクリックする

2. 作成したダイヤルアップアイコンをダブルクリックする

例ではUSBネットワークダイヤルアップをダブルクリックします。

3. ユーザー名とパスワードを入力し、[ダイヤル]ボタンをクリックする

サーバー側の着信接続作成時に登録したユーザー名とパスワードを入力します。
電話番号が次のようになっていることを確認してください。
「00」はUSBポート、「02」はシリアルポートに接続されているサーバーへの発信となります。

4. 接続される

Readyランプがオレンジ色に点灯し、タスクバーに[ダイヤルアップインジケーター]が表示されます。

お知らせ

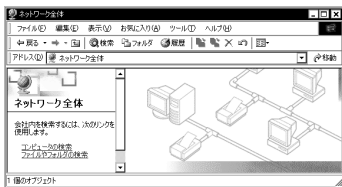
接続すると、サーバー側にもダイヤルアップインジケーターが表示されます。

step 2 共有フォルダを使う

接続後、クライアントパソコンからサーバーパソコンを検索して開くと、共有フォルダを利用できます。

1. デスクトップの[マイネットワーク]アイコンをダブルクリックする

2. [ネットワーク全体]アイコンをダブルクリックする

3. [コンピュータの検索]をクリックする

4. サーバーパソコンのコンピュータ名を入力し、[検索開始]ボタンをクリックする

5. サーバーが検索されたら、パソコンのアイコンをクリックする

6. 共有フォルダや共有プリンタが見える

7. フォルダをダブルクリックする

中のフォルダが見えます。デスクトップ上にコピーしたり、クライアント側で作成したファイルやフォルダをここにコピーすることができます。

step 3 共有プリンタを使う

接続後、サーバーパソコンを検索して開くと、共有プリンタのアイコンが見えます。最初に使用するときは、以下の手順でプリンタをネットワークプリンタとしてインストールします。

1. 「Step2 共有フォルダを使う」の手順1〜6を行う

2. 共有プリンタのアイコンをダブルクリックする

3. [はい]ボタンをクリックする

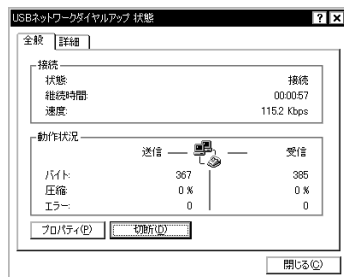
4. [X]ボタンをクリックして閉じる

登録したプリンタは、ローカルプリンタと同様に使うことができます。

step 4 ネットワークを切断する

ダイヤルアップ接続を切断すると、USBネットワークが終了します。Windows2000では、クライアントパソコン、サーバーパソコンどちらからでも切断できます。

1. クライアントパソコン、サーバーパソコンのいずれかで[ダイヤルアップインジケーター]をダブルクリックする

2. [切断]ボタンをクリックする

5 外部から着信可能なダイヤルアップサーバー

USBネットワーク用に構成したサーバーパソコンは、外部からの接続を受け付けるダイヤルアップサーバー（RAS）としても動作します。
ただし、このためには、AtermにINSネット64からの着信ができるように設定されている必要があります。
らくらくアシスタントの「INS回線の電話番号の設定」でUSBポート／シリアルポートに着信する電話番号を設定します。

お願い・・・・・・・・・

- 外部から着信させたくない場合は、着信の設定をしないか、データポートの識別着信を設定してください。
- 回線切断時に、サーバーからシリアルポートを通じて送信されるデータをATコマンドと誤認識して通信速度を変更してしまうことがあります。これを回避するため、AT&Aコマンドで速度固定モードに設定できます。

  AT&An
  n ＝?設定内容表示
  ＝0 常時オートボー検出（初期値）
  ＝1 オートボー検出後に次のオートボー検出するには、ER信号のOFF/ONが必要
  ＝2 本コマンドを発行してきた速度で固定し、オートボーを検出しない
  設定後、AT$Sコマンドで保存してください。

5.Atermのその他の機能

ここではAtermのバージョンアップについて説明します。

1 Atermをバージョンアップする

各種ユーティリティやファームウェア(Atermを動かすソフトウェアのことです)を最新のものにバージョンアップすることによって、Atermに新しい機能を追加したり、場合によってはAtermの動作を改善します。

Windowsの場合 ☞5-3ページ
Macintoshの場合 ☞5-7ページ

お願い・・・・・・・・・

- このバージョンアップはNECが独自に提供するサービスであり、すべての機能のバージョンアップを保証するものではありません。
- バージョンアップには専用のユーティリティ(らくらくバージョンアップ)が動作することが必要です。お客様のご使用状況によってはご利用いただけない場合があります。
- バージョンアップする前に、現状の設定値を保存しておくことをおすすめします(☞『取扱説明書』3-106ページ)。
- バージョンアップ用ソフトウェア入手の際の通信費は、お客さまのご負担となります。
- バージョンアップを行う前にすべての通信を終了させてください。
- バージョンアップを行う前に、バージョンアップで使用しないデータポートのケーブルを抜いてください。複数のデータポートが接続されている場合、ダウンロードに失敗する場合があります。

■ Windows の場合 ■

●ユーティリティ類のバージョンを確認する

1　らくらくアシスタントを起動する

2　メニュー画面の［ユーティリティのファイル情報］ボタンをクリックする

3　インストールされているファイルの一覧が表示される

バージョンや説明を確認できます。

4　［終了］ボタンをクリックする

らくらくアシスタントのメニュー画面に戻ります。

●オンラインバージョンアップ

最新のユーティリティやファームウェアをAtermStationからダウンロードし、インストールやバージョンアップまでの一連の作業を自動的に行います。Windowsのみで動作します。

1.　らくらくアシスタントを起動する

2.　メニュー画面の［オンラインバージョンアップ］ボタンをクリックする

3.　［はい］ボタンをクリックする

4.　［次へ］ボタンをクリックする

5.　インターネットへ接続するための接続先を選択し、［次へ］ボタンをクリックする

6.　以降は画面に従ってバージョンアップする

●ユーティリティを手動でバージョンアップする

最新版の各種ユーティリティをダウンロードし、手動でバージョンアップすることもできます。

1. **AtermStationのメニューから「バージョンアップメニュー」をクリックする**

2. **AtermStationのメニューから「バージョンアップメニュー」で機種とパソコンのOSを選択し、[JUMP!]をクリックする**

3. **ユーティリティをダウンロードし、パソコンに保存する**

4. **ダウンロードしたファイルをダブルクリックする**
   インストールが始まります。詳細は、各ユーティリティのセットアップのページやAtermStaitonの説明をお読みください。

●Atermを手動でバージョンアップする

最新版のファームウェアをダウンロードし、Atermをバージョンアップします。必ず、お使いの機種に合ったファームウェアをダウンロードしてください。

お願い・・・・・・・・・

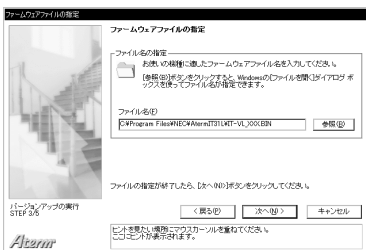
- ファームウェアをバージョンアップするときは、ユーティリティやUSBドライバも最新のものにバージョンアップしてください。
- バージョンアップを開始する前に、パソコンのすべてのアプリケーションと常駐しているアプリケーションを終了させてください。

1. **AtermStationから最新ファームウェアをダウンロードする**
   1) AtermStationのメニューの「バージョンアップメニュー」で機種とOSを選択する
   2) [JUMP!]ボタンをクリックして最新ファームをダウンロードし、パソコンに保存する

2. **バージョンアップを起動する**
   [スタート]ボタンをクリックし、[プログラム]－[AtermIT31L/IT21Lユーティリティ]－[Atermらくらくバージョンアップ]を選択します。
   オートバージョンアップ機能付きの場合は、アイコンをダブルクリックするだけでバージョンアップが開始されます。

3. **[次へ]ボタンをクリックする**

4. [次へ]ボタンをクリックする

5. ダウンロードしたファイルをファイル名に指定し[次へ]ボタンをクリックする

6. [実行]ボタンをクリックする

バージョンアップを開始します。
バージョンアップ中はAtermのPowerランプが赤く点灯します。

7. バージョンアップが終了したら[終了]ボタンをクリックする

次の画面が表示され、AtermのPowerランプが緑色に点灯したら、[終了]ボタンをクリックします。

お願い

- バージョンアップ中は、Atermの電源を切らないでください。
- AtermIT31L用以外のファームウェアを使ってバージョンアップを行うことはできません。無理にバージョンアップを行うと、Atermが動作しなくなります。
- Windows2000をUSBポートに接続していて、着信接続を設定している方は、バージョンアップを始める前に着信接続*アイコンを削除してください。着信接続アイコンがあると、バージョンアップに失敗する場合があります。着信接続アイコンは、バージョンアップ後に再度作成し直してください。

* 着信接続とは、Windows2000で[スタート]－[コントロールパネル]－[ネットワークとダイヤルアップ接続]で「新しい接続の作成」を行うことによって、外部からの着信を受け付けることができるようにする機能です。着信接続を設定すると、[ネットワークとダイヤルアップ接続]フォルダ内に着信接続アイコンが作成されます。

? こんなときは・・・・・

バージョンアップの途中で何らかの障害が発生した場合は、[OK]ボタンをクリックして、もう一度バージョンアップ操作をしてください。それでもうまくいかない場合は、次の操作を行います(強制ローダモード)。

1)Atermに接続しているシリアルケーブル、USBケーブルをすべて抜く

2)ディップスイッチの2～6をONに、それ以外をOFFにする

3)Atermの電源を切って、再び入れ直す

4)Atermのでかけるボタンのランプがオレンジ色で点灯するのを確認する

5)Powerランプが赤点滅するのを確認したら、ディップスイッチを元に戻す

6)Atermの電源を切って、再び入れ直す

7)AtermのPowerランプが赤く点灯し、しばらくすると赤点滅するのを確認する

8)手順1で抜いたケーブルを元通りにつなぐ

9)らくらくバージョンアップをもう一度行う

バージョンアップするファームウェアがないときは、添付CD-ROMの中にあるファームウェアを入れます。

1)添付のCD-ROMをセットし、メインメニュー画面が表示されたら[CD-ROMを終了]をクリックする

2)5-4ページ「Atermを手動でバージョンアップする」の手順2を行う

3)「AtermIT31Lのバージョンアップ情報が取得できません」と画面に表示されるので[OK]ボタンをクリックする

4)「Atermを手動でバージョンアップする」の手順3、4を行う

5)「Atermを手動でバージョンアップする」の手順5でファイル名にCD-ROMの中にあるFWフォルダからbinファイル(ファームウェア)を指定する

6)「Atermを手動でバージョンアップする」の手順6、7を行う

例) CDドライブ名がQでファイル名がIt31l(エル)100.binの場合、

Q:\FW\It31l(エル)100.binとなります

お知らせ・・・・・・・

- Atermの機能がバージョンアップされ、取扱説明書の記載事項に変更・追加が生じた場合、取扱説明書もバージョンアップされ、pdfファイル形式でAtermStationに公開されます。最新の取扱説明書が必要なときは、こちらもあわせてダウンロードしてください。

■ Macintoshの場合 ■

●ユーティリティを手動でバージョンアップする

1. AtermStationのメニューから「バージョンアップメニュー」をクリックする

2. 機種とパソコンOSを選択し[JUMP！]をクリックする

3. Macintosh版をダウンロードし、パソコンに保存し、解凍する

4. 解凍されたフォルダをそのままハードディスクにコピーする

●Atermを手動でバージョンアップする

最新版のファームウェアをダウンロードし、Atermをバージョンアップします。
必ず、お使いの機種に合ったファームウェアをダウンロードしてください。

お願い

・ファームウェアをバージョンアップするときは、ユーティリティやUSBドライバも最新のものにバージョンアップしてください。

・バージョンアップを開始する前に、パソコンのすべてのアプリケーションと常駐しているアプリケーションを終了させてください。

1. AtermStationから最新ファームウェアをダウンロードする

1）AtermStationのメニューの「バージョンアップメニュー」で機種とOSを選択する
2）［JUMP!］ボタンをクリックして最新ファームをダウンロードし、パソコンに保存する

2. ファイルを解凍するをクリックする

ダウンロードしたファイルはhqx形式で圧縮されています。StuffIt Expander(アラジンシステム社)などで解凍してください。

3. ［AtermIT31Lユーティリティ］フォルダの中の［Atermらくらくバージョンアップ］アイコンをダブルクリックする

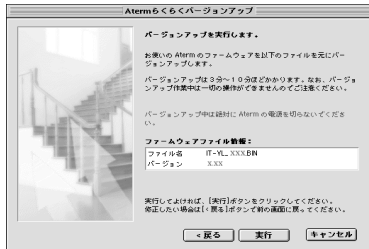
4. [次へ]ボタンをクリックする

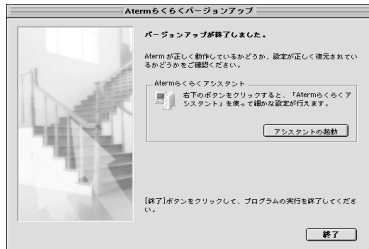
5. [次へ]ボタンをクリックする

(xxxはファームウェアのバージョンです)

6. [参照]ボタンをクリックし、手順2で解凍したファイルを指定する

7. [実行]ボタンをクリックしてバージョンアップを行う

バージョンアップ中はAtermのPowerランプが赤く点灯します。

8. 次の画面が出たら[終了]ボタンをクリックする

AtermのPowerランプが緑色で点灯します。

お願い

- バージョンアップ中は、Atermの電源を切らないでください。
- AtermIT31L用以外のファームウェアを使ってバージョンアップを行うことはできません。無理にバージョンアップを行うと、Atermが動作しなくなります。

こんなときは・・・・・

バージョンアップの途中で何らかの障害が発生した場合は、[OK]ボタンをクリックして、もう一度バージョンアップ操作をしてください。それでもうまくいかない場合は、次の操作を行います(強制ローダモード)。

1)Atermに接続しているシリアルケーブル、USBケーブルをすべて抜く

2)ディップスイッチの2～6をONに、それ以外をOFFにする

3)Atermの電源を切って、再び入れ直す

4)Atermのでかけるボタンのランプがオレンジ色で点灯するのを確認する

5)Powerランプが赤点滅になるのを確認したら、ディップスイッチを元に戻す

6)Atermの電源を切って、再び入れ直す

7)AtermのPowerランプが赤く点灯し、しばらくすると赤点滅するのを確認する

8)手順1で抜いたケーブルを元通りにつなぐ

9)らくらくバージョンアップをもう一度行う

バージョンアップするファームウェアがないときは、添付CD-ROMの中にあるファームウェアを入れます。

1)5-7ページ「Atermを手動でバージョンアップする」の手順3～5を行う

2)添付のCD-ROMをセットする

3)「Atermを手動でバージョンアップする」の手順6で参照ボタンをクリックし、CD-ROMの中にあるFWフォルダからBINファイル(ファームウェア)を指定します。

4)「Atermを手動でバージョンアップする」の手順7、8を行う

お知らせ・・・・・・・

- Atermの機能がバージョンアップされ、取扱説明書の記載事項に変更・追加が生じた場合、取扱説明書もバージョンアップされ、pdfファイル形式でAtermStationに公開されます。最新の取扱説明書が必要なときは、こちらもあわせてダウンロードしてください。